【1C4F212】ボランティア実践	幼児教育学科		1～3年通年	
	1単位	選択	演習	30時間

教員	光井　恵子		
資格・制限等	特になし		
実務家教員			
授業方法	活動参加活動及び振り返りの実施		
到達目標	知識・理解	社会の課題に気付き、適切に判断・行動することができる。	○
	思考・判断・表現	学びの集積を自覚し、統合し活用することができる。	○
	技能	さまざまな価値観に対応できる柔軟性を身につける。	○
	関心・意欲・態度	社会に貢献する使命感と責任感をもって、積極的に行動することができる。	◎

授業内容	地域及び学内で行われる社会活動やボランティア活動に参加をし、振り返りを行う。情報機器を活用して資料を読み取り、客観的な視点を養う。主体的・対話的で深い学びを促進する状態での学修を積極的に行い、ICTを活用した双方向型授業や自主学習支援等も必要に応じて実施する。

観点別評価

評価の観点 / 評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
提出物(ポートフォリオ)	10	10	10	40	70
レポート	10	10	10	-	30
合　計(点)	20	20	20	40	100

評価の特記事項	ポートフォリオの提出とレポートで評価する。
ＩＣＴ活用	Google Classroomを活用し、社会活動に情報等を配信していく。
課題に対するフィードバック	活動後のレポート及び振り返りにより、個別に返答、もしくは全体の場でフィードバックを行う。
テキスト	『なし』
参考書・教材	必要に応じて配布

内容	
実施回	授業内容・目標
1	3年間において、下記のいずれかの社会活動及びボランティア活動に30h以上参加をする。かつ、その活動におけるポートフォリオの提出と総合的にまとめたレポートの提出で単位を認定する。 (1)地域や学内で行われる行事や活動への参加 (2)県や市町村、各種団体が主催する行事へのボランティア参加 (3)保育園等をはじめとする施設等での保育技術の発表

時間外での学修	社会活動演習の種類によって、事前準備・学修が必要になってきます。詳細については、担当教員より連絡があります。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：15時間】
受講学生へのメッセージ	社会活動に積極的に参加することによって、大学で学ぶ知識や技術を統合し、主体的・協同的な姿を備えた保育者になることを目的としています。活動によって担当者が異なりますので、オフィスアワーの時間帯については、アカデミックアドバイザーに尋ねて下さい。

【1C1B104】子ども家庭支援論	幼児教育学科		2年前期	
	2単位	選択	講義	30時間

教員	今村　民子		
資格・制限等	保資必修		
実務家教員	笠松町ことばの教室職員5年		
授業方法	講義が中心になります。グループワークを取り入れた支援方法の演習もあります。		
到達目標	知識・理解	子育て家庭に対する支援の意義・目的を理解する。	◎
	思考・判断・表現	保育の専門性を活かした子ども家庭支援の意義と基本について理解する。	◎
	技能	子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開方法について学ぶ。	○
	関心・意欲・態度	子育て家庭に対する支援体制について理解を深め、子ども家庭支援の現況と課題について検討する。	△
	備考	◎･○･△の記号は、DP･到達目標との結びつきの強さを示しています。	

授業内容	子育て家庭支援の意義や目的を理解し、保育の専門性を活かした子ども家庭支援の必要性や支援の方法について理解します。また子育て家庭に対する現在ある支援の体制について学び、子育て家庭に求められているものは何かを検討していきます。

観点別評価

評価方法＼評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
期末筆記試験	40	-	-	-	40
レポート	-	30	-	-	30
課題への取り組み姿勢	-	-	20	-	20
授業参加態度	-	-	-	10	10
合　計(点)	40	30	20	10	100

評価の特記事項	
ＩＣＴ活用	
課題に対するフィードバック	授業の最初に模範的なレポートを示してコメントします。
テキスト	『実践　子ども家庭支援論』松本園子／永田陽子／福川須美／森和子　ななみ書房ISBN:978-4-903355-78-8
参考書・教材	「保育所保育指針」フレーベル館　「幼稚園教育要領」フレーベル館　「幼保連携型認定こども園教育保育要領」フレーベル館　その他授業中に紹介します。

内容

実施回	授業内容・目標
1	オリエンテーション　子ども家庭支援の意義と必要性：子どもの育ちに対する家族・家庭の役割を理解する。家族図の作成を学ぶ。［課題（復習）］家族図を理解して作成する。（4h）
2	子育て家族・家庭の動向：家族の変化、仕事、居住について、少子化について現状を理解する。課題についてレポートで確認する。［課題（復習）］ﾃｷｽﾄ第1章2を読んで内容を深める。（4h）
3	現代の子育ての困難さ１：地域の喪失、子どもの減少など困難な事項について学び、これからの子ども家庭支援を考える。［課題（復習）］ﾃｷｽﾄ第1章3の内容を読み深める。「子育て」について家族（母や祖母）にインタビューし事後感想を持ちレポートにまとめる。（4h）
4	現代の子育ての困難さ２：各自の「子育て」インタビューをもとにして子育ての困難さや楽しさについて考える。［課題（復習）］親になって子育てすることの楽しさと苦しさについてレポートにまとめてみる。（4h）
5	子ども家庭支援の目的、対象と内容：子育て家庭の危機対応能力のレベルと支援内容について理解する。［課題（復習）］ﾃｷｽﾄ第2章1，2の内容を深める。（4h）
6	保育士に求められる基本的態度1：相談支援の方向性や相手の気持ちを理解する基本的態度をグループワークで学ぶ。［課題（復習）］ﾃｷｽﾄ第2章3の内容を深める。（4h）
7	保育士に求められる基本的態度2：受容や共感的理解についてﾛｰﾙﾌﾟﾚｲを行って理解する。［課題（復習）］内容を記録して事後の反省をレポートにする。（4h）
8	保育士に求められる基本的態度3：相談・支援への心配りについて理解し、KJ法で必要な項目を見つける。［課題（復習）］支援姿勢について自分なりの考えをまとめる。（4h）
9	保育士に求められる基本的態度4：育てにくさや障害のある子どもを持つ家庭への支援方法を理解する。［課題（復習）］保護者に寄り添うとはについてレポートにする。（4h）
10	育児モデルとなる伝承の育児法：伝承されている育児の知恵について理解し育児の中で活かす遊びを学ぶ。［課題（復習）］ﾃｷｽﾄ第2章4の内容を深める。（4h）
11	保育所利用家庭への支援：在園児家庭との関係作りについて必要な支援方法を理解する。［課題（復習）］ﾃｷｽﾄ第3章1，2の内容を読み深める。（4h）
12	地域の子育て家庭への支援：子育てひろばでの支援やスタッフの役割について理解する。［課題（予習）］子育てサロンで学んだことをまとめておく。（4h）
13	父親の子育てへの支援：父親への子育て支援の視点を学び、支援の実際を理解する。［課題（復習）］ﾃｷｽﾄ第3章4の内容を読み深める。（4h）
14	要保護児童家庭への支援：要保護児童家庭の危機対応能力の位置づけを学び、支援方法を理解する。［課題（復習）］ﾃｷｽﾄ第3章5の内容を読み深める。（4h）
15	世界の子育て：先進的な子育て支援を行っている国の特徴を学び支援の方法を理解する。［課題（復習）］ﾃｷｽﾄ第5章の内容を読み深める。（4h）

時間外での学修	子育て家庭の姿について関心を持ちましょう。テレビや新聞などの情報から課題を持ち考えたり調べたりすると力がつきます。【この科目で求める望ましい授業外で総学修時間：60時間】

受講学生へのメッセージ	子育てする家庭や家族に心を寄せることができるよう学んでいきます。子育てを支える連携機関や地域子育て支援など広い視野を持つことを期待します。オフィスアワー：H204 研究室毎週金曜16：20～17：00

【1C1S108】社会的養護Ⅰ	幼児教育学科		2年前期	
	2単位	選択	講義	30時間

教員	川島　民子		
資格・制限等	保資必修		
実務家教員	学校教員25年		
授業方法	講義、ビデオ視聴、授業のテーマに沿ったグループディスカッション等で進めていきます。活動後の振り返りやレポートにより、個別に返答、もしくは全体の場でフィードバックを行います。		
到達目標	知識・理解	児童の社会的養護について知識を深め、現状と課題を理解して説明することができる。	◎
	思考・判断・表現	保育者として様々な場面に対応できる柔軟さを身に付けることができる。	○
	技能	保育者として子どもに対する有効な手立てを講ずるためのアセスメント力を高めることができる。	◎
	関心・意欲・態度	社会的養護児童のアセスメントを通じて、様々な考えや意見をまとめることができる。	○

授業内容	子どもを取り巻く環境が大きく変化をしており、児童虐待の報告件数の増加にも現れています。子どもの権利や児童虐待について考え、社会的養護の制度や内容を理解し、援助の方法を学びます。

観点別評価

評価の観点 / 評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
筆記試験	30	10	20	-	60
レポート	-	5	10	5	20
自己評価	5	-	5	-	10
受講態度	-	-	-	10	10
合　計(点)	35	15	35	15	100

評価の特記事項	３分の１以上欠席した者には定期テスト受験資格がありません
ＩＣＴ活用	
課題に対するフィードバック	活動後の振り返りやレポートにより、個別に返答、もしくは全体の場でフィードバックを行います。
テキスト	授業時に資料を配布します
参考書・教材	幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携こども園教育保育要領。その他授業時に適宜紹介します。

内容

実施回	授業内容・目標
1	オリエンテーション　進め方、評価方法などの説明。授業の概要を知る
2	社会的養護の概要：社会的養護の必要性、専門性について学ぶ。 [課題（準備）]配布された資料をもとに復習し、関連する文献に触れること。（３～６ｈ）
3	児童養護問題および政策の特徴：多様化する児童養護施設の取組から学ぶ [課題（準備）]配布された資料をもとに復習し、関連する文献に触れること。（３～６ｈ）
4	現代社会に暮らす子どもと家庭：日本における子どもと家族の置かれた現状から学ぶ。 [課題（準備）]配布された資料をもとに復習し、関連する文献に触れること。（３～６ｈ）
5	子どもの権利について：人権としての権利、子どもの権利における大人の役割について学ぶ [課題（準備）]配布された資料をもとに復習し、関連する文献に触れること。（３～６ｈ）
6	児童養護の体系：施設養護、家庭的養護、在宅養護（在宅福祉サービス）等の全体像を学ぶ。 [課題（準備）]配布された資料をもとに復習し、関連する文献に触れること。（３～６ｈ）
7	児童養護の制度：児童養護の相談機関を知る。児童相談所、児童家庭相談等について具体的に知る。 [課題（準備）]配布された資料をもとに復習し、関連する文献に触れること。（３～６ｈ）
8	施設養護について（１）児童養護施設について：施設の役割、施設で暮らすこと、施設の問題と課題を知る。 [課題（準備）]配布された資料をもとに復習し、関連する文献に触れること。（３～６ｈ）
9	施設養護について（２）児童養護施設について：当事者の手記より学ぶ。 [課題（準備）]配布された資料をもとに復習し、関連する文献に触れること。（３～６ｈ）
10	施設養護について（３）乳児院、情緒障害児短期治療施設について [課題（準備）]配布された資料をもとに復習し、関連する文献に触れること。（３～６ｈ）
11	家庭的養護について：里親とは、現状と課題を知る。 [課題（準備）]配布された資料をもとに復習し、関連する文献に触れること。（３～６ｈ）
12	施設養護の実際：日常生活および自立支援について学ぶ [課題（準備）]配布された資料をもとに復習し、関連する文献に触れること。（３～６ｈ）
13	社会的養護児童のアセスメント（１） 事例検討を通じて問題を整理し、有効な手立てを導くためのアセスメントを行う。課題に対して小レポートの提出。 [課題（準備）]配布された資料をもとに復習し、関連する文献に触れること。（３～６ｈ）
14	社会的養護児童のアセスメント（２） 事例検討を通じて社会的養護児童の援助の難しさを知り、チームアプローチの大切さを知る。 [課題（準備）]配布された資料をもとに復習し、関連する文献に触れること。（３～６ｈ）
15	社会的養護児童のアセスメント（３） 事例検討を通じてアセスメントを繰り返すことの重要性を学ぶ。 [課題（準備）]配布された資料をもとに復習し、関連する文献に触れること。（３～６ｈ）

時間外での学修	児童養護施設、里親制度に関わる当事者の手記を最低１冊は読んでおいてください。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間数：４５～９０時間】
受講学生へのメッセージ	保育現場には課題をかかえた子どもたちがたくさん在籍しています。事例検討を通して子どもたちの立場にたって考えられる保育者を目指し、一緒に学んでいきましょう。オフィスアワーは研究室にて水曜日の15：10～です。

【1C2S102】子ども家庭支援の心理学	幼児教育学科		2年後期	
	2単位	選択	講義	30時間

教員	大橋　淳子・茂木　七香		
資格・制限等	保資必修		
実務家教員	茂木：病院臨床心理士6年、学生相談室臨床心理士9年、大橋：幼稚園教諭・保育士28年		
授業方法	基本的には講義形式ですが、課題に取り組む、自分自身について振り返って記述する、グループワークに参加する、など能動的な学び（アクティブラーニング）を前提とした方法も取り入れて授業を行います。		
到達目標	知識・理解	子どもの心理的発達を踏まえた援助方法や、子ども家庭支援を適切に行うための知識を修得する。	◎
	思考・判断・表現	子ども家庭を取り巻く社会を理解し、子どもの行為を発達段階に応じて分析・判断し、時代のニーズに合わせた支援を行うために必要な視点を持って考えることができる。	◎
	技能	子ども家庭支援に必要な技術や情報収集能力を持ち、保育実践や社会生活に必要なコミュニケーション能力を身につけようとする。	△
	関心・意欲・態度	社会事象や子ども家庭の置かれている環境に関心を持ち、自らの実践を振り返って研鑽に努めようとする。	○
	備考	◎･○･△の記号は、DP･到達目標との結びつきの強さを示しています。	

授業内容	保育の場で出会う子どもやその家庭への援助を行うためには、目の前の子どもがこれまでどのようなプロセスを辿ってきたか、そしてこの先どのように成長していくようになるかという生涯発達的な視点や知識が必要となります。また、その子どもが育ってきた家庭にはどのような役割や機能があるのか、その家庭は社会の中にどのように位置づけられているか、と全体を俯瞰的に捉える視点も必要です。この授業の前半では人の生涯発達を子ども理解の観点から捉え直し、子どもの精神保健についても学びます(茂木）。後半では、子どもを育てる拠点である家庭・家族とそれを取り巻く社会について学びます（大橋）

観点別評価

評価方法＼評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
授業時間内課題	10	10	10	5	35
授業時間外課題	15	15	-	5	35
レポート(2回)	10	10	-	-	20
受講態度	-	-	-	10	10
合　計(点)	35	35	10	20	100

評価の特記事項	レポート：課題内容はルーブリック(評価基準）とともに提示 授業時間内課題：授業中に記入し提出するワークシートやミニッツペーパー 授業時間外課題：授業終了時に配付し時間外に取り組んで次回授業で提出
ＩＣＴ活用	クラウドサービスsli.doやGoogleフォーム等を用いた意見発表や意見交流の実施
課題に対するフィードバック	フィードバックとして課題やレポートにコメントを返します。
テキスト	『子ども家庭支援の心理学』原信夫・井上美鈴　北樹出版(2,100円)ISBN:978-4-7793-0605-1 教科書は購入して下さい。図表を授業で参照したり余白に補足部分を書き込みしたりして活用します。
参考書・教材	保育所保育指針　幼稚園教育要領　幼保連携型認定こども園教育・保育要領 参考書は授業中に紹介します。補助教材は授業時に適宜配付します。

内容	
実施回	授業内容・目標
1　茂木	第１章　生涯発達とライフサイクル：ライフサイクル論、発達課題、発達領域・発達理論 [課題(復習)]自分のこれまでの人生を各発達段階の発達課題の点から振り返る。(2～4h)
2　茂木	第2章１～３　乳幼児期：愛着の発達、分離－個体化理論 [課題(復習)]新型コロナウィルス感染拡大が乳幼児期の発達に与える影響について考える(2～4h)
3　茂木	第2章4、第3章１　学童期：ピアジェの認知発達、仲間関係の発達、心理社会的問題 [課題(復習)]学童期の子どもが主人公の映画や物語を一つ取り上げ、ブロンフェンブレンナーの図に基づいて捉え直す(2～4h)
4　茂木	第3章2～3　思春期・青年期：認知発達、仲間関係と家族関係　アイデンティティステイタス [課題(復習)]今のアイデンティティステイタスを入学当初と比較してみる(2～4h)
5　茂木	第4章1～3　成人期と中年期：ライフサイクル論　ライフイベント　職業キャリア [課題(復習)]自分のライフコースについて考える(2～4h)
6　茂木	第4章4　老年期：知能の変化　サクセスフルエイジング　介護と死の受容 [課題(復習)]老年期に関連するトピックについて調べる。(4～6h)
7　茂木	第12章～13章　子どもの精神保健：生育環境とその影響　レジリエンス [課題(復習)]子どもの精神保健に影響を与える要因について調べる。(2～4h)
8　茂木	まとめ　発達課題からみた人生の外観　授業時間課題のフィードバック [課題(復習)]レポート課題の作成（4～6h)
9　大橋	家族・家庭の意義と機能（第5章）：家族・家庭の子どもへの影響と機能を支える子育て支援の必要性 [課題(復習)]自分が育ってきた環境と家族の機能を考える。(2～4h)
10　大橋	親子関係・家族関係の理解（第6章）：多様な親子関係、家族ライフサイクルの理解とかかわり方への視点 [課題(復習)]現代の家族・家庭の問題点と愛着行動（アタッチメント）について考える。(2～4h)
11　大橋	子育ての経験と親としての育ち（第7章）：親としての発達とその支援の重要性 課題(復習)]自分の人生曲線を見直してみる。(2～4h)
12　大橋	子どもと家庭の状況（第8章）：現代の多様な家庭状況の特徴と子どもへの影響や課題 [課題(復習)]多様な家庭形態に合わせた支援の実施について考える。(2～4h)
13　大橋	ライフコースと仕事・子育て（第9章）：ライフコース、ワーク・ライフ・バランス [課題(予習)]。結婚・子育てと女性の就業継続の関係について考える(2～4h)
14　大橋	多様な家庭とその理解（第10章）：多様な家庭への支援 [課題(復習)]想定した家庭に合わせた配慮や支援を発表・実演できるように考えをまとめる（2～4h)
15　大橋	特別な配慮を要する子どもと家庭（第11章）：特別な配慮が必要な場合と注意点 [課題(復習)]保育者のニーズや思い、外部機関との連携について考える。（2～4h)

時間外での学修	毎回、授業時間外課題があります。次回授業のワークで用いることもありますので(反転授業）、しっかり取り組んで下さい。【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：60時間】
受講学生へのメッセージ	「目の前の子ども」と「その後ろにある家庭や社会」との両方を捉える視点をこの授業で培って欲しいです。日常生活や実習、本や映画などで見かけた子どもの姿をたくさん思い浮かべながら、授業に参加して下さい。オフィスアワーは、大橋：木曜日12時10分～13時（H205）、茂木：木曜日11時～12時（A306)です。

【1C2S203】子ども理解の理論及び方法	幼児教育学科		2年後期	
	1単位	必修	演習	30時間

教員	名和　孝浩		
資格・制限等	幼免･保資必修		
実務家教員			
授業方法	特にグループワークやロールプレイ形式での事例検討や意見交流を多く行うため、参加態度や発言内容を重視する。		
到達目標	知識・理解	子ども理解に必要な観察的視点や、保育者の援助との関連を説明できる。	○
	思考・判断・表現	子どもの内面理解だけでなく、それを基にした保育者の援助について考えることができる。	◎
	技能	子ども理解のために必要な観察的視点を持ち、内面を読み取ることができる。	◎
	関心・意欲・態度	主体的な学びの姿勢をもち、保育者としての専門性を得られるよう自己研鑽できる。	○
	備考	◎･○･△の記号は、DP･到達目標との結びつきの強さを示しています。	

授業内容	集団討議やロールプレイを通し、子どもを理解するうえでの基本的な考え方やその方法、子どもの理解に基づく保育者の援助や態度の基本について理解する。

観点別評価

評価の観点 / 評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
レポート課題	10	20	20	-	50
受講（演習）態度	10	10	10	-	30
授業時間外課題	-	-	-	20	20
合　計(点)	20	30	30	20	100

評価の特記事項	受講態度は、学修への取組状況、発表やグループワークの参加態度から総合的に評価します。
ＩＣＴ活用	毎授業のコメントや質疑応答、課題の出題はGoogleフォームやClassroomを使用する。
課題に対するフィードバック	授業コメントの共有や助言、質疑応答などをすることでフィードバックする。
テキスト	
参考書・教材	『保育所保育指針解説書（厚生労働省版）平成30年』フレーベル館 『教育要領と保育指針　幼稚園教育要領解説（文部科学省版）平成30年』フレーベル館 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（内閣府版）平成27年』フレーベル館

内容

実施回	授業内容・目標
1	オリエンテーション 〔課題(予習)〕これまでに経験した保育実践を事例として整理し、まとめておく（1h）
2	①「子どもを理解する」とは ②課題の確認 ③ICTを活用したコメントの共有と質疑応答 〔課題(復習)〕子ども理解の視点から自分の保育実践を再考察する（1h）
3	①子どもに対するかかわりと共感的理解 ②課題の確認 ③ICTを活用したコメントの共有と質疑応答 〔課題(復習)〕子ども理解の視点から自分の保育実践を再考察する（1h）
4	①2つの子ども世界が織りなす心の育ち ②課題の確認 ③ICTを活用したコメントの共有と質疑応答 〔課題(復習)〕子どもの葛藤と育ちについてまとめる（1h）
5	①子ども理解のための多角的な視点 ②課題の確認 ③ICTを活用したコメントの共有と質疑応答 〔課題(復習)〕今まで経験した保育事例を多角的に考察する（1h）
6	①肯定的に捉える保育の視点 ②課題の確認 ③ICTを活用したコメントの共有と質疑応答 〔課題(復習)〕子どもを肯定的に捉えるとはどのようなことかまとめる（1h）
7	①子ども同士のかかわり方と関係づくり ②課題の確認 ③ICTを活用したコメントの共有と質疑応答 〔課題(復習)〕子どもの仲間関係の形成についてまとめる（1h）
8	①保育における個と集団の捉え方 ②課題の確認 ③ICTを活用したコメントの共有と質疑応答 〔課題(復習)〕担任保育者としてのクラス集団の捉え方について考える（1h）
9	①個と集団の育ち合いの理解 ②課題の確認 ③ICTを活用したコメントの共有と質疑応答 〔課題(復習)〕クラスにおける個と集団の育ちについて考える（1h）
10	①環境から理解する子どもの姿 ②課題の確認 ③ICTを活用したコメントの共有と質疑応答 〔課題(復習)〕環境を通した保育実践と子どもの育ちについてまとめる（1h）
11	①子どもの表現と内面理解のつながり ②課題の確認 ③ICTを活用したコメントの共有と質疑応答 〔課題(復習)〕絵画表現における子どもの内面理解の視点について考える（1h）

内容	
実施回	授業内容・目標
12	①子どものつまずきを理解する保育 ②課題の確認 ③ICTを活用したコメントの共有と質疑応答 〔課題(復習)〕発達的なつまづきを抱える子どもの理解と保育方法について考える（1h）
13	①子ども理解のワークから学ぶ（１）ロールプレイを通した子ども理解と実践の考察 ②課題の確認 ③ICTを活用したコメントの共有と質疑応答 〔課題(復習)〕ロールプレイによる子ども理解の効果について考える（1h）
14	①子ども理解のワークから学ぶ（２）模擬体験から得る子ども理解 ②課題の確認 ③ICTを活用したコメントの共有と質疑応答 〔課題(復習)〕模擬的に体験した子どもの内面と保育者の援助についてまとめる（1h）
15	①まとめ ②課題の確認 ③ICTを活用したコメントの共有と質疑応答 〔課題(復習)〕本授業での学びを振り返り、今後の保育実践に向けて意見をまとめる（1h）

時間外での学修	これまでに蓄積した実習記録から事例を導けるよう、資料をまとめ、整理しておきましょう。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：15時間】
受講学生へのメッセージ	遊びを中心に子どもが学びを深める保育実践力を理解すること。またグループワークや事例検討を通して、多角的に考察・分析する保育者としてのまなざしを育てましょう。疑問や授業に対する意見などはオフィスアワー（H211、水曜日昼休み）を活用してください。

【1C2S204】教育相談	幼児教育学科		2年後期	
	1単位	必修	演習	30時間

教員	茂木　七香		
資格・制限等	幼免必修		
実務家教員	病院臨床心理士6年・学生相談室臨床心理士10年		
授業方法	基本的には講義形式ですが、ピアヘルピングのエクササイズなど、他の人と協力しながら取り組む課題や、ワークシートに書き込む演習などがあります。		
到達目標	知識・理解	教育現場で出会う対象を専門職として援助するために必要な知識を身につけることができる。	◎
	思考・判断・表現	援助する対象の姿を、その心理状態や理解の度合を考慮して総合的に判断し、関わりに活かそうとする。	◎
	技能	援助する対象を理解し、相手の特性に合ったコミュニケーションを行うことができる。	△
	関心・意欲・態度	新たに得た知識をもとに自己理解や他者理解に努め、周囲の人々との連携に努めようとする。	○
	備考	◎･○･△の記号は、DP･到達目標との結びつきの強さを示しています。	

授業内容	保育や教育、療育などを行う際に、主となる活動を支えるための教育相談という方法があります。この授業ではまず始めに教育相談の歴史や意義を学び、その対象となる相手を理解して適切な援助を行うための基本的な知識や心がまえ、実際に役立つ技法について学びます。特にカウンセリング的アプローチのひとつであるピアヘルピングについて、臨床現場だけでなく日常生活でも実際に使える技法を身につけます。

観点別評価

評価の観点 / 評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
授業時間内課題	10	15	5	5	35
授業時間外課題	15	15	-	5	35
小レポート	-	5	-	-	5
最終レポート	5	5	5	5	20
受講態度	-	-	-	5	5
合　計(点)	30	40	10	20	100

評価の特記事項	レポート：課題内容はルーブリック(評価基準）とともに提示 授業時間内課題：授業中に記入して提出するミニッツペーパーとワークシート 授業時間外課題：授業終了時に配付あるいは告知し時間外に取り組んで次回授業時に提出
ＩＣＴ活用	受講者間の意見交流のため、Slido やGoogleフォーム等を授業内で使用します。質問や要望などはメールでも受け付けます（メールアドレスは授業時に連絡）。
課題に対するフィードバック	授業時間外課題については、次回以降の授業で全体に対してコメントします。13-14回目授業では授業時間外課題を用いた発表を行います。
テキスト	「ピアヘルパーハンドブック（日本教育カウンセラー協会編、図書文化社、1500円　ISBN978-4-8100-1343-6）」に基づいて一部の授業を行うので、なるべく購入して下さい。
参考書・教材	保育所保育指針　幼稚園教育要領　幼保連携型認定こども園教育・保育要領 必要な教材は授業時に配付します。参考書なども適宜紹介します。

内容	
実施回	授業内容・目標
1	教育相談の基礎知識と基本姿勢：専門的なカウンセリングと保育者による教育相談との違い [課題(復習)]カウンセリングと教育相談の違いを整理する(1～2h)
2	カウンセリング概論①：構成的グループエンカウンターの体験 [課題(復習)]授業でのエンカウンター体験を振り返る(1～2h)
3	カウンセリング概論②：構成的グループエンカウンターの解説　カウンセリングの定義と歴史、その必要性 [課題(復習)]構成的グループエンカウンターについての小レポートを作成する(2～4h)
4	カウンセリングスキル①：ピアヘルピングとは　非言語的技法 [課題(復習)]日常場面で使われている非言語的技法を挙げる(1～2h)
5	カウンセリングスキル②：言語的技法(1)　受容・繰返し・明確化 [課題(復習)]日常会話の中から言語的技法を見つける(1～2h)
6	カウンセリングスキル③：言語的技法(2)　支持・質問 [課題(復習)]カウンセリングスキルを用いた教育相談のシナリオを考える。
7	カウンセリングスキル④:対話上の諸問題への対処法 [課題(復習)]日頃の自分の他者への対応を授業内容をもとに振り返る(1～2h)
8	カウンセリングスキル⑤：様々な問題への対処法 [課題(復習)]問題対処の方法についてまとめる(1～2h)
9	ピアヘルピング演習：6回目授業時間外課題で作成したシナリオを用いた反転授業 [課題(復習)]授業での取り組みを振り返る(1～2h)
10	心理療法から学ぶ①：遊びの持つ意味　遊戯療法　[課題(復習)]授業での学びを保育現場に活かす方法を考える(1～2h)
11	心理療法から学ぶ②：箱庭療法　コラージュ療法　　[課題(復習)]授業での学びを保育現場に活かす方法を考える(1～2h)
12	図書館活用授業　教育相談への絵本の利用　　[課題(復習)]絵本をもとにした発表資料を作成する(1～2h)
13	絵本の発表① [課題(復習)]発表で聞いた内容をまとめる(1～2h)
14	絵本の発表② [課題(復習)]発表で聞いた内容をまとめる(1～2h)
15	自分自身のメンタルヘルス　アンガーマネージメント [課題(復習)]最終レポートを作成する（2～4h）

時間外での学修	毎回の授業時間外課題やレポート課題にしっかり取り組んで下さい。次回の授業で用いることもあります(反転授業）。授業で学修した知識や技法を、日常生活での身の回りの人とのコミュニケーションに早速活かしてみて下さい。【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：30時間】

受講学生へのメッセージ	この授業で学ぶピアヘルピングについての学修を活かすために、ピアヘルパー資格試験（12月に実施）にぜひ挑戦してみてください。将来きっと、公私ともにあなたを支える学びの証になります。オフィスアワー：木曜日11時～12時（A306）

【1C2S105】特別支援教育	幼児教育学科		2年後期	
	2単位	必修	講義	30時間

教員	川島　民子		
資格・制限等	幼免必修		
実務家教員	学校教員25年		
授業方法	講義、ビデオ視聴、授業のテーマに沿ったグループディスカッション等で進めていきます。活動後の振り返りやレポートにより、個別に返答、もしくは全体の場でフィードバックを行います。		
到達目標	知識・理解	特別支援教育の理念と概念を理解し、高度な知識と技能を身に付けることができる。	◎
	思考・判断・表現	支援者としての考えと役割を理解し、自分なりの保育者観をもって、問題や課題に向き合い、判断、表現することができる。	○
	技能	幼児児童一人ひとりの考え方、学び方などの多様性を理解し、支援方法を具体的に示すことができる。	◎
	関心・意欲・態度	連携の視点や方法を知り、様々なケースに対応できる柔軟さとコミュニケーション能力を身に付けることができる。	○

授業内容	特別な教育的ニーズを有する子どもに対して、適切な支援が求められています。特別支援教育の意義や障害に関する基礎的な知識を身に付け、教育の現状について学びます。

観点別評価

評価方法＼評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
筆記試験	30	10	20	-	60
発表・レポート	-	5	10	5	20
自己評価	5	-	5	-	10
受講態度	-	-	-	10	10
合　計(点)	35	15	35	15	100

評価の特記事項	３分の１以上欠席した者には定期テスト受験資格がありません。
ＩＣＴ活用	
課題に対するフィードバック	活動後の振り返りやレポートにより、個別に返答、もしくは全体の場でフィードバックを行います。
テキスト	『『子どもと保護者のココロに寄り添う！エピソードで学ぶ！特別支援教育AtoZ』』松村　齋　明治図書(1,860円)ISBN:ISBN-10:4181226107
参考書・教材	特別支援学校　幼稚部教育要領　小学部・中学部学習指導要領。授業時に資料を配布します。

内容	
実施回	授業内容・目標
1	特別支援教育の現状：特別支援教育の意義、特別支援学校・特別支援学級について、校内委員会・特別支援教育コーディネーターの設置、個別の指導計画の作成、学習指導要領の改訂等について学ぶ。 [課題（準備）]配布された資料を当日中に必ず復習し、関連する文献に触れること。（３～６ｈ）
2	視覚障害児の理解：視覚障害の児童生徒の指導を進めるうえで必要な知識（定義、状態像、診断基準等）、教育的対応（教育内容、教育方法、留意事項等）について学ぶ。 [課題（準備）]配布された資料を当日中に必ず復習し、関連する文献に触れること。（３～６ｈ）
3	聴覚障害児の理解：聴覚障害の児童生徒の指導を進めるうえで必要な知識（定義、状態像、診断基準等）、教育的対応（教育内容、教育方法、留意事項等）について学ぶ。 [課題（準備）]配布された資料を当日中に必ず復習し、関連する文献に触れること。（３～６ｈ）
4	知的障害児の理解：知的障害の児童生徒の指導を進めるうえで必要な知識（定義、状態像、診断基準等）、教育的対応（教育内容、教育方法、留意事項等）について学ぶ。 [課題（準備）]配布された資料を当日中に必ず復習し、関連する文献に触れること。（３～６ｈ）
5	肢体不自由児の理解：肢体不自由児の児童生徒の指導を進めるうえで必要な知識（定義、状態像、診断基準等）、教育的対応（教育内容、教育方法、留意事項等）について学ぶ。 [課題（準備）]配布された資料を当日中に必ず復習し、関連する文献に触れること。（３～６ｈ）
6	病弱時の理解：病弱・身体虚弱の児童生徒の指導を進めるうえで必要な知識（定義、状態像、診断基準等）、教育的対応（教育内容、教育方法、留意事項等）について学ぶ。 [課題（準備）]配布された資料を当日中に必ず復習し、関連する文献に触れること。（３～６ｈ）
7	重複障害児の理解：重複障害の児童生徒の指導を進めるうえで必要な知識（定義、状態像、診断基準等）、教育的対応（教育内容、教育方法、留意事項等）について学ぶ。 [課題（準備）]配布された資料を当日中に必ず復習し、関連する文献に触れること。（３～６ｈ）
8	LD児の理解：学習障害の児童生徒の指導を進めるうえで必要な知識（定義、状態像、診断基準等）、教育的対応（教育内容、教育方法、留意事項等）について学ぶ。 [課題（準備）]配布された資料を当日中に必ず復習し、関連する文献に触れること。（３～６ｈ）
9	ADHD児の理解：ADHDの児童生徒の指導を進めるうえで必要な知識（定義、状態像、診断基準等）、教育的対応（教育内容、教育方法、留意事項等）について学ぶ。 [課題（準備）]配布された資料を当日中に必ず復習し、関連する文献に触れること。（３～６ｈ）
10	自閉スペクトラム症児の理解：自閉スペクトラム症の児童生徒の指導を進めるうえで必要な知識（定義、状態像、診断基準等）、教育的対応（教育内容、教育方法、留意事項等）について学ぶ。 [課題（準備）]配布された資料を当日中に必ず復習し、関連する文献に触れること。（３～６ｈ）
11	情緒障害児の理解：情緒障害の児童生徒の指導を進めるうえで必要な知識（定義、状態像、診断基準等）、教育的対応（教育内容、教育方法、留意事項等）について学ぶ。 [課題（準備）]配布された資料を当日中に必ず復習し、関連する文献に触れること。（３～６ｈ）
12	特別支援学校の教育の実際：特別支援学校の教育課程、指導方法、特別支援学校のセンター的機能の実際等を紹介する。 [課題（準備）]配布された資料を当日中に必ず復習し、関連する文献に触れること。（３～６ｈ）
13	特別支援学級の教育の実際：特別支援学校の現状、教育課程の編成、指導の実際等を紹介する。 [課題（準備）]配布された資料を当日中に必ず復習し、関連する文献に触れること。（３～６ｈ）
14	通級による指導の実際：通級による指導の位置付け、教育課程、指導の実際等を紹介する。 [課題（準備）]配布された資料を当日中に必ず復習し、関連する文献に触れること。（３～６ｈ）
15	小学校・中学校等における特別支援教育の実際：通常の学級と通級指導教室の連携、通常の学級における指導体制の整備、校内委員会、研修等の実際を紹介する。 [課題（準備）]配布された資料を当日中に必ず復習し、関連する文献に触れること。（３～６ｈ）

時間外での学修	特別支援教育に関する当事者の著書を数冊熟読し、当事者の思いを理解できる保育者になれるよう心掛けてください。
受講学生へのメッセージ	幼稚園等では特別な教育的ニーズを有する園児児童生徒等の支援は大きな柱になっています。積極的に学校等へ出向いて実際の様子を実感してください。オフィスアワーは研究室にて水曜日の15：10～です。

【1C2S207】子どもの食と栄養	幼児教育学科		2年後期	
	2単位	選択	演習	60時間

教員	後藤　恵子		
資格・制限等	保資必修		
実務家教員			
授業方法	2コマ続きの授業ですので、前半は講義形式、後半は課題への取り組みやグループワークなど能動的な学びを前提とした方法も取り入れて授業を行います。 ICTを活用した自主学習(調理実習など)による課題提出とそのフィードバックなども行います。		
到達目標	知識・理解	子どもの生きる力の基礎を培うための、環境構成や援助の在り方について必要な栄養に関する知識を身につけることができる。	◎
	思考・判断・表現	時代の変化や様々な価値観、地域の特性に対応できる柔軟性を身につけ、子どもの身体状況や栄養状態に応じた支援ができるスキルを修得する。	◎
	技能	食育の基本を理解し、保育の実践や社会生活で必要なコミュニケーション能力を身につけ、職員や保護者などと柔軟に関わり連携することができる。	△
	関心・意欲・態度	社会に貢献する使命感と責任感をもって、様々な課題に対応するため地域や保護者と連携し、積極的に行動することができる。	○

授業内容	栄養に関する知識の修得。乳幼児期の食生活や栄養が生涯を通じた健康と考え、食の大切さを知る。 保育現場で子どもの身体状況や栄養状態に応じた食生活支援ができるよう知識・技能を身につける。

観点別評価

評価の観点 / 評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
筆記試験(最終)	20	10	-	-	30
小レポート	10	10	-	-	20
授業内課題	-	10	10	5	25
授業外課題	10	5	-	-	15
受講態度	-	-	-	10	10
合　計(点)	40	35	10	15	100

評価の特記事項	小レポートとは定期的に行う理解度確認テストです。フィードバックとして次回の授業に解答の解説を行います。授業内課題とは授業中に課題に取り組み提出するワークシートのことです。授業外課題とは自宅で取り組む調理実習及び課題です。実習内容により提出期限を設け、ポータルサイトに提出または次回の授業に提出となります。授業態度は授業への取り組みの様子で評価します。全授業の3分の1以上欠席の場合、最終試験(筆記試験)の受験資格はありません。
ＩＣＴ活用	ICTを活用した自主学習支援(学生ポータルなど)
課題に対するフィードバック	理解度確認テストについてはフィードバックとして回収後、次回以降の授業で解答の解説します。 課題やレポートにはコメントを返します。
テキスト	『「子どもの食と栄養」監修　公益財団法人　児童育成協会』堤　ちはる　藤澤 由美子　中央法規(2,000円)ISBN:978-4-8058-5792-2
参考書・教材	日本人の食事摂取基準、授乳・離乳の支援ガイド、保育所における食事提供ガイドライン 保育所保育指針、幼保連携型認定子ども園教育・保育要領、幼稚園教育要領 必要な資料は随時配布します。

内容	
実施回	授業内容・目標
1	シラバスの説明、オリエンテーション/ 第1講 子どもの健康と食生活の意義(児童福祉施設における食事提供のあり方や支援の必要性を理解し、子どもの健康と食生活の意義について考える) 【課題(復習)】子どもの食生活の現状と課題等授業で学んだ内容をまとめる 演習：朝食欠食について食生活に与える影響、解決方法についてレポートする(3～5h)
2	第6講 乳児期の授乳の意義と食生活(乳汁栄養について理解を深める。特に母乳栄養について、その留意点なども含めて学ぶ) 【課題(復習)】乳汁栄養について授業で学んだ内容をまとめる 演習：乳児用調整粉乳と母乳についてレポートする(3～5h)
3	第7講 乳児期の離乳の意義と食生活(離乳の定義と必要性を理解し、離乳食の進め方、食事の目安、離乳食つくりの留意点なども含めて学ぶ。また、子どもの食べる意欲が育つような関わりについて理解を深める) 【課題(復習)】離乳食の進め方、離乳食つくりの留意点について授業で学んだ内容をまとめる。 演習：手づかみ食べの重要性についてレポートする(3～5h)
4	第8講 幼児期の心身の発達と食生活(成長に欠かせないエネルギー及び栄養素の必要性を学び、幼児期のお弁当・間食の献立作成を通して正しい食生活のあり方を理解する。また、幼児期特有の食行動について保護者・子どもの双方に向けた支援方法を理解する) 【課題(復習)】幼児期に必要な栄養と正しい食生活のあり方について授業で学んだ内容をまとめる。 演習：偏食や遊び食べなどの指導法についてレポートする(3～5h)
5	第3講 栄養素の種類とはたらき(子どもたちに正しい食育を実践するために、また自身が生涯よい食生活を送るために必要な知識を深める) 【課題(復習)】各栄養素の種類や働きについて授業で学んだ内容をまとめる。 演習：栄養素の働きについて正しい食育が実践できるようレポートする(3～5h)
6	【実習】離乳食作成(離乳時期の調理形態に合わせた離乳食実習) 【課題】離乳食作成の記録、手作り離乳食とベビーフードについてレポートする(3～5h)
7	第2講 栄養の基本(なぜ食べることが必要なのか、子どもの食生活で保育者が心得ておくべきことは何かを学ぶ) 【課題(復習)】栄養素の消化・吸収・代謝について、また子どもの栄養の特徴について授業で学んだ内容をまとめる。 演習：食べ物のゆくえについて正しい食育が実践できるようレポートする(3～5h)
8	【実習】幼児期のお弁当作成(3～5歳のお弁当調理実習) 【課題】お弁当作成の記録、栄養についての工夫点や作成時の感想などレポートする(3～5h)
9	第4講 日本人の食生活の目標(日本人の食事摂取基準、食事バランスガイド、食生活指針を理解し、日本人の食生活の課題を知り、改善につなげるとともに、日本人の健康増進のために保育者として貢献できることを探る) 第5講 調理の基本(日本の伝統的な食文化について知識を深める) 【課題(復習)】日本人の食生活や食文化について授業で学んだ内容をまとめる 演習：食事バランスガイドを用いて自分自身の食生活を認識する(3～5h)

内容	
実施回	授業内容・目標
10	第15講 特別な配慮を要する子どもの栄養②(食物アレルギーを正しく理解し、給食での安全な対応ができるように学ぶ。また、誤食によりアレルギー症状が出現した場合の緊急時対応の手順をマニュアルに従って確認する) 【課題(復習)】食物アレルギー対応について授業で学んだ内容をまとめる 演習：アレルギー疾患生活管理指導表をもとに緊急時対応についてレポートする(3～5h)
11	第10講 保育における食育の意義・目的と基本的考え方(食育推進の基本的な考え方について理解する。また、保育所における乳幼児とその保護者に向けた食育の基礎を学ぶ) 【課題(復習)】乳幼児とその保護者に向けた食育について授業で学んだ内容をまとめる 演習：食育活動についてレポートする(3～5h)
12	第11講 食育の内容と計画および評価(食育の取り組みの視点が多様であることを理解し、食育の計画、実施、評価、改善のPDCAサイクルで食育に取り組むことを学ぶ) 【課題(復習)】食育の取り組みについて理解し、計画、実施、評価、改善について授業で学んだ内容をまとめる 演習：保育所における食育の年間計画を作成する(3～5h)
13	第12講 地域や家庭と連携した食育の展開 / 第13講 家庭や児童福祉施設における食事と栄養(食育の取り組みを行ううえで、配慮すべき地域の関係機関との連携、食生活指導・助言および食を通した保護者への支援について学ぶ。家庭における食生活上の問題点や食事の役割について学ぶ) 【課題(復習)】保護者への食の支援について授業で学んだ内容をまとめる 演習：食育だよりや食育媒体を作成する(3～5h)
14	第14講 特別な配慮を要する子どもの栄養①(感染症をはじめとする急性疾患や日常に管理が必要な慢性疾患など個々の症状や疾患について子どもの食に関する特別な配慮について学ぶ) 【課題(復習)】疾病および体調不良の子どもへの対応について授業で学んだ内容をまとめる 演習：脱水症への対応についてレポートする(3～5h)
15	第9講 学童期・思春期の心身の発達と食生活、生涯発達と食生活(学童期・思春期の発達を支える給食から食育の大切さを学ぶ。また、次世代を育てるという視点から、妊娠期の栄養・食生活について理解を深める) 課題(復習)】学童期・思春期の成長と肥満や痩せの問題について授業で学んだ内容をまとめる(3～5h) 演習：紙芝居や食育教材による食育実践発表。総復習プリントまとめ(3～5h)

時間外での学修	講義で学んだことは必ず復習し、分かりやすくまとめておきましょう。 授業で修得した食に関する知識を日常生活の中に取り入れ、実践していきましょう。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：60時間】
受講学生へのメッセージ	生活環境・社会環境が複雑多岐に渡る中、保育現場に対する社会の期待や要望はますます大きくなります。ここで修得した知識を生かせるようしっかり学びましょう。 オフィスアワー： 質問等は毎週金曜日の講義の前後と休憩時間に随時対応します。

【1C3S201】保育内容「健康」の指導法	幼児教育学科		2年前期	
	1単位	必修	演習	30時間

教員	垣添　忠厚		
資格・制限等	幼免･保資必修		
実務家教員	垣添忠厚（特別支援学校18年、小学校5年）		
授業方法	講義を通して保育内容「健康」の習いと内容を理解し、グループ演習を通して健康に関する内容の指導法を構想し実施します。		
到達目標	知識・理解	幼児教育における領域「健康」のねらい及び内容を理解する。	○
	思考・判断・表現	幼児の発達段階に応じた健康を育てるための遊びを構想する力を身につける。	◎
	技能	領域「健康」における保育実践において、具体的な活動の手立て環境構成を考え計画し実践展開することができる。	◎
	関心・意欲・態度	幼児の遊びを意欲的に体験し、実践発表に向けた活動の中で進んで仲間と協力することができる。	○
	備考	◎･○･△の記号は、DP･到達目標との結びつきの強さを示しています。	

授業内容	幼児教育における領域「健康」は、幼児の心とからだの健康な育ちについて扱います。幼稚園教育要領、保育所保育指針等に示される領域「健康」のならいと内容を学習するとともに、乳幼児期の健康教育の基本的な理論の理解を深めます。また、子どもたちが主体的・積極的に健康活動に取り組めるように配慮し、健康的な身体の発達を促す指導法を学び、現場で活かせるより実践的な演習を通して技術を身につけます。

観点別評価

評価の観点 / 評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
受講態度	-	-	10	10	20
レポート	10	15	-	10	35
自己評価	10	15	-	-	25
発表	-	-	20	-	20
合　計(点)	20	30	30	20	100

評価の特記事項	受講態度は毎時間の取り組み姿勢を評価します。レポート、自己評価は毎時の振り返りレポートの内容を基に評価します。発表は、子ども向けの遊びのグループ種目の発表内容を評価します。
ＩＣＴ活用	運動遊び等の手本となる動画教材を活用します。
課題に対するフィードバック	発表を通して、互いにアドバイスができる環境を設定します。
テキスト	『新時代の保育双書　保育の内容健康　第2版』春日晃章　他　株式会社　みらい(2,310円)ISBN:978-4-86015-446-2
参考書・教材	『親子でからだあそび』(著：佐藤弘道、世界文化社）、幼稚園教育要領解説、保育所保育指針、幼児体育、必要に応じて資料を配付します。

内容	
実施回	授業内容・目標
1	（講義）ガイダンス（授業内容の説明）/領域「健康」のとらえ方と目指すもの ・幼児教育における健康のねらいと内容の理論を理解する。 ・幼稚園、保育園等の実習を通して、現場での健康推進のための活動を考える。 ［課題（復習）］健康領域の授業のねらいと内容を把握し、自分の学びの課題を明確にする。（1h～2h）
2	（講義）幼児の発育発達、幼児の生活習慣と健康 ・幼児の「からだ」「こころ」「社会性」「脳」の発達を理解する。 ・健康的な生活リズムの理解と形成について理解する。 ［課題（復習）］幼児の健全な発育発達及び健康的な生活習慣についてレポートにまとめる。（1h～2h）
3	（講義）幼児の健康維持・増進のための身体活動 ・幼児期の運動のあり方を理解する。 ・体力・運動能力の向上、丈夫で健康的な体を育てる運動遊びのあり方を理解する。 ［課題（復習）］幼児期の運動のあり方、丈夫で健康的な体を育てるための運動遊びの効果をレポートにまとめる。（1h～2h）
4	（演習）保育における運動指導と留意点1 ・手具を使った遊びの実践 ・指導計画の書き方を理解する ［課題（復習）］実践を通して学んだ遊び方の展開についてレポートにまとめる。（1h～2h）
5	（演習）保育における運動指導の留意点2 ・伝承遊びの実践 ・指導計画の書き方を理解する ［課題（復習）］実践を通して学んだ遊び方の展開についてレポートにまとめる。（1h～2h）
6	（演習）ちょっとした工夫で広がる運動遊び１ ・遊びの展開と演出を工夫する ・鬼遊びの遊び方を工夫する ［課題（復習）］遊びの工夫についてレポートにまとめる。（1h～2h）
7	（演習）運動会プログラムの工夫１ ・バルーン・リズム運動Ⅰ（基本の動き・創作） ［課題（復習）］バルーンの運動について理解し、運動の効果をレポートにまとめる。（1h～2h）
8	（演習）運動会プログラムの工夫２ ・バルーン・リズム運動Ⅱ（リズムに合わせた展開） ［課題（復習）］バルーンの運動を通した、仲間との協調性についてレポートにまとめる。（1h～2h）
9	（演習）ちょっとした工夫で広がる運動遊び２ ・保育園や幼稚園で実践されている運動遊びを工夫し遊びの楽しみ方を広げる。 ［課題（予習）］実習等で経験した運動遊びをレポートにまとめる。（1h～2h）
10	（演習）からだを使った遊びの創造Ⅰ（計画） ・グループを編成し、からだを動かす目的を決める。 ・発達段階に応じた遊びの計画を話し合って立案する。 ［課題（復習）］授業内容を把握し、子ども祭に向けた計画を完成させる。（1h～2h）

内容	
実施回	授業内容・目標
11	（演習）からだを使った遊びの創造Ⅱ（準備・制作） ・計画に沿って、教材教具を工夫して制作する。 ［課題（復習）］創作内容、作業内容をレポートにまとめる。（1h～2h）
12	（演習）からだを使った遊びの創造Ⅲ（制作） ・計画に沿って、教材教具を工夫して制作する。 ［課題（復習）］創作内容、作業内容をレポートにまとめる。（1h～2h）
13	（演習）からだを使った遊びの創造Ⅳ（仕上げ・リハーサル） ・子どもより楽しめる展開を想定しリハーサルを行う。 ［課題（復習）］改善点をレポートにまとめる。（1h～2h）
14	（演習）からだを使った遊びの創造Ⅴ（発表） ・各グループが創造した遊びのコーナーを互いに体験し相互評価をする。 ［課題（復習）］こども祭の実践に向けた課題を出し、活動の進め方を確認する。（1h～2h）
15	（講義）保育園、幼稚園現場での活動計画の作成 ・こども祭で展開した遊びの成果と課題を参考に、活動計画を作成する。 ［課題（復習）］活動計画を完成させ提出する。（1h～2h）

時間外での学修	発表に向けた準備や練習を十分に行ってください。 【この科目で求める望ましい授業外での総修学時間：30時間】
受講学生へのメッセージ	保育者ということを念頭に置き、自分らしさを素直に表現できるよう全ての授業を積極的に受講してください。 オフィスアワーは研究室（H203：H号館）で毎週金曜日の12：15～12：45です。

【1C3S203】保育内容「環境」の指導法	幼児教育学科		2年後期	
	1単位	必修	演習	30時間

教員	大橋　淳子		
資格・制限等	幼免･保資必修		
実務家教員	大橋：幼稚園教諭・保育士・28年		
授業方法	講義と演習を含めた授業展開で進めていきます。保育者としての資質を高めるために、体験と自分なりに考える力を重視した授業形態をとります。		
到達目標	知識・理解	自然や周囲の様々な環境に好奇心や探求心をもって関わり自らの感性を磨く。	◎
	思考・判断・表現	理想の保育者像を常に描き、保育技術の研鑽に努める。	△
	技能	保育所保育指針・幼稚園教育要領に於ける人的環境・物的環境の役割を理解し、一人一人の発達 に応じた援助や環境構成をすることができる。	◎
	関心・意欲・態度	職業や社会生活で必要なコミュニケーション能力を身につけ、誰とでも幅広く柔軟に関わることができる。	◎
	備考	◎･○･△の記号は、DP･到達目標との結びつきの強さを示しています。	

授業内容	保育所保育指針・幼稚園教育要領の領域「環境」を中心にして、幼児教育のねらい・内容・方法・活動等のあり方を理論と実践の両面から考えていきます。領域「環境」は周囲の様々な環境に、好奇心や探究心をもって関わり、それらを生活に取り入れていこうとする力を養うことをねらいとしています。そのことをふまえ、乳幼児期にふさわしい生活を通して、環境と関わる力が育つ保育の実現を目指します。

観点別評価

評価の観点 / 評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
筆記試験	20	-	-	-	20
レポート・課題	10	10	-	-	20
実技	-	-	30	-	30
受講態度	-	-	-	20	20
提出物	-	-	-	10	10
合　計(点)	30	10	30	30	100

評価の特記事項	全授業の３分の１以上欠席の場合は、筆記試験の受験資格はありません。
ＩＣＴ活用	Googleフォームや学生ポータル等を用いた意見発表や意見交流、課題提出の実施
課題に対するフィードバック	フィードバックとして課題やレポートにコメントを返します。前回のワークシートやレポートの内容をまとめ、次時の授業で振り返ります。
テキスト	『事例で学ぶ保育内容　領域　環境』福元　真由美　萌文書林ISBN:978-4-89347-258-8
参考書・教材	『幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育保育要領』フレーベル館 その他必要に応じて資料配付・紹介します。

内容	
実施回	授業内容・目標
1	幼児教育・保育の基本と環境（第1章）①：幼稚園教育要領等が示す「環境」の意味やねらい、内容の理解 [課題（復習・準備）]自分の幼児期に過ごした環境や印象についてまとめる。(1h)
2	幼児教育・保育の基本と環境（第1章）②：環境を通しての教育(フィールドビンゴ) [課題（復習）] みずきの郷にある自然には、どんなものがあるか分類し、まとめる。(2h)
3	乳幼児の育ちと「環境」（第2章）： 子どもを取り巻く環境と関わりを支える人（室内環境） [課題（復習）]園庭の環境構成図を作成する。(1h)
4	乳児、1～2歳児の世界と環境（第3章）：この時期にふさわしい環境を構成する保育者の役割（戸外遊び） [課題（復習）]園庭の環境構成図を完成させる。(1h)
5	自然に親しみ、植物や生き物に触れる①（第4章）：自然を取り入れた遊び（動植物飼育） [課題（復習）]さつまいも掘りの指導案作成する。(1h)
6	自然に親しみ、植物や生き物に触れる②（第4章）：動植物を育てる（さつまいも掘り） [課題（復習）]さつまいも掘りの反省と指導案を完成する。(1h)
7	自然に親しみ、植物や生き物に触れる③（第4章）：自然を取り入れた、季節感を感じる保育の展開（自然物遊び） [課題（復習）]みずきの郷の自然を調べまとめる。(1h)
8	ものや道具に関わって遊ぶ①（第5章）：身近なものを使った遊び（自然物制作） [課題（復習）]木の実や木の葉を使った作品を完成させる。(1h)
9	ものや道具に関わって遊ぶ②（第5章）：発達に応じたものや道具（素材遊び） [課題（復習）]ものや道具の環境構成についてまとめる。（1h）
10	文字や標識、数量や図形に関心をもつ①（第6章）：文字に親しむ遊び（伝承遊び） [課題（復習）]文字遊びの種類や展開をまとめる。(1h)
11	文字や標識、数量や図形に関心をもつ②（第6章）：数や数字に親しむ遊び（カードゲーム） [課題（復習）]カードゲーム等の種類や展開をまとめる。(1h)
12	文字や標識、数量や図形に関心をもつ③（第6章）：量をはかる、図形に触れる遊び（お正月遊び） [課題（復習）]コマ遊びの展開を考えまとめる。(1h)
13	遊びや生活の情報に興味をもち、地域に親しむ（第7章）：遊びの中での情報（園外保育） [課題（予習）]年齢に合った季節の遊びを調べる。(1h)
14	幼児期の思考力の芽生え（第8章）：子どもの見方や気付きと直接体験（地域との関わり） [課題（復習）]地域と関わりの課題と発展をまとめる。(1h)
15	現代の保育の課題と「環境」（第9章）：多様な経験と環境 [課題（復習）]総合的なまとめの復習をする。(2h)

時間外での学修	日頃から、周囲の子どもの姿、自然や季節の移り変わり等に関心をもち、感性を磨きましょう。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：15時間】
受講学生へのメッセージ	幼児にとって、保育者の環境に関わる姿、「感性」が大切になってきます。環境との関わりを通して、幼児の内面に何が育つのか、何を育てようとしているのか、保育者になったつもりでイメージしてください。オフィスアワーは大橋研究室(H205)で毎週木曜日の昼休みです。

【1C3S205】保育内容「表現」の指導法Ⅰ	幼児教育学科		2年後期	
	1単位	必修	演習	30時間

教員	立崎　博則・光井　恵子		
資格・制限等	幼免･保資必修		
実務家教員			
授業方法	前半は講義を行い、後半は表現活動を中心に授業を展開します。		
到達目標	知識・理解	・幼稚園教育要領における幼稚園教育の基本、各領域のねらい及び内容並びに全体構造を理解している。 ・領域「表現」のねらい及び内容を踏まえ、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解している。 ・幼稚園教育における評価の考え方を理解している。 ・領域「表現」に関わる幼児が経験し身に付けていく内容の関連性及び小学校の教科等とのつながりを理解している。	◎
	思考・判断・表現	・幼児の心情、認識、思考及び動き等を視野に入れた保育の構想の重要性を理解している。 ・指導案の構造を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成することができる。	○
	技能	・領域「表現」の特性及び幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用法を理解し保育構想に活用することができる。	◎
	関心・意欲・態度	・模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身に付けている。 ・領域「表現」の特性に応じた保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができる。	△
	備考	◎･○･△の記号は、DP･到達目標との結びつきの強さを示しています。	

授業内容	保育内容の各領域を総合的に捉え表現活動を中心に乳幼児の実態に応じた主体的・対話的な保育内容の展開や指導法を学ぶ。身体の動きや五感、音やリズム、ものの色や形や質感など様々な表現のツールを用いて表現活動の特徴や面白さを確認し、応用や発展を考え実践を重ね、総合的な表現活動の構想、計画、指導、実践する力を身に付けていく。

観点別評価

評価の観点 / 評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
レポート	10	20	-	-	30
ポートフォリオ	30	-	30	10	70
合　計(点)	40	20	30	10	100

評価の特記事項	
ＩＣＴ活用	Googleフォームなどを使い、作品などのフィードバクを行います。
課題に対するフィードバック	プリントのふりかえりを授業で行います。また、発表時にコメントをします。
テキスト	
参考書・教材	幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育保育要領、必要に応じて資料を配付します

内容

実施回	授業内容・目標
1	領域「表現」のねらい及び内容について、乳幼児の表現する姿と関連付けることを通して理解する。 [課題(準備)]道具、環境、アイディアを整理しておくこと。(1h)
2	幼児の発達や学びの過程を理解し、表現活動と「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を具体的に考え、幼児の表現における評価の考え方を理解する。 [課題(準備)]道具、環境、アイディアを整理しておくこと。(1h)
3	幼児の表現あるいは表出について具合的な場面や事例、映像からその表現の背景や要因、幼児の心情・認識・思考及び動き等を考察する。 [課題(準備)]道具、環境、アイディアを整理しておくこと。(1h)
4	幼児期の表現活動と、小学校の体育、生活、音楽や図画工作その他の様々な教科との学びの連続性について理解し、具体的な実践を考える。 [課題(準備)]道具、環境、アイディアを整理しておくこと。(1h)
5	インクルーシブ保育における表現活動や遊びの可能性について、様々な素材を用いた具体的な事例を通して理解し、保育構想への活用を考える。 [課題(準備)]道具、環境、アイディアを整理しておくこと。(1h)
6	国内外の保育研究や論文やインターネットで発信されている表現活動の実践例から動向や課題を知り、自らの保育構想の向上に取り組む。 [課題(準備)]道具、環境、アイディアを整理しておくこと。(1h)
7	感性的な出会いの豊かな音環境をもとに、五感を使った総合的な表現活動の実践し、活動の特徴や面白さ、留意点などを考える。 [課題(準備)]道具、環境、アイディアを整理しておくこと。(1h)
8	手足、身体を用いた総合的な表現活動を実践し、活動の特徴や面白さ、留意点などを考える。 [課題(準備)]道具、環境、アイディアを整理しておくこと。(1h)
9	自然や自然物を用いた幼児の総合的な表現活動を実践し、素材の特徴や面白さ、留意点などを考える。 [課題(準備)]道具、環境、アイディアを整理しておくこと。(1h)
10	身近な素材を用いた幼児の総合的な表現活動を実践し、素材の特徴や活動の面白さ、留意点などを考える。 [課題(準備)]道具、環境、アイディアを整理しておくこと。(1h)
11	年齢による発達や環境等の様々な要因を考え、表現活動の遊びを広げるための言葉掛けや教材の提示方法、環境を踏まえた教材研究について考える [課題(準備)]道具、環境、アイディアを整理しておくこと。(1h)
12	表現における情報機器及び教材の活用法について事例を通して学び、実際に体験することを通し、保育構想に活用できるアイディアを考える。 [課題(準備)]道具、環境、アイディアを整理しておくこと。(1h)

内容	
実施回	授業内容・目標
13	これまでの学びを踏まえて総合的な表現活動をするために指導案をグループで作成する。 [課題(準備)]道具、環境、アイディアを整理しておくこと。(1h)
14	作成した指導案に沿って模擬保育を行い、その振り返りと教材研究を深める。 [課題(準備)]道具、環境、アイディアを整理しておくこと。(1h)
15	総合的な表現活動の実践を通して、保育における表現活動について考え、自らの保育構想の向上へと繋げていく。 [課題(準備)]道具、環境、アイディアを整理しておくこと。(1h)

時間外での学修	表現活動をするにあたって（準備）道具、環境、アイディアなどを事前に整理し子ども達に伝えたいこと（目的）をもって受講してください。【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間:15時間】
受講学生へのメッセージ	表現を通して子ども達に何を伝えたいか日々考えていきましょう。 オフィスアワー：立崎：（H201）金曜　昼休み、光井：（A307）木曜日　16:10～16:40

【1C3S107】教育方法論	幼児教育学科		2年前期	
	2単位	必修	講義	30時間

教員	伊藤　和典		
資格・制限等	幼免必修		
実務家教員	小中学校教員３７年		
授業方法	基礎的内容の理解を土台として講義を中心にすすめていきますが、必要に応じて適宜グループワークや話し合い活動等を取り入れ、発表を交えて交流して学びを深めることも視野に入れて展開していきます。知識を身につけるだけでなく、自身の捉え方や考え方の形成を目指していきます。		
到達目標	知識・理解	これからの社会を担う子供たちに求められる資質や能力を育成するための保育・教育者に必要な教育の方法や技術、情報機器及び教材の活用について、基本となる知識を理解することができる。	◎
	思考・判断・表現	教育に必要な指導の技術を踏まえて、情報機器活用と活用能力育成を視野に入れながら、適切な教材の作成･活用に関する基礎的な思考力、判断力、表現力などの能力を身につけることができる。	○
	技能	教育の方法、指導や支援の技術、情報機器及び教材の活用に関連する基礎的な技能を身につけることができる。	○
	関心・意欲・態度	教育･保育とその方法に興味や関心を持ち、自己の資質や能力の向上をめざして積極的に学修に取り組むことができる。	○
	備考	◎･○･△の記号は、DP･到達目標との結びつきの強さを示しています。	

授業内容	これからの社会を担う子どもたちに求められる資質・能力を育成するためには、幼児教育・保育に関わる理論的･実践的知識を深め、教育者・保育者としての資質能力の育成を目指していく必要があります。また、これからの教育者・保育者に求められる教育の方法と技術について、教育や保育の実践に結びつくように、ICT及びi教育メディア（情報機器、視聴覚教材）の活用について、知識と実践力を身につけることも視野に入れながら、学んでいきます。

観点別評価

評価の観点 / 評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
筆記試験	40	10	10	-	60
レポート・発表	5	5	10	-	20
自己評価	-	5	-	5	10
受講態度	-	-	-	10	10
合　計(点)	45	20	20	15	100

評価の特記事項	自己評価は学修成果に対する自己の評価、受講態度は学修取り組み・発表・提出等の状況とします。
ＩＣＴ活用	Googleclassroomを積極的に活用して、自己評価（授業後の振り返り）や課題提出（デジタルデータの提出可）を進めるとともに、学内Wi-Fi利用可能端末（タブレットやスマホ）を学修ツールとして積極的に利用します。
課題に対するフィードバック	フィードバックとして、レポート課題にはコメントを添え、提出後の授業内で総評を加えて返却します。
テキスト	ありません
参考書・教材	「幼稚園教育要領解説」(文部科学省)、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(内閣府他)、「保育所保育指針解説」(厚生労働省)、「小学校学習指導要領解説」(文部科学省)、戸江茂博監修､田中卓也･松村齋･小島千恵子編著「幼児教育方法論」(学文社)、大浦賢治・野津直樹編著「実践につながる新しい幼児教育の方法と技術」(ミネルヴァ書房)、垂見直樹・池田竜介編著「幼児教育・保育のための教育方法論」(ミネルヴァ書房)。　　※他に必要な資料は配付します。

内容	
実施回	授業内容・目標
1	オリエンテーション　この授業の目標と内容、教育の方法を学ぶ意義や学び方と心構えなどを理解する。[課題(復習)]「教育・保育」ということについてこれまで学んだことを復習する(2h)
2	教育･保育の方法①　教育・保育方法に関する基礎的理論について理解を深めるとともに、子ども理解とその方法について学ぶ。[課題(復習)]学んだ内容に関連した幼稚園・認定子ども園や保育所等での具体的事例を調べてまとめる。(3h)
3	教育･保育の方法②　保育を構成する基礎的な要件について知識を深め、園における活動と環境、環境構成の具体的方法について理解する。　[課題(復習･発展)]環境構成の具体的方法について、経験した事例に基づいてまとめる(3h)
4	教育・保育の方法③　日本における保育内容と保育の歴史から現代の保育教育への変遷について学ぶ。[課題(復習)]戦前・戦後の日本の保育の歴史から現代の保育への移り変わりについてまとめる(3h)
5	教育・保育の方法④　幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領による教育・保育について学ぶ。子どもの「主体的・対話的な深い学び」を実現するための具体的実践の在り方について、事例から学ぶ。　[課題(復習)]３要領の改訂のポイントを理解し、これから求められる教育・保育についてまとめる。(3h)
6	教育・保育の方法⑤　保育計画の必要性とその計画の立て方について理解し、保育計画と実践での評価の在り方について学ぶ。　[課題(復習)]３要領の改訂のポイントを理解し、これから求められる教育・保育についてまとめる。(3h)
7	中間まとめ　授業外学修の課題も活用し、これまでに学んだ内容を復習しながら課題研究として与えられたテーマについてまとめる。　[課題(復習)]まとめの内容を見直し、不十分な点を復習する。(3h)
8	指導支援の方法①　[課題（復習）]　幼児とのコミュニケーションの図り方について、事例(年齢に応じたコミュニケーション、言葉による伝え合いの育み方)を通して学ぶ。　[課題(復習)]幼児とのコミュニケーションの図り方についてまとめる。(2～３h)
9	指導支援の方法②:　幼保小連携をふまえた教育･保育のあり方(小1プロブレム、幼児期に育みたい資質･能力)について学び、その連携の重要性を理解する。[課題（復習）]　小1プロブレムと教育･保育についてまとめる。(3h)
10	教育メディアの活用①:　教育メディアをとりまく子どもの現状とこれからの保育について、ICTの普及も踏まえて理解する。　[課題（復習）]教育メディアを活用した実践例とこれからメディア活用の方向性についてまとめる。(2h)
11	教育メディアの活用②:　メディア活用に関する保育者としての懸念と、遊具として情報機器(ICT)を活用する方法を実践例から学ぶ。　[課題（復習）]子どもの教育・保育環境に情報機器(ICT)をどう位置付けるとよいかまとめる。(2h)

内容	
実施回	授業内容・目標
12	教育メディアの活用③:　子どもを取り巻く環境の変化とメディアへの依存の危険性について理解し、教育・保育環境のデザインを考えてまとめる。　[課題（復習）]教育メディア活用による子どもへの影響をプラス面マイナス面から考えてこれからの教育・保育の方向性をまとめる。(2h)
13	教育メディアの活用④:　メディア活用を取り入れた指導案の検討・作成（グループワーク）　[課題（復習）]指導構想にメディアを効果的に活用する方法を検討して指導案の作成をする。(4h)
14	教育メディアの活用⑤:　メディア活用を取り入れた指導案の完成・発表（グループワーク）完成した指導案について発表・交流する。教育者･保育者として教育・保育の方法と技術をどうとらえるかについて、振り返りをする。　[課題（予習）]発表交流に向けて、発表内容の検討と発表練習をする。(3h)
15	教育の方法と技術のまとめ:完成した指導案について発表。教育者･保育者として教育・保育の方法と技術をどうとらえるかについて、これまで学修してきたことからまとめる。[課題(復習)]配付資料に基づいて授業全体を振り返り、必要な内容について確実に復習する(4h)

時間外での学修	[課題]は、授業の到達目標達成に必要となります。（　　）の標準学修時間をめどに、積極的に学修をすすめましょう。 【この科目で求める授業外での総学修時間：50時間】
受講学生へのメッセージ	講義を聴くだけでなく、実習の成果も積極的に活かしながら自分の考えも発表して理解を深めてください。オフィスアワーは講義後A301(A号館3F)で受け付けます。質問等があれば、どうぞ。Googleclassroomでのメッセージやメールでも受け付けます。

【1C3S212】障がい児保育Ⅱ	幼児教育学科		2年前期	
	1単位	選択必修	演習	30時間

教員	上杉　晴美	
資格・制限等	保資必修	
実務家教員	「幼稚園教諭23年」「ことばの教室14年」	
授業方法	個々の学生が、自分の調べたいテーマを選択し調べたことをみんなの前で発表する（プレゼンテーション）場を中心に授業の中で展開していきます。積極的に調べわかりやすくまとめることも求められます。資料のまとめ方も工夫が必要です。発表の場ではみんなにわかりやすく伝えることも大事になります。また、聞く立場では何が重要なのか、わからないことは何か、積極的に質問できるようになってほしいです。	
到達目標	知識・理解	障がいについての基礎的な知識を学ぶ。 ◎
	思考・判断・表現	障がい特性や支援についてまとめたり、発表したりする事ができる。 ◎
	技能	障害を持つ子どもへの援助の方法や保育について考える ○
	関心・意欲・態度	積極的に資料を調べ、まとめる事ができる。 ○

授業内容	障がい児保育Ⅱは障がい児保育Ⅰでの学びをふまえ、レポートにまとめたり発表したりすることを通して、障がい理解についてさらに深めるとともに、保育場面での具体的な支援を考えます。

観点別評価

評価の観点 / 評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
筆記試験	15	15	10	-	40
ワークシート・課題提出・発表	15	15	10	-	40
受講態度	-	5	-	15	20
合　計(点)	30	35	20	15	100

評価の特記事項	発表（プレゼンテーション）がメインになりますが、その資料作り及び当日の発表。また、他の学生の発表からの学び（ワークシートにて他者評価等の記述）等から評価します。受講態度は、学修への取り組み状況、ワークシートや提出物の状況などから総合的に評価します。
ＩＣＴ活用	
課題に対するフィードバック	発表に関しては、振り返りカードを用意し各学生がしっかりと自己評価できるようにします。その振り返りカードにコメントするだけでなく、他の学生からの良い発想や建設的な意見などの評価（無記名）もフィードバックすることにより、みんなで共に学ぶという意識が高まり、障がい児保育への学びがより深まっていくと考えます。
テキスト	
参考書・教材	特別支援　教育・保育概論　－特別な配慮を要する子どもの理解と支援　尾野明美他編著（1年次の時「障がい児保育Ⅰ」で使用したテキスト） 保育所保育指針、幼保連携型認定子ども園教育保育要領

内容	
実施回	授業内容・目標
1	オリエンテーション（この講義で大切にしたいこと、授業の進め方、学修評価等について） 「障がい」について考える。 自分の調べたいテーマを考えて選択する（障がい児保育Ⅰでの学びをふまえて考える） ［課題(復習)］障害児保育Ⅰのテキストを振り返り、学修した内容を復習をしておきましょう。(1h-2h)
2	障がい児保育をささえる理念（1） 幼稚園や保育所での障がいをもつ子への指導上の留意点について考える。 ［課題(予習)］幼保連携型認定子ども園教育要領や保育所保育指針から障害を持つ子への留意点を確認しておきましょう。(1-2h)
3	障がい児保育をささえる理念（2） 障害者差別解消法とその考え方や取り組みについて学ぶ【学生によるプレゼンテーション】 ［課題(予習)］　資料や参考書等を元に障害特性について、調べておきましょう。(1-2h)
4	障がいの理解と保育における支援(1) 肢体不自由児の理解と支援について学ぶ。【学生によるプレゼンテーション】 ［課題(予習)］　資料や参考書等を元に障害特性について、調べておきましょう。(1-2h)
5	障がいの理解と保育における支援(2) 知的障がい児の理解と支援について学ぶ。【学生によるプレゼンテーション】 ［課題(予習)］資料や参考書等を元に障害特性について、調べておきましょう。(1-2h)
6	障がいの理解と保育における支援(3)　発達障がいについて学ぶ① 学習障がい（LD)の子どもの理解と支援について学ぶ。【学生によるプレゼンテーション】 ［課題(予習)］資料や参考書等を元に障害特性について、調べておきましょう。(1-2h)
7	障がいの理解と保育における支援(4)　発達障がいについて学ぶ② 自閉症スペクトラム（ASD)の子どもの理解と支援について学ぶ。【学生によるプレゼンテーション】 ［課題(予習)］資料や参考書等を元に障害特性について、調べておきましょう。(1-2h)
8	障がいの理解と保育における支援(5)　発達障がいについて学ぶ③ 注意欠如・多動性障がい（ADHD)の子どもの理解と支援について学ぶ。【学生によるプレゼンテーション】 ［課題(予習)］資料や参考書等を元に障害特性について、　調べておきましょう。(1-2h)
9	障がいの理解と保育における支援(6) 聴覚障がい児の理解と支援について学ぶ。【学生によるプレゼンテーション】 ［課題(予習)］資料や参考書等を元に障害特性について、調べておきましょう。(1-2h)
10	障がいの理解と保育における支援(7) 視覚障がい児の理解と支援について学ぶ。【学生によるプレゼンテーション】 ［課題(予習)］資料や参考書等を元に障害特性について、調べておきましょう。(1-2h)
11	障がいの理解と保育における支援(8) 重症心身障がい児、医療的ケア児の理解と支援について学ぶ。【学生によるプレゼンテーション】 ［課題(予習)］資料や参考書等を元に障害特性について、調べておきましょう。(1-2h)
12	障がいの理解と保育における支援(9) ことばの発達に障がいのある子どもの理解と支援について学ぶ【学生によるプレゼンテーション】 ［課題(予習)］資料や参考書等を元に障害特性について、調べておきましょう。(1-2h)

内容	
実施回	授業内容・目標
13	障がいの理解と保育における支援(10) 　その他の特別な配慮を要する子どもの理解と支援について学ぶ（情緒障がい・選択性緘黙・虐待・貧困・母国語が外国語の場合など）【学生によるプレゼンテーション】 ［課題(予習)］資料や参考書等を元に障害特性について、調べておきましょう。(1-2h)
14	家庭や関係機関との連携 「保護者や家族に対する理解と支援の方法」「小学校等との連携について」学ぶ。 ［課題(予習)］資料や参考書等を元に「保護者・家族支援」「小学校等との連携」について、調べておきましょう。(1-2h)
15	障がい、その他の特別な配慮を要する子どもの保育にかかわる現状と課題 「保健・医療」「福祉・教育」における現状と課題について学ぶ ［課題(予習)］資料や参考書等を元に「保健・医療」「福祉・教育」について、調べておきましょう。(1-2h)

時間外での学修	事前に資料や参考書を読み、自分なりの考えをまとめておきましょう。保育場面での子どもとの関りをイメージしてみましょう。 また、調べたことをまとめて発表する活動（プレゼンテーション）では、声の大きさ、スピード、話し方も気を付けて話しましょう。まとめる資料は、見たり聞いたりする人の立場になってわかりやすく伝わるわるように工夫も必要です。聞く立場では、何が重要なことなのか、わからないことは何か、質問できるようにしましょう。主体的に学ぶことが求められます。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間:15時間】
受講学生へのメッセージ	資料や参考書に目を通して授業に臨むようにして下さい。また、参考となる本や雑誌などを進んで読むようにしましょう。また、実際の保育の場で、子ども達とどのように関わるのかイメージしてみましょう。 オフィスアワーは、講義前後の休み時間に教室にて行います。

【1C3A213】社会的養護Ⅱ	幼児教育学科		2年後期	
	1単位	選択必修	演習	30時間

教員	川島　民子		
資格・制限等	保資必修		
実務家教員	学校教員25年		
授業方法	講義、ビデオ視聴、授業のテーマに沿ったグループディスカッション等で進めていきます。活動後の振り返りやレポートにより、個別に返答、もしくは全体の場でフィードバックを行います。		
到達目標	知識・理解	事例を通して、アセスメントについての深い知識をもち、現状と課題を理解して説明ができる。	◎
	思考・判断・表現	保育者として様々な場面に対応できる柔軟さを身につけることができる。	○
	技能	保育者として子どもに対する有効な手立てを講ずるためのアセスメント力を高めることができる。	◎
	関心・意欲・態度	関係機関との連携を通じで、様々な考えや意見をまとめることができる	○

授業内容	児童への虐待が深刻化しています。その原因として子どもを取り巻く環境が大きく変化をしていることがあげられます。子どもの権利や児童虐待について考え、社会的養護の制度や内容を理解し、事例を通して援助の方法をより踏み込んで学びます。

観点別評価

評価の観点 / 評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
筆記試験	30	10	20	-	60
レポート	-	5	10	5	20
自己評価	5	-	5	-	10
受講態度	-	-	-	10	10
合　計(点)	35	15	35	15	100

評価の特記事項	３分の１以上欠席した者には定期テスト受験資格がありません。
ＩＣＴ活用	
課題に対するフィードバック	活動後の振り返りやレポートにより、個別に返答、もしくは全体の場でフィードバックを行います。
テキスト	授業時に資料を配布します
参考書・教材	必要な参考書・教材は適宜紹介します。

内容	
実施回	授業内容・目標
1	オリエンテーション　進め方、評価方法などの説明。授業の概要を知る。
2	子どもの権利について：人権としての権利、子どもの権利における大人の役割について学ぶ。 [課題（準備）]配布された資料をもとに復習し、関連する文献に触れること。（３～６ｈ）
3	社会的養護の概要：社会的養護の必要性、専門性を学ぶ [課題（準備）]配布された資料をもとに復習し、関連する文献に触れること。（３～６ｈ）
4	児童養護問題および政策の特徴：多様化する児童養護施設の取組から学ぶ。 [課題（準備）]配布された資料をもとに復習し、関連する文献に触れること。（３～６ｈ）
5	里親制度の現状と課題：里親とは、里親になるためには、里親制度の課題等を学ぶ。 [課題（準備）]配布された資料をもとに復習し、関連する文献に触れること。（３～６ｈ）
6	新しい施設養護の理念：児童福祉施設を取り巻く新しい理念、権利擁護につながる第三者評価事業の導入等について学ぶ。 [課題（準備）]配布された資料をもとに復習し、関連する文献に触れること。（３～６ｈ）
7	社会的養護児童のアセスメント（１） 事例検討を通じて問題を整理し、有効な手立てを導くためのアセスメントを行う。課題に対して小レポートの提出。 [課題（準備）]配布された資料をもとに復習し、関連する文献に触れること。（３～６ｈ）
8	社会的養護児童のアセスメント（２） 事例検討を通じて問題を整理し、有効な手立てを導くためのアセスメントを行う。課題に対して小レポートの提出。 [課題（準備）]配布された資料をもとに復習し、関連する文献に触れること。（３～６ｈ）
9	社会的養護児童のアセスメント（３） 事例検討を通じて問題を整理し、有効な手立てを導くためのアセスメントを行う。課題に対して小レポートの提出。 [課題（準備）]配布された資料をもとに復習し、関連する文献に触れること。（３～６ｈ）
10	施設養護のプロセスの理解：入所前後のの援助、施設内のケア（インケア）、退所前後のケア内容等について学ぶ。 [課題（準備）]配布された資料をもとに復習し、関連する文献に触れること。（３～６ｈ）
11	障害児入所施設における基本的な援助・支援：障害をもつ人とインクルージョンについて [課題（準備）]配布された資料をもとに復習し、関連する文献に触れること。（３～６ｈ）
12	施設養護におけるこころの援助（１） こころの援助、子どもとのコミュニケーション等について学ぶ [課題（準備）]配布された資料をもとに復習し、関連する文献に触れること。（３～６ｈ）
13	施設養護におけるこころの援助（２） こころの援助、子どもとのコミュニケーション等について学ぶ [課題（準備）]配布された資料をもとに復習し、関連する文献に触れること。（３～６ｈ）
14	親子関係の援助：親子関係の援助の姿勢、親子関係の調整における保育士の役割等について学ぶ [課題（準備）]配布された資料をもとに復習し、関連する文献に触れること。（３～６ｈ）
15	児童福祉施設で働くということ：援助としての資質を知る。ばーなうとを防ぐために等を学ぶ。 [課題（準備）]配布された資料をもとに復習し、関連する文献に触れること。（３～６ｈ）

時間外での学修	実際に施設の行事等のボランティアに積極的に参加し、見聞を広めてほしいと思います。
受講学生へのメッセージ	授業だけではなく、地域のボランティア等の情報を収集して、積極的に参加することによって、当事者の視点を学ぶ機会ももってほしいと思います。オフィスアワーは研究室にて水曜日の15：10～です。

【1C3S115】保育指導計画の方法	幼児教育学科		2年前期	
	2単位	必修	講義	30時間

教員	名和　孝浩		
資格・制限等	幼免・保資必修		
実務家教員			
授業方法	指導計画作成から評価までの基礎知識についての講義を基にして、実際に指導計画の作成に取り組む。		
到達目標	知識・理解	保育者としての基礎的知識を身につけ、子どもの活動を予想し、それにふさわしい援助を考えた指導計画の作成ができる。	◎
	思考・判断・表現	子どもの姿から実態を把握し、遊びや生活へとつなげることができる。	○
	技能	子どもの動きをとらえ、遊び場や環境の構成、援助を行うために必要となる保育技術の習得をする。	○
	関心・意欲・態度	子どもを取り巻く環境や子どもの人権などに関心をもちながら、自己の実践を振り返り、保育実践力を磨くことができる。	◎
	備考	◎･○･△の記号は、DP･到達目標との結びつきの強さを示しています。	

授業内容	保育における指導計画の考え方・立て方について理解する。実際の指導計画の作成を通して、子どもの実態を捉え、子どもの生活に見通しをもち、保護者に信頼し安心してもらうことを実現するための、保育の方向性を明確にする。

観点別評価

評価の観点 / 評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
レポート	30	20	20	-	70
受講態度	-	-	-	30	30
合　計(点)	30	20	20	30	100

評価の特記事項	レポートは授業内で作成した指導計画などを基に評価をします。受講態度は、学修への取組状況、グループワークや発表などから総合的に評価します。
ＩＣＴ活用	
課題に対するフィードバック	授業コメントの共有や助言、質疑応答などをすることでフィードバックする。 指導計画の添削や助言を行う。
テキスト	
参考書・教材	厚生労働省/著『保育所保育指針解説』フレーベル館 文部科学省/著『幼稚園教育要領解説』フレーベル館 内閣府/著『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館

内容

実施回	授業内容・目標
1	オリエンテーション・保育の展開における指導計画と役割 〔課題（予習）〕自身がこれまで作成した指導計画の振り返り（2h～4h）
2	乳幼児の発達と指導計画との関連 〔課題（予習）〕園での指導計画と保育実践例の収集（2h～4h）
3	乳幼児の遊びと指導計画（課題として収集した保育実践の確認を行う） 〔課題（予習）〕園での指導計画と保育実践例の収集（2h～4h）
4	短期・長期の指導計画の意義とつながり 〔課題（予習）〕指導計画にどのような種類があるか事前に学習しておく（2h～4h）
5	個別の指導計画について 〔課題（予習）〕個別の配慮が必要となる子どもの指導計画について調べる（2h～4h）
6	指導計画の考え方と方法 これまでの課題の確認 〔課題（予習）〕自身がこれまでに作成した指導計画をまとめ、具体的な課題を振り返る（2h～4h）
7	園での実践を踏まえた遊びの考案 〔課題（予習）〕園で行われている具体的な遊びの収集（2h～4h）
8	指導計画（部分）の作成（準備した資料を基に指導計画を作成する） 〔課題（予習）〕指導計画の作成に必要な資料を収集・準備する（3h～4h）
9	振り返りを基にした指導計画の再考 課題の確認 〔課題（予習）〕指導計画の再構成に必要な資料を収集・準備する（2h～4h
10	個別の指導計画の作成（準備した資料を基に指導計画を作成する） 〔課題（予習）〕個別の配慮や援助が必要となる子どもの保育におけるねらいや内容を調べる（3h～4h
11	指導計画（日案）の作成（準備した資料を基に指導計画を作成する） 〔課題（予習）〕1日の保育の流れを調べ、要点をまとめる（2h～4h）
12	週の指導計画の作成（準備した資料を基に指導計画を作成する） 〔課題（予習）〕1週間の保育の流れを調べ、要点をまとめる（2h～4h）
13	年間指導計画の作成（準備した資料を基に指導計画を作成する） 〔課題（予習）〕乳幼児期の各クラスの1年間の様子や発達について調べる（2h～4h）
14	行事における指導計画の作成（準備した資料を基に指導計画を作成する） 課題の確認 〔課題（予習）〕園で行われる行事を調べ、まとめる（2h～4h）
15	まとめ 〔課題（予習）〕保育実践に役立つ指導計画とはどのようなものかまとめる（2h～4h）

時間外での学修	実習先や普段の生活場面から、指導計画についての情報を積極的に得られるようにすること。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：60時間】
受講学生へのメッセージ	よりよい保育を実践するために、指導計画の作成はとても大切です。この授業では文章を書くことが多いですが、その先に保育者としての自己の育ちと、現場に出てからの子どもの育ちが待っていることを励みに取り組んでいきましょう。疑問や授業に対する意見などはオフィスアワー（H211、水曜日昼休み）を活用してください。

【1C3B222】幼児と環境	幼児教育学科		2年前期	
	1単位	必修	演習	30時間

教員	大橋　淳子		
資格・制限等	幼免･保資必修		
実務家教員	大橋：幼稚園教諭・保育士・28年		
授業方法	保育者としての資質を高めるために、体験と自分なりに考える力を重視した授業形態（講義と演習）をとります。		
到達目標	知識・理解	乳幼児期の発達にとって「環境」の意義を理解する。	◎
	思考・判断・表現	理想の保育者像を常に描き、保育技術の研鑽に努める。	◎
	技能	保育所保育指針・幼稚園教育要領等に於ける人的環境・物的環境の役割を理解し、自分なりに制作したり、発表したりすることができる。	○
	関心・意欲・態度	豊かな感性をもち、必要なコミュニケーション能力を身につけ、積極的に課題に取り組むことができる。	○
	備考	◎･○･△の記号は、DP･到達目標との結びつきの強さを示しています。	

授業内容	領域「環境」の指導で必要となる感性を養い、教育内容に関する知識・技能を身に付ける。特に領域「環境」の指導の基礎となる、現代の幼児を取り巻く環境とその現代的課題、幼児と身近な環境との関わりの発達等を学ぶ。

観点別評価

評価方法＼評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
筆記試験	20	20	-	10	50
発表・レポート	10	10	10	-	30
受講態度	-	-	10	10	20
合　計(点)	30	30	20	20	100

評価の特記事項	全授業の３分の１以上欠席の場合は、筆記試験の受験資格はありません。
ＩＣＴ活用	Googleフォームを用いた意見発表や意見交流、課題提出の実施
課題に対するフィードバック	前回のワークシートやレポートの内容をまとめ、次時の授業で振り返ります。
テキスト	『事例で学ぶ保育内容　領域　環境』福元　真由美　萌文書林ISBN:978-4-89347-258-8
参考書・教材	『幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育保育要領』フレーベル館 その他必要に応じて資料配付・紹介します。

内容	
実施回	授業内容・目標
1	授業内容のオリエンテーション：現代社会の乳幼児期を取り巻く環境とその課題① [課題（復習・準備）]自分の幼児期の環境との違いをまとめる。(1h)
2	現代社会の乳幼児期を取り巻く環境とその課題② [課題（復習）]物的環境・人的環境・社会的環境についてまとめる(2h)
3	乳幼児期の発達における環境との関わり① [課題（復習）]乳幼児の環境との関わりを捉える心理的観点についてまとめる(1h)
4	乳幼児期の発達における環境との関わり② [課題（復習）]園における環境作りについてまとめる(1h)
5	乳幼児期・児童期の認知的発達 [課題（復習）]乳幼児と児童の認知的発達の特徴についてまとめる(1h)
6	乳幼児期の物理的、数量・図形との関わり① [課題（復習）]具体的な事象に対する興味・関心、理解をまとめる。(1h)
7	乳幼児期の物理的、数量・図形との関わり② [課題（予習）]身近な素材を用いたおもちゃについて調べる。(1h)
8	乳幼児期の物理的、数量・図形との関わり③ [課題（復習）]身近な素材を用いたおもちゃを完成させる。(1h)
9	乳幼児の自然との関わり① [課題（復習）]生物・自然との関わりにおける具体的な事象をまとめる。(1h)
10	乳幼児の自然との関わり② [課題（復習）]自然体験活動についてまとめる。(1h)
11	乳幼児の標識・文字等との関わり① [課題（復習）]乳幼児を取り巻く標識・文字環境について調べる。(1h)
12	乳幼児の標識・文字等との関わり② [課題（復習）]生活の中の標識・文字探しと分類、作成する。(1h)
13	乳幼児期の情報・施設との関わり① [課題（復習）]乳幼児の生活に関係の深い情報の活用と課題をまとめる。(1h)
14	乳幼児期の情報・施設との関わり② [課題（復習）]子育て支援施設についてまとめる。(1h)
15	乳幼児期の情報・施設との関わり③：施設の教育的意義について [課題（復習）]総合的なまとめの復習をする。(2h)

時間外での学修	日頃から、周囲の子どもの姿、自然や季節の移り変わり等に関心をもち、感性を磨きましょう。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：15時間】
受講学生へのメッセージ	幼児にとって、保育者の環境に関わる姿、「感性」が大切になってきます。環境との関わりを通して、幼児の内面に何が育つのか、何を育てようとしているのか、保育者になったつもりでイメージしてください。オフィスアワーは大橋研究室(H205)で毎週木曜日の昼休みです。

【1C3S2261】幼児と音楽表現Ⅱ	幼児教育学科		2年前期	
	1単位	選択	演習	30時間

教員	光井　恵子・小川　寿実子・春日　有貴江・日比　裕美子・加藤　有子		
資格・制限等	特になし		
実務家教員			
授業方法	クラス授業では、領域「表現」の意義や内容を考え、保育現場での様々な音楽での表現活動の方法を学びながら自身の感性を高めていきます。また表現活動を展開させるための知識技能を個人レッスンで身に付けていきます。		
到達目標	知識・理解	発達段階に合わせた幼児の表現について理解し、その支援の方法を知る。	○
	思考・判断・表現	様々な表現する知識や技能を修得し、かつ自らの感性を高めることに努める。	◎
	技能	様々な表現方法を応用し、幼児の表現活動に展開させることができる。	○
	関心・意欲・態度	理想の保育者像を常に描きながら豊かな感性をもち、積極的に課題に取り組むことができる。	◎
	備考	◎･○･△の記号は、DP･到達目標との結びつきの強さを示しています。	

授業内容	領域「表現」での音楽を用いた活動をするためには、様々な音楽的スキルが必要です。この授業では、クラス授業と個人レッスン行いながら、表現活動する意義を考えとともに技術を学びます。クラス授業では、領域「表現」の意義や内容を考え、保育現場での様々な音楽での表現活動の方法を学びます。個人レッスンでは、表現活動を展開させるための知識技能として童謡の弾き歌いの技術を学ぶことを目的とします。

観点別評価

評価の観点 / 評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
実技試験・発表	-	20	20	-	40
レポート	10	-	-	-	10
ポートフォリオ	10	10	-	-	20
受講態度	-	-	-	30	30
合　計(点)	20	30	20	30	100

評価の特記事項	クラス授業：発表、レポート、ポートフォリオ、受講態度で評価をします。 ピアノ実技：実技試験、ポートフォリオ、受講態度で評価します。 受講態度は、予習・復習も含めた学修への取り組み状況、提出物などから総合的に評価します。3分の1以上欠席した学生には単位を与えません。
ＩＣＴ活用	アプリを活用した表現活動
課題に対するフィードバック	クラス授業：毎回課題の質疑については授業内でフィードバックしていきます。 個人レッスン：毎回授業時に課題の確認を行い、個々に応じた練習方法を示していきます。
テキスト	『改訂　幼稚園教諭・保育士養成課程　幼児のための音楽教育』神原雅之、鈴木恵津子　教育芸術社 ISBN:9784877888220
参考書・教材	幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育保育要領、必要に応じて資料を配付します。

内容

実施回	授業内容・目標
1	オリエンテーション クラス授業：保育現場における領域「表現」の意義を考え、活用する方法を模索する ［課題(復習)］学修した内容の確認 個人レッスン：授業の進め方の説明とコードの復習 ［課題(復習)］レッスン曲の練習 (1～2h)
2	クラス授業：ICTを活用した表現活動①(動画作成) ［課題(復習)］学修した内容の確認 個人レッスン：表現活動を展開させるための知識技能を身に付ける。 ［課題(予習・復習)］学修した内容の確認、レッスン曲の予習・復習 (1～2h)
3	クラス授業：ICTを活用した表現活動②（発表） ［課題(復習)］学修した内容の確認 個人レッスン：表現活動を展開させるための知識技能を身に付ける。 ［課題(予習・復習)］学修した内容の確認、レッスン曲の予習・復習 (1～2h)
4	クラス授業：「幼児の表現方法」を体験的に学ぶ①：絵本を使った身体表現活動　「おおきなかぶ」の読み聞かせと役割分担 ［課題(復習)］学修した内容の確認 個人レッスン：表現活動を展開させるための知識技能を身に付ける。 ［課題(予習・復習)］学修した内容の確認、レッスン曲の予習・復習 (1～2h)
5	クラス授業：「幼児の表現方法」を体験的に学ぶ②：絵本を使った身体表現活動　「おおきなかぶ」グループ練習 ［課題(復習)］学修した内容の確認 個人レッスン：表現活動を展開させるための知識技能を身に付ける。 ［課題(予習・復習)］学修した内容の確認、レッスン曲の予習・復習 (1～2h)
6	クラス授業：「幼児の表現方法」を体験的に学ぶ③：絵本を使った身体表現活動　「おおきなかぶ」発表 ［課題(復習)］自分のパートの練習 個人レッスン：表現活動を展開させるための知識技能を身に付ける。 ［課題(予習・復習)］学修した内容の確認、レッスン曲の予習・復習 (1～2h)
7	クラス授業：「幼児の表現方法」を体験的に学ぶ④：絵本を使った音楽表現活動　「おおきなかぶ」パート分けと個人練習 ［課題(復習)］学修した内容の確認 個人レッスン：表現活動を展開させるための知識技能を身に付ける。 ［課題(予習・復習)］学修した内容の確認、レッスン曲の予習・復習 (1～2h)

内容	
実施回	授業内容・目標
8	クラス授業：「幼児の表現方法」を体験的に学ぶ⑤：絵本を使った音楽表現活動　「おおきなかぶ」個人練習と合奏 ［課題(復習)］学修した内容の確認 個人レッスン：表現活動を展開させるための知識技能を身に付ける。 ［課題(予習・復習)］学修した内容の確認、レッスン曲の予習・復習 （1～2h）
9	クラス授業：「幼児の表現方法」を体験的に学ぶ⑥：絵本を使った身体と音楽の融合「おおきなかぶ」発表 ［課題(復習)］学修した内容の確認 個人レッスン：表現活動を展開させるための知識技能を身に付ける。 ［課題(予習・復習)］学修した内容の確認、レッスン曲の予習・復習 （1～2h）
10	クラス授業：音楽遊びの視点から「学び」を考える①：ミュージックベルを使った表現活動　選曲とパート分け ［課題(復習)］学修した内容の確認 個人レッスン：表現活動を展開させるための知識技能を身に付ける。 ［課題(予習・復習)］学修した内容の確認、レッスン曲の予習・復習 （1～2h）
11	クラス授業：音楽遊びの視点から「学び」を考える②：ミュージックベルを使った表現活動　グループ練習 ［課題(復習)］学修した内容の確認 個人レッスン：表現活動を展開させるための知識技能を身に付ける。 ［課題(予習・復習)］学修した内容の確認、レッスン曲の予習・復習 （1～2h）
12	クラス授業：音楽遊びの視点から「学び」を考える③：ミュージックベルを使った表現活動　発表交流会 ［課題(復習)］学修した内容の確認 個人レッスン：表現活動を展開させるための知識技能を身に付ける。 ［課題(予習・復習)］学修した内容の確認、レッスン曲の予習・復習 （1～2h）
13	クラス授業：音楽遊びの視点から「学び」を考える④：童謡を使った合奏　選曲と編曲、パート分け ［課題(復習)］自分のパートの練習 個人レッスン：表現活動を展開させるための知識技能を身に付ける。 ［課題(予習・復習)］学修した内容の確認、レッスン曲の予習・復習 （1～2h）
14	クラス授業：音楽遊びの視点から「学び」を考える⑤：童謡を使った合奏　　個人練習 ［課題(復習)］自分のパートの練習 個人レッスン：表現活動を展開させるための知識技能を身に付ける。 ［課題(予習・復習)］学修した内容の確認、レッスン曲の予習・復習 （1～2h）
15	クラス授業：音楽遊びの視点から「学び」を考える⑥：童謡を使った合奏　　発表、前期の授業の振り返りとまとめ ［課題(復習)］学修した内容の確認 個人レッスン：実技試験 ［課題(復習)］試験曲の復習と実習で使用する曲の予習 （1～2h）

時間外での学修	保育者として子どもたちを指導するために必要な音楽の基礎力を身に付けていきますので、毎日練習を行い、積極的に予習、復習に取り組み、弾き歌いできるレパートリー曲を増やしてください。 質問等があれば、研究室（A307：A号館3F）へきてください。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間:15時間】
受講学生へのメッセージ	表現活動するにはまずは自分自身が感性を豊かにすることです。常に五感を意識して生活をしましょう。 また、積極的に学ぶ姿勢を最後まで持ち続け、保育技術を高めるための努力をしてください。 オフィスアワーは研究室（A307：A号館3F）で毎週木曜日16:10～16:40です。または各レッスン室で授業終了後に行います。

【1C3S227】幼児と音楽表現III	幼児教育学科		2年後期	
	1単位	選択	演習	30時間

教員	光井　恵子・小川　寿実子・春日　有貴江・加藤　有子・佐々　智美		
資格・制限等	特になし		
実務家教員			
授業方法	クラス授業では、領域「表現」の意義や内容を考え、保育現場での様々な音楽での表現活動の方法を学びながら自身の感性を高めていきます。また表現活動を展開させるための知識技能を個人レッスンで身に付けていきます。		
到達目標	知識・理解	発達段階に合わせた幼児の表現について理解し、その支援の方法を知る。	○
	思考・判断・表現	様々な表現する知識や技能を修得し、かつ自らの感性を高め表現することができる。	◎
	技能	様々な表現方法を応用し、幼児の表現活動に展開させることができる。	○
	関心・意欲・態度	理想の保育者像を常に描きながら豊かな感性をもち、積極的に課題に取り組むことができる。	◎
	備考	◎･○･△の記号は、DP･到達目標との結びつきの強さを示しています。	

授業内容	領域「表現」での音楽を用いた活動をするためには、様々な音楽的スキルが必要です。この授業では、クラス授業と個人レッスン行いながら、表現活動する意義を考えとともに技術を学びます。クラス授業では、領域「表現」の方法を、和太鼓演奏や歌唱を通して学び、個人レッスンでは、童謡の弾き歌いの技術を学ぶことを目的とします。

観点別評価

評価の観点 / 評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
実技試験・発表	-	20	20	-	40
レポート	10	-	-	-	10
ポートフォリオ	10	10	-	-	20
受講態度	-	-	-	30	30
合　計(点)	20	30	20	30	100

評価の特記事項	クラス授業：発表、レポート、ポートフォリオ、受講態度で評価をします。 ピアノ実技：実技試験、ポートフォリオ、受講態度で評価します。 受講態度は、予習・復習も含めた学修への取り組み状況、提出物などから総合的に評価します。3分の1以上欠席した学生には単位を与えません。
ＩＣＴ活用	
課題に対するフィードバック	クラス授業：毎回課題の質疑については授業内でフィードバックしていきます。 個人レッスン：毎回授業時に課題の確認を行い、個々に応じた練習方法を示していきます。
テキスト	『改訂　幼稚園教諭・保育士養成課程　幼児のための音楽教育』神原雅之、鈴木恵津子　教育芸術社 ISBN:9784877888220
参考書・教材	幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育保育要領、必要に応じて資料を配付します。

内容	
実施回	授業内容・目標
1	オリエンテーション クラス授業：リズム演習1①　基礎リズム ［課題(復習)］学修した内容の確認 個人レッスン：授業の進め方の説明とコードの復習 ［課題(復習)］レッスン曲の練習 (1～2h)
2	クラス授業：リズム演習②　付点の音符と休符 ［課題(復習)］学修した内容の確認 個人レッスン：表現活動を展開させるための知識技能を身に付ける。 ［課題(予習・復習)］学修した内容の確認、レッスン曲の予習・復習 (1～2h)
3	クラス授業：リズム演習③　シンコペーションのリズム ［課題(復習)］学修した内容の確認 個人レッスン：表現活動を展開させるための知識技能を身に付ける。 ［課題(予習・復習)］学修した内容の確認、レッスン曲の予習・復習 (1～2h)
4	クラス授業：リズム演習④　様々なリズムパターン ［課題(復習)］学修した内容の確認 個人レッスン：表現活動を展開させるための知識技能を身に付ける。 ［課題(予習・復習)］学修した内容の確認、レッスン曲の予習・復習 (1～2h)
5	クラス授業：和太鼓オリジナル曲の練習　譜読み ［課題(復習)］学修した内容の確認 個人レッスン：表現活動を展開させるための知識技能を身に付ける。 ［課題(予習・復習)］学修した内容の確認、レッスン曲の予習・復習 (1～2h)
6	クラス授業：和太鼓オリジナル曲の練習　打ち込み 個人レッスン：表現活動を展開させるための知識技能を身に付ける。 ［課題(予習・復習)］学修した内容の確認、レッスン曲の予習・復習 (1～2h)
7	クラス授業：和太鼓オリジナル曲の練習　仕上げ ［課題(復習)］学修した内容の確認 個人レッスン：表現活動を展開させるための知識技能を身に付ける。 ［課題(予習・復習)］学修した内容の確認、レッスン曲の予習・復習 (1～2h)

内容	
実施回	授業内容・目標
8	クラス授業：和太鼓オリジナル曲の発表とまとめ ［課題(復習)］学修した内容の確認 個人レッスン：表現活動を展開させるための知識技能を身に付ける。 ［課題(予習・復習)］学修した内容の確認、レッスン曲の予習・復習 （1～2h）
9	クラス授業：正しい発声法を知る ［課題(復習)］学修した内容の確認 個人レッスン：表現活動を展開させるための知識技能を身に付ける。 ［課題(予習・復習)］学修した内容の確認、レッスン曲の予習・復習 （1～2h）
10	クラス授業：発声練習　春の歌を使った歌唱法 ［課題(復習)］学修した内容の確認 個人レッスン：表現活動を展開させるための知識技能を身に付ける。 ［課題(予習・復習)］学修した内容の確認、レッスン曲の予習・復習 （1～2h）
11	クラス授業：発声練習　夏の歌を使った歌唱法 ［課題(復習)］学修した内容の確認 個人レッスン：表現活動を展開させるための知識技能を身に付ける。 ［課題(予習・復習)］学修した内容の確認、レッスン曲の予習・復習 （1～2h）
12	クラス授業：発声練習　秋の歌を使った歌唱法 ［課題(復習)］学修した内容の確認 個人レッスン：表現活動を展開させるための知識技能を身に付ける。 ［課題(予習・復習)］学修した内容の確認、レッスン曲の予習・復習 （1～2h）
13	クラス授業：発声練習　冬の歌を使った歌唱法 ［課題(復習)］学修した内容の確認 個人レッスン：表現活動を展開させるための知識技能を身に付ける。 ［課題(予習・復習)］学修した内容の確認、レッスン曲の予習・復習 （1～2h）
14	クラス授業：発声練習　いろんなの歌を使った歌唱法 ［課題(復習)］学修した内容の確認 個人レッスン：表現活動を展開させるための知識技能を身に付ける。 ［課題(予習・復習)］学修した内容の確認、レッスン曲の予習・復習 （1～2h）
15	クラス授業：発表会とまとめ ［課題(復習)］学修した内容の確認 個人レッスン：実技試験 ［課題(復習)］試験曲の復習と実習で使用する曲の予習 （1～2h）

時間外での学修	保育者として子どもたちを指導するために必要な音楽の基礎力を身に付けていきますので、毎日練習を行い、積極的に予習、復習に取り組み、弾き歌いできるレパートリー曲を増やしてください。 質問等があれば、研究室（A307：A号館3F）へきてください。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間:15時間】
受講学生へのメッセージ	表現活動するにはまずは自分自身が感性を豊かにすることです。常に五感を意識して生活をしましょう。 また、積極的に学ぶ姿勢を最後まで持ち続け、保育技術を高めるための努力をしてください。 オフィスアワーは研究室（A307：A号館3F）で毎週木曜日16:10～16:40です。または各レッスン室で授業終了後に行います。

【1C3S2321】幼児と造形表現Ⅱ	幼児教育学科		2年前期	
	1単位	必修	演習	30時間

教員	立崎　博則		
資格・制限等	幼免必修		
実務家教員			
授業方法	造形ワークショップの体験と、課題となる作品制作を通し、その学びをまとめる。		
到達目標	知識・理解	幼稚園教育において育みたい資質能力を理解し、造形ワークショップを通して子どもの造形の発達段階に即した援助を行うための知識を身につける。	◎
	思考・判断・表現	造形ワークショップでの制作の中で、自分の感じたことや考えたことを自分なりに表現し表現する楽しさを感じるとともに、子どもの表現をどう引き出すかについて思考することができる。	◎
	技能	自らの造形表現の体験から具体的な指導場面を想定して、子ど　もの発達や目的に応じ　た活動とその指導・援助方法を構想する技能を身につける	○
	関心・意欲・態度	予習・復習・準備・片付けを積極的に行う。日々の生活の中で様々な美に対して関心を持ち、自らの好きだと感じる物を増やし、表現を楽しむことができる。	△
	備考	◎･○･△の記号は、DP･到達目標との結びつきの強さを示しています。	

授業内容	造形表現の指導法について、子どもの発達段階について造形ワークショップを実施し段階的に学んでいく。また、発達段階を想定した課題制作を通して、必要な援助について主体的に確認していく。

観点別評価

評価の観点 / 評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
作品	-	20	10	-	30
レポート	20	-	10	-	30
ポートフォリオ	10	20	-	10	40
合　計(点)	30	40	20	10	100

評価の特記事項	授業で説明します。
ＩＣＴ活用	Googleフォームやポートフォリオサイトを使い、作品などのフィードバックを行います。
課題に対するフィードバック	作品鑑賞をしコメントする時間を持ちます。授業内でレポートなどのふりかえりを行います。
テキスト	必要な資料は授業で配布します。
参考書・教材	

内容

実施回	授業内容・目標
1	オリエンテーション　授業説明　クロッキー [課題（準備）]日頃より色や形などに注目し、テレビ・雑誌・ネット等のメディアを見て記録しましょう（0.5～1h)
2	幼児の発達と造形表現　描画の発達段階 [課題（準備）]道具、環境、アイディアを整理しておきましょう。(0.5-1h)
3	幼児の発達と造形表現　（0-2歳頃まで） [課題（準備）]日頃より色や形などに注目し、テレビ・雑誌・ネット等のメディアを見て記録しましょう（0.5～1h)
4	幼児の発達と造形表現　（0-2歳頃まで） [課題（準備）]日頃より色や形などに注目し、テレビ・雑誌・ネット等のメディアを見て記録しましょう（0.5～1h)
5	幼児の発達と造形表現　（0-2歳頃まで） [課題（準備）]道具、環境、アイディアを整理しておきましょう。(0.5-1h)
6	幼児の発達と造形表現　（2-4歳頃まで） [課題（準備）]道具、環境、アイディアを整理しておきましょう。(0.5-1h)
7	幼児の発達と造形表現　（2-4歳頃まで） [課題（準備）]日頃より色や形などに注目し、テレビ・雑誌・ネット等のメディアを見て記録しましょう（0.5～1h)
8	幼児の発達と造形表現　（2-4歳頃まで） [課題（準備）]日頃より色や形などに注目し、テレビ・雑誌・ネット等のメディアを見て記録しましょう（0.5～1h)
9	幼児の発達と造形表現　（4-7歳頃まで） [課題（準備）]道具、環境、アイディアを整理しておきましょう。(0.5-1h)
10	幼児の発達と造形表現　（4-7歳頃まで） [課題（準備）]道具、環境、アイディアを整理しておきましょう。(0.5-1h)
11	幼児の発達と造形表現　（4-7歳頃まで） [課題（準備）]日頃より色や形などに注目し、テレビ・雑誌・ネット等のメディアを見て記録しましょう（0.5～1h)
12	幼児の発達と素材遊び1 [課題（準備）]日頃より色や形などに注目し、テレビ・雑誌・ネット等のメディアを見て記録しましょう（0.5～1h)
13	幼児の発達と素材遊び1 [課題（準備）]道具、環境、アイディアを整理しておきましょう。(0.5-1h)
14	幼児の発達と素材遊び1 （作品③の提出とレポート課題③について） [課題（準備）]道具、環境、アイディアを整理しておきましょう。(0.5-1h)
15	幼児の発達と造形表現　まとめ 自分の制作や活動を振り返る [課題（準備）]日頃より色や形などに注目し、テレビ・雑誌・ネット等のメディアを見て記録しましょう（0.5～1h)

時間外での学修	・日々の生活の中で、アートやデザインについて主体的に興味を持って過ごし、自分の造形表現のヒントになる気づきをまとめてきてください。 ・定期的におりがみ課題を実施します。練習しいつでも披露できるよう準備してください。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間:15時間】
受講学生へのメッセージ	子ども達の「好き」（豊かな感性）を一緒に増やし、子ども達の「やってみたい！」（創造力）を支えることができるよう、造形表現の指導法について向き合ってください。 オフィスアワーは、研究室（H201）にて金曜日昼休みです。

【1C3S233】幼児と運動・遊び	幼児教育学科		2年前期	
	1単位	必修	演習	30時間

教員	垣添　忠厚		
資格・制限等	特になし		
実務家教員	垣添忠厚（特別支援学校18年、小学校5年）		
授業方法	グループ活動の中で協力し合いながら、各テーマに沿って実施します。		
到達目標	知識・理解	幼児の運動遊びを題材とした活動計画の立て方が理解できる。	○
	思考・判断・表現	幼児の基本運動能力が養われるように援助する技術・技能を高めることができる。	◎
	技能	保育者と幼児の両方を演じながら受講することができ、豊かな感性をもち実践に活かすことができる。	◎
	関心・意欲・態度	幼児の運動遊びを十分に体験し、活動の中で仲間と協力することができる。	○
	備考	◎･○･△の記号は、DP･到達目標との結びつきの強さを示しています。	

授業内容	子どもの成長に合った運動や運動遊びを学修します。子どもたちが主体的・積極的に取り組めるように配慮し、子どもの基本運動能力が養われるように導くため、基礎技能の修得や援助方法を学び、現場で活かせるよう技術を身につけます。また、実践力を身につけるため、4/24（日）に実施される岐阜県レクリエーションフェスティバルにスタッフとして参加します。なお、この科目はレクリエーション・インストラクターの資格取得の必須科目となります。

観点別評価

評価の観点 / 評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
受講態度	15	-	-	15	30
レポート	-	15	-	-	15
自己評価	-	15	-	-	15
グループ発表	-	-	20	-	20
指導案	-	-	20	-	20
合　計(点)	15	30	40	15	100

評価の特記事項	受講態度は毎時間の取り組み姿勢を評価します。レポート、自己評価は出席カードに記入する内容を基に評価します。発表は、創作した運動あそびの発表内容を評価します。課題提出は、ノートの内容を評価します。
ＩＣＴ活用	保育技術を高める演習において、オープンな教育リソースを活用します。
課題に対するフィードバック	提出されたレポートの良い視点や考察を学生に紹介します。
テキスト	『ひろみちお兄さんの運動遊び』佐藤弘道　世界文化社ISBN:978-4-418-14715-5
参考書・教材	幼稚園教育要領解説、保育所保育指針、幼児体育、必要に応じて資料を配付します。

内容	
実施回	授業内容・目標
1	ガイダンス（授業内容の説明）/レクリエーション概論 ・心と体を元気にするレクリエーション活動の意義を理解する。 ［課題（復習）］幼児の体操とダンスについて理解し、幼児向けの手本の仕方を考える。（1h～2h）
2	リスクマネジメント(理論) ・子どもとの信頼関係づくりの方法を演習を通して理解する。 ・レクリエーションフェスティバルへのスタッフ参加について理解する。 [課題(復習)]子どもとの信頼関係の方法についてレポートにまとめる。
3	幼児の遊びのモデル・プログラム１：幼児の遊びを体験し、活動計画に沿った展開の仕方を学ぶ。 ・保育園で実践されている運動遊びを参考に、グループで遊びを交流する。 ［課題（復習）］活動計画の立て方についてレポートにまとめる。（1h～2h）
4	幼児の遊びのモデル・プログラム２：幼児の遊びを体験し、活動計画に沿った展開の仕方を学ぶ。 ・保育園で実践されている運動遊びを参考に、グループで遊びを交流する。 ［課題（復習）］活動計画の立て方についてレポートにまとめる。（1h～2h）
5	運動あそびを創造（グループワーク）：グループに分かれ、道具を使った年齢にあった遊びを考える。 ［課題（復習）］これまでに行った運動遊びの中から工夫し、あそびの提案を考える。（1h～2h）
6	創造した運動あそびの計画・立案（グループワーク）：グループで提案する遊びの環境を設定し、遊びの進め方や役割を決める。 ［課題（復習）］遊びをうまく展開するための援助方法についてレポートにまとめる。（1h～2h）
7	運動あそびの環境設定１（グループワーク）：グループで決めた遊びの展開を考えまとめる。 ［課題（復習）］安全への配慮点や援助方法について、レポートにまとめる。（1h～2h）
8	運動あそびの環境設定２（グループワーク）：グループで決めた遊びの展開を考えまとめる。 ［課題（復習）］安全への配慮点や援助方法について、レポートにまとめる。（1h～2h）
9	運動あそびの環境設定３（グループワーク）：グループで決めた遊びの展開を考えまとめる。 ［課題（復習）］安全への配慮点や援助方法について、レポートにまとめる。（1h～2h）
10	運動遊びグループ発表１：各グループの遊びを保育者役と子ども側に分かれて演習し、改善点等を見つける。 ［課題（予習）］事前に環境設定において配慮すべきことを準備する。（1h～2h）
11	運動遊びグループ発表２：各グループの遊びを保育者役と子ども側に分かれて演習し、改善点等を見つける。 ［課題（予習）］事前に環境設定において配慮すべきことを準備する。（1h～2h）
12	指導案の作成：幼稚園での部分実習を想定した運動遊びをテーマした指導案を作成する。 ［課題（復習）］これまでの学びをノートにまとめ、現場実習等で活かす。（1h～2h）
13	4/24（学外実習）　岐阜メモリアルセンター　7/11補講分 信頼関係づくりの方法１ ・岐阜県レクリエーションフェスティバルに参加し、レクリエーション活動を通して子どもたちに遊びの楽しさを伝える。 ［課題（予習）］運営上の自分の役割を理解し、当日に備える。

内容	
実施回	授業内容・目標
14	4/24（学外実習）　岐阜メモリアルセンター　7/18補講分 信頼関係づくりの方法２ ・岐阜県レクリエーションフェスティバルに参加し、レクリエーション活動を通して子どもたちに遊びの楽しさを伝える。 ［課題（復習）］子どもたちが楽しく遊ぶ要素を実践からレポートにまとめる。
15	4/24（学外実習）　岐阜メモリアルセンター　7/25補講分 良好な集団づくりの方法 ・岐阜県レクリエーションフェスティバルに参加し、レクリエーション活動を通して子どもたちに集団で遊ぶ楽しさを伝える。 ［課題（復習）］集団で楽しく遊ぶ要素を実践からレポートにまとめる。

時間外での学修	体調管理に気を配り、毎時間の準備物等の確認をしてください。発表に向けての準備を十分に行ってください。【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：30時間】
受講学生へのメッセージ	保育者ということを念頭に置き、自分らしさを素直に表現できるよう全ての授業を積極的に受講してください。運動のできる服装と体育館シューズを必ず着用すること。 オフィスアワーは研究室（H203：H号館）で毎週金曜日の12：15～12：45です。

【1C4S201】教職演習	幼児教育学科		2年通年	
	1単位	選択	演習	30時間

教員	大橋　淳子・名和　孝浩		
資格・制限等	幼免必修		
実務家教員	大橋：幼稚園教諭、保育士・28年		
授業方法	講義と演習、実技指導等を含めた授業展開で進めていく。保育者としての資質を高めるために、自分なりに考える場面を重視した指導形態をとる。		
到達目標	知識・理解	保育実習の意義と目的を理解し、幼稚園の現状と課題について学びを深めることができる。	○
	思考・判断・表現	豊かな感性と表現力を養い、理想の保育者像を常に描き、研鑽に努めることができる。	○
	技能	幼稚園教育要領に基づいた指導の実際について学び、保育実践力を身に付けることができる。	◎
	関心・意欲・態度	教育実習に向けて保育技術の向上を図ると共に、必要な書類の作成ができる。	◎
	備考	◎･○･△の記号は、DP･到達目標との結びつきの強さを示しています。	

授業内容	実習に先立ち、教育実習の意義と役割を理解し、幼稚園教諭として必要な知識技能を高めるために、幼児教育の実践に向けて次の内容について考察する。(1)必要な教職教養について整理する。(2)教育実習の意義と目的、幼稚園の現状と課題について学ぶ。(3)幼稚園教育要領に基づいた指導の実際について学ぶ。

観点別評価

評価の観点 / 評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
レポート	20	20	-	-	40
実技試験	-	-	30	-	30
受講態度	-	-	-	30	30
合　計(点)	20	20	30	30	100

評価の特記事項	3分の1以上欠席した学生には単位を与えません。
ＩＣＴ活用	
課題に対するフィードバック	フィードバックとしてレポートにコメントを返します。ワークシートの回答の説明を行います。
テキスト	『文部科学省　幼稚園教育要領解説』フレーベル館(259円)ISBN:978-4577814475 『幼稚園・保育所・こども園実習パーフェクトガイド』わかば社(1,512円)ISBN:978-4907270193 1年次購入済み
参考書・教材	保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育保育要領　　フレーベル館 保育者になる人のための実習ガイドブック A to Z―実践できる！ 保育所・施設・幼稚園・認定こども園実習テキスト―

内容	
実施回	授業内容・目標
1	オリエンテーション：幼稚園実習の意義、目的、内容の理解をする。 ［課題（予習）］１年次のテキストを熟読しておくこと。(1H)
2	幼稚園の一日の生活の流れと保育内容の理解：幼稚園と保育所・認定子ども園の違いを理解する。 ［課題（復習）］幼稚園・保育所の違いをレポートにまとめる。(2H)
3	幼稚園・保育所の違いを確認する。 幼児の年齢、季節に適した絵本を調べる。：図書館にて絵本リスト（９月実習分）を作成する。 ［課題（復習）］絵本リストの作成（２月実習分）(2H)
4	幼児の年齢、季節に適した自然遊びを調べる。：学内を探索して自然遊びの教材研究をする。 ［課題（復習）］「自然遊び絵本」を各自作成する。(2H)
5	指導の実際（１）：幼児の心をつかむ自己紹介の仕方を学ぶ。 ［課題（復習）］自己紹介絵本を各自作成し、次回の発表練習をする。(2H)
6	指導の実際（２）：自己紹介絵本を使って幼児の心に寄り添う話し方のポイントをつかんで発表する。 ［課題（復習）］他の人の発表を見て、学んだことを記録しておく。 (1H)
7	指導の実際（３）：日常生活への援助の仕方を学ぶ（朝の出迎え、お帰りの仕方等） ［課題（復習）］他の人の発表を見て、学んだことを記録しておく。(2H)
8	幼児理解：幼児の発達の理解と内面理解について学ぶ ［課題（復習）］参考資料学んだことを、次回、話し合いができるように各自まとめておく。(2H)
9	指導案作成のポイントを理解し、身上書の書き方、実習園でのオリエンテーションの受け方等を身につける。 ［課題（復習）］身上書の下書きを作成する。 (1H)
10	身上書の清書をする。 「指導案」に基づいて部分実習をするということについて学ぶ。 ［課題（予習）］指導案に基づいて授業ができる準備をする。(2H)
11	季節や年齢に応じた指導案の作成について学ぶ。 ［課題（復習）］９月実習に向けて指導案を作成する(1H)
12	実習日誌の書き方と記録のポイント（１）：１日流れの記録、事例・エピソード・考察等の書き方を学ぶ ［課題（復習）］１日の流れの記録についてまとめる(1H)
13	実習日誌の書き方と記録のポイント（２）：部分実習後の記録、実習終了時の記録等の書き方を学ぶ ［課題（復習）］事例またはエピソードの書き方についてまとめる(2H)
14	実習の反省(1) 教育実習の反省をし、次の教育実習に向けて課題を明らかにする。 ［課題（復習）］事後反省シートに記入しておき、個別面談に臨むこと。(1H)
15	実習の反省(2) 教育実習の反省をし、次の実務研修に向けて課題を明らかにする。 ［課題（復習）］事後反省シートに記入しておき、個別面談に臨むこと。(1H)

時間外での学修	保育に関する学修で身につけた知識と技能を復習しておくこと。実習に向けて、絵本や手遊び・集団遊びなどの教材研究と幼児 理解について意欲的に努力しようとすること。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：20時間】
受講学生へのメッセージ	幼稚園教育実習ですぐに役立つように発表の場を多く設ける。積極的に取り組み、自分なりのやり方を身につけてほしい。質問等は大橋（H205）・名和（H211）のオフィスアワーを活用してください。

【1C4A402】幼稚園教育実習Ⅰ	幼児教育学科		2年前期	
	2単位	必修	実習	90時間

教員	大橋　淳子・名和　孝浩		
資格・制限等	幼免必修／GPA並びに既修得科目による制限有り		
実務家教員	大橋:幼稚園教諭、保育士・28年		
授業方法	実習園でのオリエンテーション及び実習園での教育実習を2週間行います。なお、履修において本学または実習園で決められた事項を遵守出来ない場合は、実習を中止することがあります。		
到達目標	知識・理解	幼稚園の生活に参加し一日の流れを把握すると共に、保育を部分的に担当しながら、保育技術を習得する。	◎
	思考・判断・表現	幼児と共に活動をしながら観察し、幼児一人ひとりへの理解を深める。	◎
	技能	幼稚園の教育課程や指導計画を理解し、幼稚園教育について学ぶ。	○
	関心・意欲・態度	幼稚園教諭としての役割を知り、積極的に実習に取り組む。	○
	備考	◎･○･△の記号は、DP･到達目標との結びつきの強さを示しています。	

授業内容	これまでに学んだ知識や身につけた技術を保育現場で体験的に学び、保育実践力を身につけます。 2週間の実習期間中、主に(1)観察を中心とした実習、(2)補助的な参加、部分実習を中心とした実習に取り組みます。

観点別評価

評価の観点 / 評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
実習園の評価	20	20	20	20	80
実習日誌	10	10	-	-	20
合　計(点)	30	30	20	20	100

評価の特記事項	実習園の評価は所定の評価票を基に評価します。提出物は実習園・担当教員に提出するものの両方を含みます。
ＩＣＴ活用	
課題に対するフィードバック	フィードバックとして振り返りシート・実習日誌をもとに面談を行います。
テキスト	ありません
参考書・教材	『実習の手引』 『幼稚園・保育所実習・こども園パーフェクトガイド』わかば社 『幼稚園教育要領解説』フレーベル館 『幼保連携型認定こども園教育･保育要領』フレーベル館

内容	
実施回	授業内容・目標
1～15	第１回　　実習園での オリエンテーション 第２回～第８回 幼稚園で教育実習　（１週目） （１）観察を中心とした実習 ・実習園の概要を知る ・園児と共に活動しながら観察し、幼児理解に努める。 ・幼稚園における保育の資料を収集し、記録をとる。 ・安全に対する配慮、環境整備、清掃の仕方を知る。 第９回～第１５回 幼稚園で教育実習　（２週目） （２）補助的な参加・部分実習を中心とした実習 ・指導教員の補助的役割で保育に参加し、一日の流れを理解する。 ・幼稚園の教育課程・指導計画を理解する。 ・保育を部分的に担当しながら保育技術を習得する。 ・さまざまな幼児とコミュニケーションをとり、一人ひとりの発達への理解を深める。 ・部分的な指導計画を作成し、それを実践して反省し、課題をつかむ。 ・園行事に参加し、行事のあり方について考える。 ・まとめを行い、今後の課題を見つける。 ・保育者や保護者と積極的にコミュニケーションをとり、保護者支援の仕方を学ぶ。

時間外での学修	・様々な保育技術を現場で生かせるように制作物の準備、ピアノの練習等を進めておきましょう。 ・実習記録をその日の内に記録・整理し、翌日の計画をたてましょう。 ・部分実習の指導案も計画的に作成し、担当の教員の指導を仰ぎましょう
受講学生へのメッセージ	実習には体力が必要です。日頃から体調に留意し、自己管理を怠らず、実習を意欲的に取り組みましょう。質問等は大橋（H205）・名和（H211）のオフィスアワーを活用してください。

【1C4A403】幼稚園教育実習Ⅱ	幼児教育学科		2年後期	
	2単位	選択	実習	90時間

教員	大橋　淳子・名和　孝浩		
資格・制限等	幼免必修／GPA並びに既修得科目による制限有り		
実務家教員	大橋：幼稚園教諭、保育士・28年		
授業方法	実習園でのオリエンテーション及び実習園での教育実習を２週間行います。なお、履修において本学または実習園で決められた事項を遵守出来ない場合は、実習を中止することがあります。		
到達目標	知識・理解	幼稚園の全体計画に即して部分的な指導計画を作成し、その実践を通して課題を掴み、保育技術を習得する。	◎
	思考・判断・表現	幼児一人ひとりの発達を理解し、それに応じた援助の仕方を学ぶ。	○
	技能	幼稚園の教育課程や指導計画を理解し、幼稚園教育についての学びを深める。	◎
	関心・意欲・態度	幼稚園教諭としての役割を知り、保育者や保護者、地域の方と積極的に関わり、実習に取り組む。	○
	備考	◎･○･△の記号は、DP･到達目標との結びつきの強さを示しています。	

授業内容	これまでに学んだ知識や身につけた技術を保育現場で体験的に学び、保育実践力を身につけます。 ２週間の実習期間中、主に(1)補助的な参加を中心、(2)部分的なまたは、一日主担当とした実習に取り組みます。

観点別評価

評価の観点 / 評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
実習園の評価	20	20	20	20	80
実習日誌	10	-	10	-	20
合　計(点)	30	20	30	20	100

評価の特記事項	実習園の評価は所定の評価票を基に評価します。提出物は実習園・担当教員に提出するものの両方を含みます。
ＩＣＴ活用	
課題に対するフィードバック	フィードバックとして振り返りシート・実習日誌をもとに面談を行います。
テキスト	なし
参考書・教材	『実習の手引』 『幼稚園・保育所実習・こども園パーフェクトガイド』わかば社 『幼稚園教育要領解説』フレーベル館 『幼保連携型認定こども園教育･保育要領』フレーベル館

内容	
実施回	授業内容・目標
1～15	第１回　　実習園での オリエンテーション 第２回～第８回　幼稚園で教育実習　（１週目） （１）参加を中心とした実習 ・実習園のようすを全体的に理解する。 ・幼児への理解を深め、一人ひとりに応じた援助の方法を見つける。 ・実習園の指導計画を理解し、焦点化した記録をとるようにする。 ・保護者や地域社会との連携のあり方について理解する。 ・自分の課題とテーマについて理解し、その克服と解明に努める。 第９回～第１５回　幼稚園で教育実習　（２週目） （２）部分・責任実習を中心とした実習 ・指導教員の保育内容や、環境構成と援助のあり方を身につけるように努める。 ・幼稚園の全体計画に即して一日の指導計画、もしくは部分的な指導計画を作成し、　その実践を通して課題を掴む。 ・一人ひとりの幼児の発達について理解し、個に応じた指導や援助の方法を学びとし、実践する。 ・幼稚園教諭に求められる資質・能力を理解し、そこから今後の課題を掴む。 ・保育者や保護者、地域の方と積極的にコミュニケーションをとり、子育て支援者としての資質を身につける。

時間外での学修	・様々な保育技術を現場で生かせるように制作物の準備、ピアノの練習等を進めておきましょう。 ・実習記録をその日の内に記録・整理し、翌日の計画をたてましょう。 ・部分実習の指導案も計画的に作成し、担当の教員の指導を仰ぎましょう
受講学生へのメッセージ	実習には体力が必要です。日頃から体調に留意し、自己管理を怠りなく、意欲的に取り組みましょう。 質問等は大橋（H205)・名和（H211）のオフィスアワーを活用してください。

【1C4A408】保育実習Ⅱ	幼児教育学科		2年前期	
	2単位	選択	実習	90時間

教員	名和　孝浩・大橋　淳子		
資格・制限等	保資選択必修／GPA並びに既修得科目による制限有り		
実務家教員	大橋：幼稚園教諭、保育士・28年		
授業方法	保育実習園でのオリエンテーション及び実習園での保育実習を２週間行います。なお、保育実習を履修する際、本学または、実習園で決められた事項を遵守できない場合は、実習を中止することがあります。		
到達目標	知識・理解	保育の理解を深め、保護者や地域社会との連携のありかたについて学ぶ。	○
	思考・判断・表現	乳幼児一人ひとりの発達を理解し、個に応じた援助の仕方を学ぶ。	○
	技能	全体計画に即して一日もしくは部分的な指導計画を作成、実践し、保育技術を学ぶ。	○
	関心・意欲・態度	保育の理解を深め、乳幼児一人ひとりの理解を深めると共に集団としても捉えることができる。	○
	備考	◎･○･△の記号は、DP･到達目標との結びつきの強さを示しています。	

授業内容	保育所保育を実際に実践し、保育士として必要な資質・能力・技術を習得する。家庭と地域の生活実態に触れて、子ども家庭福祉ニーズに対する理解力、判断力を養うとともに、子育て支援をするために必要とされる能力を養う。

観点別評価

評価の観点 / 評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
実習日誌	-	25	-	-	25
実習園の評価	25	-	25	25	75
合　計(点)	25	25	25	25	100

評価の特記事項	実習園の評価は所定の評価票を基に評価します。
ＩＣＴ活用	
課題に対するフィードバック	実習園からの評価に基づいた実習課題のフィードバックを行う。
テキスト	『保育者になる人のための実習ガイドブック A to Z―実践できる！ 保育所・施設・幼稚園・認定こども園実習テキスト―』【監修】名須川 知子【編著】田中 卓也・松村　齋・小島 千恵子・岡野 聡子・中澤 幸子　萌文書林(1,980円)ISBN:978-4-89347-360-8 ありません。
参考書・教材	『実習の手引』 『幼稚園・保育所実習・こども園パーフェクトガイド』わかば社 『保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育保育要領』

内容	
実施回	授業内容・目標
1～15	第１回　　実習園での オリエンテーション 第２回－第８回 保育所での保育実習　（１週目） （１）参加を中心とした実習 ・実習園の様子を全体的に理解する。 ・乳幼児への理解を深め、一人ひとりに応じた援助の方法を見つける。 ・実習園の指導計画を理解し、焦点化した記録をとるようにする。 ・保護者や地域社会との連携のあり方について理解する。 ・自分の課題とテーマについて理解し、その解明と克服に努める。 第９回－第１５回 保育所で保育実習　（２週目） （２）部分・責任実習を中心とした実習 ・指導職員の保育内容や　環境構成と援助のあり方を身につけるように努める。 ・全体計画に即して一日もしくは部分的な指導計画を作成し、それを実践して反省し課題をつかむ。 ・一人ひとりの乳幼児の発達について理解し、個に応じた指導や援助の方法を学び、実践する。 ・保育士に求められる資質能力を理解し、そこから今後の課題をつかむ。 ・部分的な指導計画を作成し、それを実践して反省し、課題をつかむ。

時間外での学修	・様々な保育技術を現場で生かせるように制作物の準備、ピアノの練習等を進めておきましょう。 ・実習記録をその日の内に記録・整理し、翌日の計画をたてましょう。 ・部分実習の指導案も計画的に作成し、担当の職員の指導を仰ぎましょう。
受講学生へのメッセージ	実習は体力がいります。日頃から健康に留意し、自己管理を怠りなく、十分体調を整えて意欲的に実習に取り組みましょう。質問等は各教員のオフィスアワーを活用してください。

【1C4S210】実習指導Ⅱ	幼児教育学科		2年通年	
	1単位	選択	演習	30時間

教員	名和　孝浩・大橋　淳子		
資格・制限等	保資選択必修		
実務家教員	大橋：幼稚園教諭、保育士・28年		
授業方法	講義と演習		
到達目標	知識・理解	保育実習の意義と目的を理解し、保育場面で必要とされる基本的な知識を身につける。	○
	思考・判断・表現	実習において達成すべき課題を明確にし、必要な準備をしたり、実習後に振り返ったりする。	○
	技能	保育所保育指針に基づいた指導の実際について学び、実践力を養う。	◎
	関心・意欲・態度	保育実習での望ましい態度を身につけると共に、必要な書類の作成が出来る。	◎
	備考	◎･○･△の記号は、DP･到達目標との結びつきの強さを示しています。	

授業内容	保育実習Ⅰaでの実習を振り返りながら、保育実習Ⅱでの実践に向けて、改めて、保育実習の意義や目的を理解し、実習に向け た目的意識を高め、課題をもって実習に取り組めるよう学びます。実習日誌、指導案の考え方や教材準備、保育実技など、実 習が充実するよう知識や技能を習得します。また、保育者の役割や職務内容などについてもさらに理解を深めます。

観点別評価

評価の観点 / 評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
レポート	20	20	-	-	40
実技課題	-	-	30	-	30
提出物・受講態度	-	-	-	30	30
合　計(点)	20	20	30	30	100

評価の特記事項	提出物・レポートは期限を厳守してください。
ＩＣＴ活用	
課題に対するフィードバック	実習に関する面談や事務手続き・実習記録に関する添削や個別指導を適宜行う。 実習事後指導により実習での学修内容をフィードバックする。
テキスト	『『保育者になる人のための実習ガイドブック A to Z―実践できる！ 保育所・施設・幼稚園・認定こども園実習テキスト―』』【監修】名須川 知子【編著】田中 卓也・松村　齋・小島 千恵子・岡野 聡子・中澤 幸子　　萌文書林(1,980円)ISBN:978-4-89347-360-8 １年次に購入済み
参考書・教材	厚生労働省『保育所保育指針』 内閣府『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』 久富陽子 編『幼稚園・保育所実習　指導計画の考え方・立て方』萌文書林　他、授業で紹介します。

内容	
実施回	授業内容・目標
1	保育実習Ⅰaの振り返りと保育実習Ⅱに向けて　・保育実習Ⅰaを終え、課題の確認 [準備・課題]保育実習の反省と今後の課題をまとめる。(1H)
2	保育所保育指針から学ぶ（１）　・認定子ども園との相違について知る。 保育指針「総則」「子どもの発達」「保育の内容」について学ぶ。 [準備・課題]保育所保育指針「総則」「子どもの発達」「保育の内容」を目を通しておく。(1H)
3	保育所保育指針から学ぶ（２）・幼稚園との違いについて知る。 「保育の計画及び評価」「健康及び安全」「保護者に対する支援」について学ぶ。 [準備・課題]保育所保育指針「保育の計画及び評価」「健康及び安全」「保護者に対する支援」を目を通しておく。(1H)
4	保育実習での実践（１）　・年齢や季節にあわせた手遊びリストを作る。 [準備・課題]年齢や季節にあわせた絵本リストを作る。(2H)
5	保育実習での実践（２）　・年齢や季節にあわせた歌リストを作る。 [準備・課題]年齢や季節にあわせた絵本リスト、手遊びリスト、歌リストを完成させる。(2H)
6	保育実習での実践（３）　・部分実習の考え方、方法、実践 [準備・課題]模擬授業の準備をする。(2H)
7	保育実習での実践（４）　・指導案の立て方を学ぶ。 ・指導案を立てて、模擬授業をする。 [準備・課題]模擬授業の準備をする。(2H)
8	保育実習での実践（５）　・指導案の立て方を学ぶ。 ・指導案を立てて、模擬授業をする。 [準備・課題]模擬授業の準備をする。(2H)
9	保育実習での実践（６）　・実習日誌の書き方を学ぶ。 [準備・課題]ぷっぷあでの具体的な子どもの様子をもとに、日誌に書く。(2H)
10	保育実習での実践（７）　・実習日誌の書き方を学ぶ。 [準備・課題]ぷっぷあでの具体的な子どもの様子をもとに、日誌に書く。(2H)
11	実習生としての心構え（１）　・園でのオリエンテーションを受ける時の視点を知る。 ・実習生としての実習態度、服装･身だしなみの確認をする。 [準備・課題]実習の手引きを確認する。(1H)
12	実習生としての心構え（２）　・実習のめあての確認及び事務文書の作成をする。 ・実習日誌の扱いと整理をする。 [準備・課題]実習日誌を確認する。(1H)
13	実習生としての心構え（３）　・事務文書の作成をする。 ・個人情報の保護に関して学ぶ。 [準備・課題]事務文書を完成する。(1H)
14	まとめ　・実習の目的と内容の確認 ・評価について ・事務連絡 [準備・課題]実習に向けての準備を整える。(1H)

内容	
実施回	授業内容・目標
15	実習を終えて反省　・実習を振り返り、めあての達成など自己評価をする。 ・実習園からのアドバイスなどを元に、今後の学修に向けて課題を持つ。 [準備・課題]実習振り返り票の記入をする。(1㏍)

時間外での学修	実習に向けて、他の科目での学修も生かしながら準備を進めていきましょう。時間外の学修については、確実に課題を進めていきましょう。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：15時間】
受講学生へのメッセージ	実習には体力が必要です。日頃から体調管理に努めると共に、心身の健康について日頃から意識しましょう。質問等は各担当者のオフィスアワーを活用してください。

【1C5S208】子ども基礎研究Ⅰ	幼児教育学科		2年前期	
	1単位	必修	演習	30時間

教員	今村　民子・大橋　淳子・垣添　忠厚		
資格・制限等	特になし		
実務家教員			
授業方法	グループに分かれて受講します。第1週は「子育てママ大学」の運営に関わります。第２，４週は子育てサロンに参加します。子育てサロンに参加しない週は事前の準備と、事後の記録や反省で振り返ることをします。		
到達目標	知識・理解	様々な場面を考慮した環境構成をすることができる	◎
	思考・判断・表現	幼児教育・保育の課題に気づき、それを分析し判断することができる	◎
	技能	子どもや子育て支援の方法や配慮について理解し、子どもの年齢や発達に応じた支援ができる	○
	関心・意欲・態度	お互いに協力しながら、誰とでも積極的に幅広く関わることができる	○
	備考	◎･○･△の記号は、DP･到達目標との結びつきの強さを示しています。	

授業内容	保育者には子育ち、子育て支援の中心的な役割を担って行くことが期待されています。この授業では　学内にある子育てサロンに参加してこれまで学んできた知識や技能を基に自分のテーマをみつけ、さらに深く知りたいことや身につけたいことを観察したり体験的に学びながら保育者としての実践力を高めます

観点別評価

評価の観点 / 評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
取り組みの計画	-	-	20	-	20
参加活動の記録	30	-	-	-	30
参加活動についての考察	-	30	-	-	30
受講態度・参加の姿勢	-	-	-	20	20
合　計(点)	30	30	20	20	100

評価の特記事項	「参加の記録」用紙に　活動内容の計画　各自のねらい　活動の流れと学生の動き　活動の反省と考察　感想　を記入して活動後に提出します。活動参加への姿勢は、明朗さ、積極性、協調性、などの姿を評価します。
ＩＣＴ活用	
課題に対するフィードバック	記録用紙にコメントをします。
テキスト	なし
参考書・教材	「保育所保育指針」フレーベル館 「幼稚園教育要領」フレーベル館 「幼保連携型認定こども園教育保育要領」フレーベル館　　必要に応じて配布します。

内容

実施回	授業内容・目標
	第　１週　授業の概要（授業の進め方、評価の仕方、グループ分け） 第　2週　　子育てサロンの運営の実際について。今までのサロン実施の様子を知り、計画に活かす。 ［課題］子育てサロンで活かす保育技術の振り返り。（1h） 第　3週　　子育てサロンに活かす保育技術考える。グループごとに担当の内容の詳細を検討して練習する。 ［課題］子育てサロンで活かす保育技術を練習する。（1h） 第　4週～第15週 ５・６・７月 第1週　子育てママ大学　の運営に参加 子育てママ大学の会場準備、受付体験、会場での見守り、終了後の清掃片付け ［課題］記録用紙の記入。体験したことを振り返り反省と考察をする。 （各1～2ｈ） 第２、４週 子育てサロンでの親子遊び体験 参加する親子と関わることを通して、子どもの発達段階、親子への支援の方法を学ぶ ［課題］記録用紙のまとめ、コーナー遊び、終わりの会での出し物の準備 （各1～2ｈ） 子育てサロンに参加しない週 事前準備　：目的と計画、準備 事後反省　：各自とグループでの実施内容の報告　次回への反省課題 記録用紙記入

時間外での学修	授業の準備や練習は事前にしっかり済ませておくこと。 質問や疑問点については担当者の研究室に聞きに来てください。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：15時間】
受講学生へのメッセージ	保護者や施設スタッフに対するマナーや挨拶、服装など社会人としての基本的な心得についても注意して臨むこと。 グループごとに役割を分担して準備、企画を担当するなど、お互いに協力し合うようにすること。 オフィスアワーは毎週水曜日昼休み、場所は授業内で説明します。

【1C5S209】子ども基礎研究Ⅱ	幼児教育学科		2年後期	
	1単位	必修	演習	30時間

教員	今村　民子・大橋　淳子・垣添　忠厚		
資格・制限等	特になし		
実務家教員			
授業方法	授業はグループ活動で行う。行事に参加する準備と体験をして、記録や反省で振り返ることを繰り返しながら進めます。また子ども研究に繋がる各自の研究テーマを見つけてレポート作成をします。		
到達目標	知識・理解	様々な場面を考慮した環境構成をすることができる	○
	思考・判断・表現	幼児教育・保育の課題に気づき、それを分析し判断することができる	◎
	技能	子どもや子育て支援の方法や配慮について理解し、子どもの年齢や発達に応じた支援ができる	○
	関心・意欲・態度	お互いに協力しながら、誰とでも積極的に幅広く関わることができる	○
	備考	◎･○･△の記号は、DP･到達目標との結びつきの強さを示しています。	

授業内容	保育者は子育ち、子育て支援の中心的な役割を担って行くことが期待されています。この授業ではこれまで学んできた、知識や技能を基にさらに深く知りたいこと、身につけたいことを自分のテーマとして選び、大学の行事や子育て支援の現場に参加しながら、テーマについて研究し、保育者に必要となる知識や技能を体験的に学びます。

観点別評価

評価の観点 / 評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
取り組みの計画や参加の記録	20	-	-	-	20
レポート	-	40	-	-	40
レポート作成の準備	-	-	20	-	20
受講態度・参加の姿勢	-	-	-	20	20
合　計(点)	20	40	20	20	100

評価の特記事項	
ＩＣＴ活用	
課題に対するフィードバック	提出したレポートには、各自にコメントをします。
テキスト	なし
参考書・教材	「保育所保育指針」フレーベル館 「幼稚園教育要領」フレーベル館 「幼保連携型認定こども園教育保育要領」フレーベル館　その他必要な資料はその都度配付します。

内容	
実施回	授業内容・目標
	第1週　授業の概要（授業の進め方、評価の仕方） [課題（復習）]前期子育てサロンでの参加記録の見直し（1h） 第2週・第3週 復習で見直した参加記録を基にして個人の研究テーマに沿った大学祭での取り組みの計画と準備 大学祭におけるグループ毎のテーマに沿った取り組みの計画と準備 [課題（復習）]研究テーマの資料収集（各1h） 第4週　個人の研究テーマに沿った大学祭での取り組みの反省 大学祭におけるグループ毎のテーマに沿った取り組みについての反省 [課題（復習）]研究テーマの資料収集（1h） 第5週～第12週 復習で収集した資料を基に個人研究テーマに沿って研究を進める こども祭におけるグループ毎のテーマを設定し取り組みと準備をする [課題（復習）]研究テーマの資料収集、レポート作成（各1h） 第13週　個人研究レポート完成 こども祭におけるグループ毎のテーマに沿った取り組みと準備 [課題（復習）]研究テーマに沿った内容でこども祭への取り組み方を考えてくる（1h） 第14週　こども祭におけるグループ毎のテーマに沿った取り組みの計画と準備 [課題（復習）]子ども研究でのテーマを考える（1h） 第15週　こども祭におけるグループ毎のテーマに沿った取り組みの計画と準備、まとめ [課題（復習）]子ども研究でのテーマを考える（1h）

時間外での学修	授業の準備は事前にしっかり済ませておくこと。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：15時間】
受講学生へのメッセージ	保護者に対するマナーや挨拶、服装など社会人としての基本的な心得についても注意して臨むこと。 グループごとに役割を分担して準備、企画を担当するなど、お互いに協力し合うようにすること。 オフィスアワーは毎週水曜日昼休み、場所は授業内で説明します。

【1C6F201】ウインドアンサンブル	幼児教育学科		2年前期	
	2単位	選択必修	演習	60時間

教員	鈴木　孝育		
資格・制限等	特になし		
実務家教員	吹奏楽指導者（含　高等学校教員）３６年		
授業方法	吹奏楽の合奏が中心で、そのほかにセクション別演習やパート別演習などの集団活動を行います。時に、課題による発表や筆記試験も実施します。楽曲に対する個々の解釈や意見については、学修ノートや授業での発信・発言に応えます。		
到達目標	知識・理解	吹奏楽合奏に必要な楽語・用語を学び、オリジナル、クラシック、ジャズ＆ポップス等、それぞれのジャンルの様式や特徴、歴史や背景を理解し、聞く人に伝わる演奏ができる。	△
	思考・判断・表現	吹奏楽という多様な楽器編成や、様々なジャンルの楽曲に取り組むことで、楽器を演奏する上での多角的な視野と判断能力を身につける。	○
	技能	楽譜通りに演奏できることはもちろん指揮者の音楽性を理解し、要求に合った演奏ができる。また、パートや合奏隊の一員としてお互いのコミュニケーションを取ることができる。初見演奏力を身につける。	◎
	関心・意欲・態度	個人練習のみならず、パート練習、セクション練習等を積極的に学生同士で練習方法等を研究し、円滑に練習を進めることができる。保育現場において、子どもの成長発達に応じた音楽活動についての指導や支援ができる保育者にむかって、研鑽に努める事ができる。	○
	備考	◎･○･△の記号は、DP･到達目標との結びつきの強さを示しています。	

授業内容	吹奏楽オリジナル作品の他、クラシックアレンジ作品、ジャズ＆ポップスに至るまで、様々なジャンルの曲を取り上げ、それぞれの様式や特徴、演奏方法を理解し、演奏表現力の向上を目指します。授業以外に、地域での依頼演奏や定期演奏会で実践力を磨きます。なお、依頼演奏の関係で授業内容は、変更になることがあります。また、客員教授による特別講義や定期演奏会前に数日間の集中練習を実施する予定です。

観点別評価

評価の観点 / 評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
実技試験	-	10	50	-	60
受講態度	-	-	-	10	10
小テスト・提出物	10	10	-	10	30
合　計(点)	10	20	50	20	100

評価の特記事項	受講態度は、学修記録ノートを中心に受講姿勢を含めて総合的に評価します。 全授業の３分の１以上欠席の場合、最終試験の受験資格はありません。
ＩＣＴ活用	ICTを活用した自主学習支援（Googleフォーム、学生ポータル）
課題に対するフィードバック	学修記録ノートは、毎時間集め、個々の課題や取り組み、成果と学びを確認し、質問にはコメントを返します。また、全員に共通の課題と判断されるものについては、次回の授業で発表し、全員で共有し取り組みます。
テキスト	その都度配布
参考書・教材	楽譜等その都度配布

内容	
実施回	授業内容・目標
1	ガイダンス　授業の進め方、注意事項、授業の目標や学ぶ内容の概要を理解する。及び音楽鑑賞用（学外演奏用）楽曲配布、全体で譜読み、合奏、研究・調査。パート内集団活動。パート練習の打ち合わせ、配布した音楽鑑賞（学外演奏）用楽曲をパートで譜読み。 [課題（準備・予習）]シラバスの熟読、音楽鑑賞用楽曲の譜読み、各自、楽器、衣装・譜面台・ファイル等配布物の整理。（2h～4h）
2	初見演奏力養成合奏及び音楽鑑賞用（学外演奏用）楽曲配布・全体で譜読み、合奏、研究・調査。パート別、セクション別演習。楽譜通り正確に演奏できるように学修。 [課題（復習・予習）] 初見演奏省察。音楽鑑賞用楽曲のパート別演習の復習、個人練習（特に音や、リズムを正確に楽譜通り吹けるように）。指摘のあった箇所の反復練習及び、個々の課題に取り組む。 （2h～4h）
3	初見演奏力養成合奏及び音楽鑑賞用（学外演奏用）楽曲配布・全体で譜読み、合奏、研究・調査。パート別、セクション別演習。楽譜通り正確に演奏できるように学修。 [課題（復習・予習）] 初見演奏省察。音楽鑑賞用楽曲のパート別演習の復習、個人練習（特に音や、リズムを正確に楽譜通り吹けるように）。指摘のあった箇所の反復練習及び、個々の課題に取り組む。 （2h～4h）
4	初見演奏力養成合奏及び音楽鑑賞用（学外演奏用）楽曲配布・全体で譜読み、合奏、研究・調査。パート別、セクション別演習。楽譜通り正確に演奏できるように学修。 [課題（復習・予習）] 初見演奏省察。音楽鑑賞用楽曲のパート別演習の復習、個人練習（特にハーモニーの取り方や音程の理解を深めるように）。指摘のあった箇所の反復練習及び、個々の課題に取り組む。 （2h～4h）
5	初見演奏力養成合奏及び音楽鑑賞用（学外演奏用）楽曲配布・全体で譜読み、合奏、研究・調査。パート別、セクション別演習。楽譜通り正確に演奏できるように学修。 日時を変更して実施。 [課題（復習・予習）] 初見演奏省察。音楽鑑賞用楽曲のパート別演習の復習、個人練習（特にハーモニーの取り方や音程の理解を深めるように）。指摘のあった箇所の反復練習及び、個々の課題に取り組む。 （2h～4h）
6	初見演奏力養成合奏及び音楽鑑賞用（学外演奏用）楽曲仕上げ合奏、研究・調査。パート別、セクション別演習。 [課題（復習・予習）] 初見演奏省察。音楽鑑賞用楽曲のまとめ（テンポの変化、表現記号、ダイナミクスの変化、他のパートとの調和などに注意するように）。指摘のあった箇所の反復練習及び、個々の課題に取り組む。（2h～4h）

内容	
実施回	授業内容・目標
7	初見演奏力養成合奏及び音楽鑑賞用（学外演奏用）楽曲仕上げ合奏、研究・調査。パート別、セクション別演習。 [課題（復習・予習）] 初見演奏省察。音楽鑑賞用楽曲のまとめ（テンポの変化、表現記号、ダイナミクスの変化、他のパートとの調和などに注意するように）。指摘のあった箇所の反復練習及び、個々の課題に取り組む。（2h～4h）
8	初見演奏力養成合奏及び定期演奏会用楽曲合奏、研究・調査。パート別、セクション別演習。 [課題（復習・予習）] 初見演奏省察。定期演奏会用楽曲のパート別演習の復習、個人練習（特に音や、リズムを正確に楽譜通り吹けるように）。指摘のあった箇所の反復練習及び、個々の課題に取り組む。（2h～4h）
9	初見演奏力養成合奏及び定期演奏会用楽曲合奏、研究・調査。パート別、セクション別演習。 [課題（復習・予習）] 初見演奏省察。定期演奏会用楽曲のパート別演習の復習、個人練習（特に音や、リズムを正確に楽譜通り吹けるように）。指摘のあった箇所の反復練習及び、個々の課題に取り組む。（2h～4h）
10	初見演奏力養成合奏及び定期演奏会用楽曲合奏、研究・調査。パート別、セクション別演習。 [課題（復習・予習）] 初見演奏省察。定期演奏会用楽曲のパート別演習の復習、個人練習（特にハーモニー・音程の取り方の理解を深めるように）。指摘のあった箇所の反復練習及び、個々の課題に取り組む。（2h～4h）
11	初見演奏力養成合奏及び定期演奏会用楽曲合奏、研究・調査。パート別、セクション別演習。 [課題（復習・予習）] 初見演奏省察。定期演奏会用楽曲のパート別演習の復習、個人練習（特にハーモニー・音程の取り方の理解を深めるように）。指摘のあった箇所の反復練習及び、個々の課題に取り組む。（2h～4h）
12	初見演奏力養成合奏及び定期演奏会用楽曲合奏、研究・調査。パート別、セクション別演習。 [課題（復習・予習）] 初見演奏省察。定期演奏会用楽曲のパート別演習の復習、個人練習（テンポの変化、表現記号、ダイナミクスの変化、他のパートとの調和などに注意するように）。指摘のあった箇所の反復練習及び、個々の課題に取り組む。（2h～4h）
13	初見演奏力養成合奏及び定期演奏会用楽曲合奏、研究・調査。パート別、セクション別演習。 [課題（復習・予習）] 初見演奏省察。定期演奏会用楽曲のパート別演習の復習、個人練習（テンポの変化、表現記号、ダイナミクスの変化、他のパートとの調和などに注意するように）。指摘のあった箇所の反復練習及び、個々の課題に取り組む。（2h～4h）
14	初見演奏力養成合奏及び定期演奏会用楽曲合奏、研究・調査。パート別、セクション別演習。 [課題（復習・予習）] 初見演奏省察。定期演奏会用楽曲のパート別演習の復習、個人練習（テンポの変化、表現記号、ダイナミクスの変化、他のパートとの調和などに注意するように）。指摘のあった箇所の反復練習及び、個々の課題に取り組む。（2h～4h）
15	前期実技試験指定曲の合奏及び、筆記試験、学修記録ノートの記入。 [課題（復習）]試験指定曲の復習。筆記試験の確認、復習。（2h～4h）

時間外での学修	各自に与えられた楽譜を事前にしっかりと練習して授業に臨んでください。必要に応じて、パート練習、セクション練習等を積極的に行ってください。また、楽曲についての研究・調査を図書館やインターネットを利用して行って下さい。【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：３０～６０時間】
受講学生へのメッセージ	まずは、個々が譜面に正確な演奏を心掛けてください。パート内で精密な合わせをし、その上で他パートの動きなどを理解し、合奏力の向上を目指してください。欠席や遅刻は、全体の音楽作りや授業の進行に多大な迷惑がかかります。従って、出席に関しては合奏を目的とした授業の性格上厳しく取り扱います。合奏メンバーとしてのマナーを身につけましょう。オフィスアワーは、授業前後の休み時間に教室で行います。

【1C6F201】ウインドアンサンブル	幼児教育学科		2年後期	
	2単位	選択必修	演習	60時間

教員	鈴木　孝育		
資格・制限等	特になし		
実務家教員	吹奏楽指導者（含　高等学校教員）３６年		
授業方法	吹奏楽の合奏が中心で、そのほかにセクション別演習やパート別演習などの集団活動を行います。時に、課題による発表や筆記試験も実施します。楽曲に対する個々の解釈や意見については、学修ノートや授業での発信・発言に応えます。		
到達目標	知識・理解	吹奏楽合奏に必要な楽語・用語を学び、オリジナル、クラシック、ジャズ＆ポップス等、それぞれのジャンルの様式や特徴、歴史や背景を理解し、聞く人に伝わる演奏ができる。	△
	思考・判断・表現	吹奏楽という多様な楽器編成や、様々なジャンルの楽曲に取り組むことで、楽器を演奏する上での多角的な視野と判断能力を身につける。	○
	技能	楽譜通りに演奏できることはもちろん指揮者の音楽性を理解し、要求に合った演奏ができる。また、パートや合奏隊の一員としてお互いのコミュニケーションを取ることができる。初見演奏力を身につける。	◎
	関心・意欲・態度	個人練習のみならず、パート練習、セクション練習等を積極的に学生同士で練習方法等を研究し、円滑に練習を進めることができる。保育現場において、子どもの成長発達に応じた音楽活動についての指導や支援ができる保育者にむかって、研鑽に努める事ができる。	○
	備考	◎･○･△の記号は、DP･到達目標との結びつきの強さを示しています。	

授業内容	吹奏楽オリジナル作品の他、クラシックアレンジ作品、ジャズ＆ポップスに至るまで、様々なジャンルの曲を取り上げ、それぞれの様式や特徴、演奏方法を理解し、演奏表現力の向上を目指します。授業以外に、地域での依頼演奏や定期演奏会で実践力を磨きます。なお、依頼演奏の関係で授業内容は、変更になることがあります。また、客員教授による特別講義や定期演奏会前に数日間の集中練習を実施する予定です。

観点別評価

評価の観点 / 評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
実技試験	-	10	50	-	60
受講態度	-	-	-	10	10
小テスト・提出物	10	10	-	10	30
合　計(点)	10	20	50	20	100

評価の特記事項	受講態度は、学修記録ノートを中心に受講姿勢を含めて総合的に評価します。 全授業の３分の１以上欠席の場合、最終試験の受験資格はありません。
ＩＣＴ活用	ICTを活用した自主学習支援（Googleフォーム、学生ポータル）
課題に対するフィードバック	学修記録ノートは、毎時間集め、個々の課題や取り組み、成果と学びを確認し、質問にはコメントを返します。また、全員に共通の課題と判断されるものについては、次回の授業で発表し、全員で共有し取り組みます。
テキスト	その都度配布
参考書・教材	楽譜等その都度配布

内容	
実施回	授業内容・目標
1	ガイダンス　授業の進め方、注意事項、授業の目標や学ぶ内容の概要を理解する。 初見演奏力養成合奏及び定期演奏会用楽曲配布・全体で譜読み、合奏、研究・調査。パート内集団活動。 パート練習の打ち合わせ、配布した定期演奏会用楽曲をパートで譜読み。 [課題（準備・予習）]シラバスの熟読。初見演奏省察。定期演奏会用楽曲のパート別演習の復習、個人練習（特に音や、リズムを正確に楽譜通り吹けるように）。指摘のあった箇所の反復練習及び、個々の課題に取り組む。（2h～4h）
2	初見演奏力養成合奏及び定期演奏会用楽曲合奏、研究・調査・発表。楽譜通り正確に演奏できるよう、リズム・テンポを中心に学修。パート別、セクション別演習。 [課題（復習・予習）] 初見演奏省察。定期演奏会用楽曲のパート別演習の復習、個人練習（特に音や、リズムを正確に楽譜通り吹けるように）。指摘のあった箇所の反復練習及び、個々の課題に取り組む。（2h～4h）
3	初見演奏力養成合奏及び定期演奏会用楽曲合奏、研究・調査・発表。楽譜通り正確に演奏できるよう、ハーモニー・音程の取り方を中心に学修。パート別、セクション別演習。 [課題（復習・予習）] 初見演奏省察。定期演奏会用楽曲のパート別演習の復習、個人練習（特にハーモニーの取り方や音程の理解を深めるように）。指摘のあった箇所の反復練習及び、個々の課題に取り組む。（2h～4h）
4	初見演奏力養成合奏及び定期演奏会用楽曲配布・全体で譜読み、合奏、研究・調査。パート内集団活動。 パート練習の打ち合わせ、配布した定期演奏会用楽曲をパートで譜読み。 [課題（復習・予習）] 初見演奏省察。定期演奏会用楽曲のパート別演習の復習、個人練習（特に音や、リズムを正確に楽譜通り吹けるように）。指摘のあった箇所の反復練習及び、個々の課題に取り組む。（2h～4h）
5	初見演奏力養成合奏及び定期演奏会用楽曲合奏、研究・調査・発表。楽譜通り正確に演奏できるよう、リズム・テンポを中心に学修。パート別、セクション別演習。 [課題（復習・予習）] 初見演奏省察。定期演奏会用楽曲のパート別演習の復習、個人練習（特に音や、リズムを正確に楽譜通り吹けるように）。指摘のあった箇所の反復練習及び、個々の課題に取り組む。（2h～4h）
6	初見演奏力養成合奏及び定期演奏会用楽曲合奏、研究・調査・発表。楽譜通り正確に演奏できるよう、ハーモニー・音程の取り方を中心に学修。パート別、セクション別演習。 [課題（復習・予習）] 初見演奏省察。定期演奏会用楽曲のパート別演習の復習、個人練習（特にハーモニーの取り方や音程の理解を深めるように）。指摘のあった箇所の反復練習及び、個々の課題に取り組む。（2h～4h）

内容	
実施回	授業内容・目標
7	初見演奏力養成合奏及び定期演奏会用楽曲配布・全体で譜読み、合奏、研究・調査。パート内集団活動。パート練習の打ち合わせ、配布した定期演奏会用楽曲をパートで譜読み。 [課題（復習・予習）] 初見演奏省察。定期演奏会用楽曲のパート別演習の復習、個人練習（特に音や、リズムを正確に楽譜通り吹けるように）。指摘のあった箇所の反復練習及び、個々の課題に取り組む。（2h～4h）
8	初見演奏力養成合奏及び定期演奏会用楽曲合奏、研究・調査・発表。楽譜通り正確に演奏できるよう、リズム・テンポを中心に学修。パート別、セクション別演習。 [課題（復習・予習）] 初見演奏省察。定期演奏会用楽曲のパート別演習の復習、個人練習（特に音や、リズムを正確に楽譜通り吹けるように）。指摘のあった箇所の反復練習及び、個々の課題に取り組む。（2h～4h）
9	初見演奏力養成合奏及び定期演奏会用楽曲合奏、研究・調査・発表。楽譜通り正確に演奏できるよう、ハーモニー・音程の取り方を中心に学修。パート別、セクション別演習。 [課題（復習・予習）] 初見演奏省察。定期演奏会用楽曲のパート別演習の復習、個人練習（特にハーモニーの取り方や音程の理解を深めるように）。指摘のあった箇所の反復練習及び、個々の課題に取り組む。（2h～4h）
10	初見演奏力養成合奏及び定期演奏会用楽曲の合奏、研究・調査・発表。パート別演習、セクション別演習、討議。仕上げ。 [課題（復習・予習）] 初見演奏省察。定期演奏会用楽曲のパート別演習の復習、個人練習（特に、テンポの変化、ダイナミクスの変化に注意するように）。指摘のあった箇所の反復練習及び、個々の課題に取り組む。（2h～4h）
11	初見演奏力養成合奏及び定期演奏会用楽曲の合奏、研究・調査・発表。パート別演習、セクション別演習、討議。仕上げ。 [課題（復習・予習）] 初見演奏省察。定期演奏会用楽曲のパート別演習の復習、個人練習（特に旋律部分、伴奏部分の音楽の違いに注意しながら）。指摘のあった箇所の反復練習及び、個々の課題に取り組む。（2h～4h）
12	初見演奏力養成合奏及び定期演奏会用楽曲の合奏、研究・調査・発表。パート別演習、セクション別演習、討議。仕上げ。 [課題（復習・予習）] 初見演奏省察。定期演奏会用楽曲のパート別演習の復習、個人練習（特に、他のパートとの調和などに注意するように）。指摘のあった箇所の反復練習及び、個々の課題に取り組む。（2h～4h）
13	初見演奏力養成合奏及び定期演奏会用楽曲の合奏、研究・調査・発表。パート別演習、セクション別演習、討議。仕上げ。 [課題（復習・予習）] 初見演奏省察。定期演奏会用楽曲のパート別演習の復習、個人練習（特に時代背景や特徴的な表現記号を反映させながら）。指摘のあった箇所の反復練習及び、個々の課題に取り組む。（2h～4h）
14	初見演奏力養成合奏及び定期演奏会用楽曲の合奏、研究・調査・発表。パート別演習、セクション別演習、討議。仕上げ。 [課題（復習・予習）] 初見演奏省察。定期演奏会用楽曲のパート別演習の復習、個人練習（特に自分なりの音楽を考えながら）。指摘のあった箇所の反復練習及び、個々の課題に取り組む。（2h～4h）
15	後期実技試験指定曲の合奏及び、筆記試験、学修記録ノートの記入。 [課題（復習）]試験指定曲の復習。筆記試験の確認、復習。（2h～4h）

時間外での学修	各自に与えられた楽譜を事前にしっかりと練習して授業に臨んでください。必要に応じて、パート練習、セクション練習等を積極的に行ってください。また、楽曲についての研究・調査を図書館やインターネットを利用して行って下さい。【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：３０～６０時間】
受講学生へのメッセージ	まずは、個々が譜面に正確な演奏を心掛けてください。パート内で精密な合わせをし、その上で他パートの動きなどを理解し、合奏力の向上を目指してください。欠席や遅刻は、全体の音楽作りや授業の進行に多大な迷惑がかかります。従って、出席に関しては合奏を目的とした授業の性格上厳しく取り扱います。合奏メンバーとしてのマナーを身につけましょう。オフィスアワーは、授業前後の休み時間に教室で行います。

【1C6B102】音楽理論	幼児教育学科		2年前期	
	2単位	選択必修	講義	30時間

教員	光井　恵子		
資格・制限等	特になし		
実務家教員			
授業方法	講義形式ですが、演習的な内容も取り入れていきます。作曲やアレンジした曲を発表することもあります。		
到達目標	知識・理解	保育者や音楽療法士に必要な音楽知識を理解し、説明することができる。	◎
	思考・判断・表現	教育や保育に必要な音楽知識を身に付け、様々な音楽活動で活用し表現することができる。	◎
	技能	修得した音楽知識を用いて、応用、発展させていくことができる。	△
	関心・意欲・態度	理想の保育者像を常に描き、教育や保育における様々な課題に対して、積極的に取り組むことができる。	◎
	備考	◎･○･△の記号は、DP･到達目標との結びつきの強さを示しています。	

授業内容	保育者や音楽療法士になるために必要な音楽知識を基礎から応用まで学び、幅広い音楽性を身に付けていきます。また現場で活かせるよう、鍵盤楽器を活用して和声法やアレンジ法の基礎を修得していきます。

観点別評価

評価の観点 / 評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
レポート・課題	20	20	-	-	40
小テスト	10	10	-	-	20
発表	-	-	10	-	10
受講態度	-	-	-	30	30
合　計(点)	30	30	10	30	100

評価の特記事項	受講態度は、予習・復習等含めた授業への取り組み状況を総合的に判断します。
ＩＣＴ活用	iPadのアプリを活用し作譜等も行っていきます。
課題に対するフィードバック	プリント課題や小テスト等の添削と解答の説明を個別的にまたは授業で行います。
テキスト	『改訂　幼稚園教諭・保育士養成課程　幼児のための音楽教育（1年次に使用した教科書）』神原雅之、鈴木恵津子　教育芸術社ISBN:978-4877888220
参考書・教材	五線譜、必要に応じて資料は配付します

内容	
実施回	授業内容・目標
1	音楽の仕組み(1)譜表・音名・音符・休符・小節について [課題(復習)]学修した内容を楽譜上で確認（2h）
2	音楽の仕組み(2)音程について(単音程) [課題(復習)]学修した内容を鍵盤上で確認（2h）
3	音楽の仕組み(3)音程について(複音程と派生音を含む音程) [課題(復習)]学修した内容の確認プリント（2h）
4	音楽の仕組み(4)長音階・短音音階について [課題(復習)]学修した内容を鍵盤上で確認（2h）
5	音楽の仕組み(5)調号と近親調について、小テスト [課題(復習)]学修した内容の確認プリント（2h）
6	音楽の仕組み(6)和音について [課題(復習)]学修した内容を鍵盤上で確認（2h）
7	音楽の仕組み(7)コードネームについて [課題(復習)]学修した内容の確認プリント（2h）
8	音楽の仕組み(8)コードの進行法について、小テスト [課題(復習)]学修した内容を鍵盤上で確認（2h）
9	和声法の基礎　和音の様々な関係、終止形について [課題(復習)]学修した内容を鍵盤上で確認（2h）
10	アレンジ法の基礎　リズム・メロディー・ハーモニーの簡単なアレンジ法について [課題(復習)]学修した内容の確認プリント（2h）
11	曲のアレンジ　発表と意見交換 [課題(復習)]学修した内容を鍵盤上で確認（2h）
12	オリジナル曲の作成(歌詞）① [課題(復習・準備)]オリジナル曲の作成（2～3h）
13	オリジナル曲の作成(メロディー）中間発表と意見交換 [課題(復習・準備)]オリジナル曲の作成（2～3h）
14	オリジナル曲の完成 [課題(復習・準備)]オリジナル曲の作成・仕上げ（2～3h）
15	発表と意見交換、まとめ

時間外での学修	保育者や音楽療法士として子どもたちを指導するために必要な音楽力を身に付けていきます。毎回の内容を積極的に復習してください。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間:60時間】
受講学生へのメッセージ	音楽の基礎知識をしっかり学び、たくさんの音楽に触れる機会を持ちましょう。様々な活用ができるようにしていきましょう。 オフィスアワーは光井研究室（A307：A号館3F）で毎週木曜日16:10～16:40です。

【1C6S103】音楽心理学	幼児教育学科		2年前期	
	2単位	選択必修	講義	30時間

教員	菅田　文子		
資格・制限等	特になし		
実務家教員	音楽療法関連施設職員・5年、音楽療法実践30年		
授業方法	演習を含む講義形式		
到達目標	知識・理解	音楽心理学研究の流れについて理解し、基礎的な知識を身につけている。	◎
	思考・判断・表現	音楽心理学研究で用いられる研究法の違いを説明できる。	○
	技能	音楽心理学で用いられる質問紙の点数計算ができる。	△
	関心・意欲・態度	積極的に質問紙への解答、計算を含む課題に取り組み提出することができる。	◎

授業内容	音楽心理学とは何かについて学びます。簡単な実験に参加することで、実際に音楽が人の心身にもたらす作用について学びます。音楽療法資格の取得にはこの授業が必修となっています。

観点別評価

評価の観点 / 評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
筆記試験	40	20	-	-	60
課題提出	-	-	10	10	20
受講態度	-	-	-	20	20
合　計(点)	40	20	10	30	100

評価の特記事項	授業回数の1/3以上欠席した学生は期末試験の受験資格がありません。
ＩＣＴ活用	授業の感想、課題提出をGoogleフォームを利用して行います。
課題に対するフィードバック	授業内に取り入れる形で提出された高評価のレポートを紹介します。
テキスト	授業内でプリントを配布する。
参考書・教材	

内容	
実施回	授業内容・目標
1	音楽心理学とは 実験１：メンタルテンポの測定。安静時と活動後の違いの比較 [課題（復習）]Googleフォームにて復習テストを受ける。学んだ内容を復習し、メンタルテンポについてまとめる（4H）
2	メンタルテンポと好みのテンポの関連について 実験２：ゲシュタルト原理と音の群化について [課題（復習）]Googleフォームにて復習テストを受ける。学んだ内容を復習し、ゲシュタルトについて理解する（4H）
3	リズム知覚能力の発達 実験３：調の色彩的表象 [課題（復習）]Googleフォームにて復習テストを受ける。学んだ内容を復習し、色彩と音との印象の関係についてまとめる（4H）
4	共感覚について 実験４：楽器の音色による色彩的表象（12色以上の色鉛筆を持参してください）集団活動、発表 [課題（復習）]学んだ内容を復習し、音色と色の関係についてまとめる（4H）
5	絶対音感と相対音感について 実験５：絶対音感テスト 音楽心理学の研究手法について（1）観察法（2）実験法（3）質問紙法　それぞれの特長と適した研究法について[課題（復習）]学んだ内容を復習し、心理学研究の手法について理解する。自分の持つ音感の特性について理解する（4H）
6	音による感情伝達 実験６：打楽器による感情表現　集団活動、発表 [課題（復習）]学んだ内容を復習し、リズムの違いによる感情表現について理解する（4H）
7	BGMについて BGMの歴史と現在の研究動向 [課題（復習）]身近な環境にあるBGMについて調べレポートにまとめる（4H）
8	音楽と消費者行動 CMにおける音楽の与える影響、店頭における音楽の影響について [準備・課題]知っているCMソングについて調べレポートにまとめる（4H）
9	音楽心理学で用いる心理尺度について AVSM、STAI　集団活動 [課題（復習）]学んだ内容を復習し、心理尺度の計算について理解する（4H）
10	音楽聴取に関する研究１：感情の神経・生理学的測定について [課題（復習）]学んだ内容を復習し、音楽に対する生理的反応について理解する（4H）
11	音楽聴取に関する研究２：刺激間要因を問題として [課題（復習）]学んだ内容を復習し、音楽の違いによる感情反応の違いについて理解する（4H）
12	音楽聴取に関する研究３：聴取者間要因を問題として [課題（復習）]学んだ内容を復習し、聴取者の性格特性による感情反応の違いについて理解する（4H）
13	演奏不安に関する研究について　討論、発表 [課題（復習）]学んだ内容を復習し、演奏反応の克服のための方法についてまとめる（4H）
14	最近のトピックス 脳研究と音楽認知 [課題（復習）]学んだ内容を復習し、理解を深める（4H）
15	テスト前の振り返り [課題（復習）]学んだ内容を復習し、テストの準備をする（4H）

時間外での学修	プリントをみて学んだことを復習してください。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：60時間】

受講学生へのメッセージ	実験の参加や心理尺度の評定など、学生が作業しなければならない活動も授業に含まれます。積極的に参加してください。 心理尺度の評定の提出状況なども採点に含まれます。 オフィスアワーは研究室（B403：B号館4階）で毎週木曜日の13：00～14：30です。

【1C6B104】音楽療法・基礎	幼児教育学科		2年後期	
	2単位	選択必修	講義	30時間

教員	菅田　文子		
資格・制限等	特になし		
実務家教員	音楽療法関連施設職員・5年、音楽療法実践30年		
授業方法	講義形式ですが授業の一部分で演習活動も含みます。小グループでの討論、検討結果の発表も行います。		
到達目標	知識・理解	音楽療法におけるアセスメントの種類や方法についての知識を持っている。	◎
	思考・判断・表現	ランニング・アセスメントのビデオを見て、対象者の行動を客観的に正しく記述することができる。 対象者のニーズを把握し、それに合った治療目標を設定し、目標を達成するための音楽活動を計画することができる。	◎
	技能	音楽療法に関する専門用語を理解し、使うことができる。	△
	関心・意欲・態度	意欲的に発表する。他グループの発表について自分の意見を述べることができる。	△

授業内容	この授業では、音楽療法のアセスメントの原理・方法についての基本的な知識と、アセスメントが実際にできるような技術について学びます。具体的には、アセスメントの種類について学ぶことと、音楽療法場面のビデオを見ながら記録を取る練習を通じて音楽療法士に必要な臨床的視点の獲得と、状況を的確に記録する文章能力を養います。

観点別評価

評価方法＼評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
レポート	40	30	-	-	70
発表	-	10	10	-	20
受講態度	-	-	-	10	10
合　計(点)	40	40	10	10	100

評価の特記事項	3分の1以上欠席した学生は期末試験の受験資格がありません。 課題の提出及び発表がない学生は期末試験の受験資格がありません。
ＩＣＴ活用	課題や感想をGoogle Formで提出します。
課題に対するフィードバック	よいレポートがあれば授業で取り上げます。
テキスト	『標準 音楽療法入門〈下〉実践編』日野原 重明 （監修）、篠田 知璋（編集）、加藤 美知子（編集） 春秋社(3,520円)ISBN:4393934482
参考書・教材	

内容

実施回	授業内容・目標
1	オリエンテーション：音楽療法の手順について アセスメントセッションのビデオを視聴、記録の練習①、レポート提出 [課題（復習）]学んだ内容を復習し音楽療法の手順について理解する（4H）
2	アセスメントについて：調査票、標準化されたテスト、ランニング・アセスメントについて アセスメントセッションのビデオを視聴、記録の練習②、レポート提出 [課題（復習）]学んだ内容を復習し、ランニングアセスメントの役割について理解する（4H）
3	行動観察について：アセスメントセッションのビデオを視聴、記録の練習③ [課題（復習）]学んだ内容を復習し、アセスメントの種類について理解する（4H）
4	音楽活動の記録について：客観的な記述方法について。反応のあった音楽、視線、セラピストとのかかわりなどについて主観を交えずに描写することができる。 [課題（復習）]学んだ内容を復習し、客観的な記述について理解する（4H）
5	音楽活動やセラピストの働きかけが対象者にどのように受け止められたか、対象者の感情を推し量って記述し、次回からのセッションの活動で何を用い、どこを変えなければならないか自分の考えを記述できる。 [課題（復習）]学んだ内容を復習し、主観的な記述と客観的記述を分けて記述する（4H）
6	目標設定について：対象者の分野別に異なる目標があることを知る。 [課題（復習）]学んだ内容を復習し、分野別の目標と活動内容についてレポートを作成する（4H）
7	長期目標と短期目標について：それぞれの目標の違いを知り、短期目標の立て方を学ぶ。 [課題（復習）]学んだ内容を復習し、長期目標に対応した短期目標を含む音楽活動を考える（4H）
8	目標に応じた音楽活動の計画１：「動きを促す音楽活動」活動を計画する。活動を発表する。 [課題（復習）]学んだ内容を復習し、音楽活動の発表に向けて練習する（4H）
9	目標に応じた音楽活動の計画２：「社会性を促す音楽活動」活動を計画する。活動を発表する。 [課題（復習）]学んだ内容を復習し、社会性と音楽活動の関連について理解する（4H）
10	目標に応じた音楽活動の計画３：「コミュニケーションを促す音楽活動」音楽活動を計画する。活動を発表する。[課題（復習）]学んだ内容を復習し、コミュニケーション能力と音楽活動の関連について理解する（4H）
11	事例から目標と活動を設定する演習１：児童 児童の事例を読み、対象者に受け入れられる選曲と活動、発表を考える。 [課題（復習）]学んだ内容を復習し、児童の音楽活動に使用する曲を練習する（4H）
12	事例から目標と活動を設定する演習２：成人 成人の事例を読み、対象者に受け入れられる選曲と活動、発表を考える。 [課題（復習）]学んだ内容を復習し、成人の音楽活動に使用する曲を練習する（4H）
13	事例から目標と活動を設定する演習３：高齢者 高齢者の事例を読み、対象者に受け入れられる選曲と活動、発表を考える。 [課題（復習）]学んだ内容を復習し、高齢者の音楽活動に使用する曲を練習する（4H）
14	この授業のレポート課題内容を説明する。 [課題（復習）]レポート課題に取り組む（4H）
15	レポート課題の作成　　レポート課題を作成、完成させる。 [課題（復習）]学んだ内容の復習（4H）

時間外での学修	教科書や指定された参考資料を読み、授業で学んだ事柄を理解して次の授業に臨んでください。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：60時間】
受講学生へのメッセージ	音楽療法士になるにあたって基本的な知識と技能を身につけるための重要な授業です。 課題の提出状況が評価に含まれます。 オフィスアワーは研究室（B403：B号館4階）で毎週木曜日の13：00～14：30です。

【1C6S208】器楽	幼児教育学科		2年前期	
	1単位	選択必修	演習	30時間

教員	光井　恵子		
資格・制限等	特になし		
実務家教員			
授業方法	レベルに合わせたピアノの個人レッスンが中心です。		
到達目標	知識・理解	様々な音楽のジャンルについて理解し、説明することができる。	○
	思考・判断・表現	柔軟な表現力で保育実践に取り組むことができる。	◎
	技能	現場に即した演奏技術を高めるよう努める。	○
	関心・意欲・態度	理想の保育者像を常に描きながら積極的に課題に取り組むことができる。	◎
	備考	◎･○･△の記号は、DP･到達目標との結びつきの強さを示しています。	

授業内容	鍵盤楽器を中心に、レベルに合わせた個人レッスンを行います。また、ピアノでのデュオ曲にも挑戦しながら保育者に必要な音楽的基礎技術や技能を修得し、音楽に対する感性を磨きながらハーモニーの美しさを体験し、表現力を高めていくことができるよう実践的に学びます。

観点別評価

評価の観点 / 評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
発表	15	20	20	-	55
受講態度	-	15	-	30	45
合　計(点)	15	35	20	30	100

評価の特記事項	受講態度は、予習・復習も含めた学修への取り組み状況で評価します。
ＩＣＴ活用	
課題に対するフィードバック	毎回授業時に課題の確認を行い、個々に応じた練習方法を提示していきます。
テキスト	『バイエル教則本』 『ブルグミュラー25の練習曲』 『ソナチネアルバム』他各自の楽譜
参考書・教材	必要な資料は授業で配付します。

内容	
実施回	授業内容・目標
1	第1～2週 　１年に修得した知識の復習 　子どもの歌の弾き歌い①（コードを使用した弾き歌い） ［課題(予習・復習)］次回のレッスン曲の予習 （各1～2h） 第3週 　子どもの歌の弾き歌い②（コードを使用した弾き歌い） ［課題(予習・復習)］授業でのアドバイスをもとに復習、次回のレッスン曲の予習 （1～2h） 第4週～第12週 　ピアノアンサンブル 　各自のレベルに合わせたピアノ個人レッス（課題の確認） 　　（正確な譜読み・・・音　リズム　適切な指使い） 　　（様々な表現法・・・強弱　テンポ　ペダリング　フレージング） 　　（保育現場での活用法） ［課題(予習・復習)］授業でのアドバイスをもとに復習、次回のレッスン曲の予習 （各1～2ｈ） 第13週 　ピアノアンサンブルの発表 ［課題(予習・復習)］ピアノアンサンブルの発表の振り返り、ピアノ個人発表の練習 （1～2h） 第14週 　ピアノ個人の発表 ［課題(予習・復習)］発表の振り返り、次回のレッスン曲の予習 （1～2h） 第15週 　各自のレベルに合わせたピアノ個人レッスン 　授業の振り返りとまとめ ［課題(予習・復習)］授業でのアドバイスをもとに復習 （1～2h）

時間外での学修	保育現場で役立つ実力を身に付けるために毎日練習し、積極的に予習・復習を行ってください。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間:15時間】
受講学生へのメッセージ	積極的に学ぶ姿勢を最後まで持ち続け、保育技術を高めるための努力をしてください。毎回の授業でレベルアップしていきますので、常に体調を整えて遅刻・欠席しないように心がけましょう。 オフィスアワーは光井研究室（A307：A号館3F）で毎週木曜日16:10～16:40です。

【1C6A209】器楽と表現活動	幼児教育学科		2年後期	
	1単位	選択必修	演習	30時間

教員	光井　恵子		
資格・制限等	特になし		
実務家教員			
授業方法	各自のレベルや要望に合わせたピアノ個人レッスンとグループでの演習活動を行います。		
到達目標	知識・理解	子どもの発達過程を理解し、音楽的専門知識を修得する。	○
	思考・判断・表現	柔軟な表現力で保育実践に取り組むことができる。	◎
	技能	現場での活用を想定しながら総合的な音楽力を身につける。	○
	関心・意欲・態度	理想の保育者像を常に描きながら積極的に課題に取り組むことができる。	◎
	備考	◎･○･△の記号は、DP･到達目標との結びつきの強さを示しています。	

授業内容	保育の現場では、子どもたちの日常生活や遊び、また行事の中で様々な音楽が活用されています。保育者はその幅広い音楽のジャンルに対応して、継続的な音楽全般のレベルアップが必要となります。器楽に引き続き、就職試験や保育実務研修、ボランティア活動等で活用できるよう、弾き歌いや様々な楽器を取り入れながら個人レッスンとグループ演習を行い、演奏に対する応用力や様々な指導法を身につけていきます。

観点別評価

評価の観点 / 評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
発表	15	20	20	-	55
受講態度	-	15	-	30	45
合　計(点)	15	35	20	30	100

評価の特記事項	受講態度は、予習・復習も含めた学修への取り組み状況で評価します。
ＩＣＴ活用	iPadのアプリ等を使用した編曲
課題に対するフィードバック	毎回授業時に課題の確認を行い、個々に応じた練習方法を示していきます。
テキスト	『1～2年次で学んできた楽譜、各自持参の楽譜等』
参考書・教材	必要な資料は授業で配付します。

内容	
実施回	授業内容・目標
1	第1週 　授業の説明 　個人レッスン　（季節の歌を中心に・・・春） ［課題(復習)］コードと曲の復習 （1～2h） 第2週～第3週 　個人レッスン　（季節の歌を中心に・・・夏） 　グループ演習　（様々な楽器を使った童謡等のアレンジ：曲決めとパート決め） ［課題(復習)］コードと曲の復習 （各1～2h） 第4週～第6週 　個人レッスン　（季節の歌を中心に・・・秋・冬） 　グループ演習　（様々な楽器を使った童謡等のアレンジ：曲のアレンジ） [課題(復習)］コードと曲の復習 （各1～2h） 第7週～第10週 　個人レッスン　（愛唱歌を中心に） 　グループ演習　（様々な楽器を使った童謡等のアレンジ：個人練習とパート練習） ［課題(予習・復習)］コードと曲の復習、発表の曲選び （各1～2h） 第11週～第13週 　個人レッスン　（発表に向けての選曲　練習　） 　グループ演習　（様々な楽器を使った童謡のアレンジ：パート練習と合奏） ［課題(予習・復習)］グループ発表の練習、発表曲の弾き込み、発表曲についての内容を調べる。 （各1～2h） 第14週 　グループ発表・意見交流会、個人発表曲の仕上げ ［課題(予習・復習)］発表曲の弾き込み （1～2h） 第15週 　個人発表とまとめ

時間外での学修	保育現場で役立つ実力を身に付けるために毎日練習し、積極的に予習・復習を行ってください。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間:15時間】
受講学生へのメッセージ	積極的に学ぶ姿勢を最後まで持ち続け、保育技術を高めるための努力をしてください。毎回の授業でレベルアップしていきますので、常に体調を整えて遅刻・欠席しないように心がけましょう。 オフィスアワーは光井研究室（A307：A号館3F）で毎週木曜日16:10～16:40です。

【1C6S211】造形表現の展開Ⅰ	幼児教育学科		2年後期	
	1単位	選択必修	演習	30時間

教員	立崎　博則		
資格・制限等	特になし		
実務家教員			
授業方法	造形ワークショップを体験しその学びをまとめる。また、指導案を作成し、グループで発表する。		
到達目標	知識・理解	幼稚園教育において育みたい資質能力を理解し、造形ワークショップを通して、造形活動の指導法について説明できる。	◎
	思考・判断・表現	造形ワークショップでの制作の中で、自分の感じたことや考えたことを自分なりに表現し表現する楽しさを感じるとともに、造形活動の中で子ども達一人一人のの表現をどう引き出すかについて思考することができる。	◎
	技能	自らの造形表現の体験から具体的な指導場面を想定して、子ど　も達の発達や目的に応じ　た活動ふまえた指導案を作成することにより、指導・援助方法を技能を身につける。	○
	関心・意欲・態度	予習・復習・準備・片付けを積極的に行う。日々の生活の中で様々な美に対して関心を持ち、自らの好きだと感じる物を増やし友達と共感し合うことにより、表現を楽しむことができる。	△
	備考	◎･○･△の記号は、DP･到達目標との結びつきの強さを示しています。	

授業内容	造形表現の指導法について、様々な指導方法を造形ワークショップを実施し段階的に学んでいく。 また、授業後半は、指導案を作成し、グループでワークショップの実践をすることにより、実践的な技能を身につけることを目指す。

観点別評価

評価の観点 / 評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
作品	-	20	10	-	30
レポート	20	10	-	-	30
ポートフォリオ	10	10	10	10	40
合　計(点)	30	40	20	10	100

評価の特記事項	授業で説明します。
ＩＣＴ活用	Googleフォームやポートフォリオサイトを使い、作品などのフィードバクを行います。
課題に対するフィードバック	作品鑑賞をしコメントする時間を持ちます。授業内でレポートなどのふりかえりを行います。
テキスト	
参考書・教材	必要な資料は授業で配布します。

内容

実施回	授業内容・目標
1	オリエンテーション　授業説明　おりがみ指導 [課題（準備）]道具、環境、アイディアを整理しておきましょう。(0.5-1h) [課題（準備）]おりがみ図鑑の制作。(0.5-1h)
2	造形活動の指導法　保育者主導型の活動 [課題（準備）]道具、環境、アイディアを整理しておきましょう。(0.5-1h) [課題（準備）]おりがみ図鑑の制作。(0.5-1h)
3	造形活動の指導法　保育者主導型の活動 [課題（準備）]道具、環境、アイディアを整理しておきましょう。(0.5-1h) [課題（準備）]おりがみ図鑑の制作。(0.5-1h)
4	造形活動の指導法　保育者主導型の活動 [課題（準備）]道具、環境、アイディアを整理しておきましょう。(0.5-1h) [課題（準備）]おりがみ図鑑の制作。(0.5-1h)
5	造形活動の指導法　保育者誘導型の活動 [課題（準備）]道具、環境、アイディアを整理しておきましょう。(0.5-1h) [課題（準備）]おりがみ図鑑の制作。(0.5-1h)
6	造形活動の指導法　保育者誘導型の活動 [課題（準備）]道具、環境、アイディアを整理しておきましょう。(0.5-1h) [課題（準備）]おりがみ図鑑の制作。(0.5-1h)
7	造形活動の指導法　保育者誘導型の活動 [課題（準備）]道具、環境、アイディアを整理しておきましょう。(0.5-1h) [課題（準備）]おりがみ図鑑の制作。(0.5-1h)
8	造形活動の指導法　子ども主導型の活動 [課題（準備）]道具、環境、アイディアを整理しておきましょう。(0.5-1h) [課題（準備）]おりがみ図鑑の制作。(0.5-1h)
9	造形活動の指導法　子ども主導型の活動 [課題（準備）]道具、環境、アイディアを整理しておきましょう。(0.5-1h) [課題（準備）]おりがみ図鑑の制作。(0.5-1h)
10	造形活動の指導法　子ども主導型の活動 [課題（準備）]道具、環境、アイディアを整理しておきましょう。(0.5-1h) [課題（準備）]おりがみ図鑑の制作。(0.5-1h)
11	造形活動の設定と実践 [課題（準備）]道具、環境、アイディアを整理しておきましょう。(0.5-1h) [課題（準備）]おりがみ図鑑の制作。(0.5-1h)
12	造形活動の設定と実践 [課題（準備）]道具、環境、アイディアを整理しておきましょう。(0.5-1h) [課題（準備）]おりがみ図鑑の制作。(0.5-1h)
13	造形活動の設定と実践 [課題（準備）]道具、環境、アイディアを整理しておきましょう。(0.5-1h) [課題（準備）]おりがみ図鑑の制作。(0.5-1h)

内容	
実施回	授業内容・目標
14	造形活動の設定と実践 [課題（準備）]道具、環境、アイディアを整理しておきましょう。(0.5-1h) [課題（準備）]おりがみ図鑑の制作。(0.5-1h)
15	造形活動の指導のまとめ 自分の制作や活動を振り返る [課題（準備）]道具、環境、アイディアを整理しておきましょう。(0.5-1h) [課題（準備）]おりがみ図鑑の制作。(0.5-1h)

時間外での学修	・日々の生活の中で、アートやデザインについて主体的に興味を持って過ごし、自分の造形表現のヒントになる気づきをまとめてきてください。 ・定期的におりがみ課題を実施します。練習しいつでも披露できるよう準備してください。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間:15時間】
受講学生へのメッセージ	子ども達の「好き」（豊かな感性）を一緒に増やし、子ども達の「やってみたい！」（創造力）を支えることができるよう、造形表現について向き合ってください。 オフィスアワーは、研究室（H201）にて金曜日昼休みです。

【1C6A213】保育教材研究	幼児教育学科		2年後期	
	1単位	選択必修	演習	30時間

教員	光井　恵子		
資格・制限等	特になし		
実務家教員			
授業方法	オリジナル作品を制作に取り組み、グループ演習を通して互いの保育技術を高めていきます。		
到達目標	知識・理解	シアターの制作方法や演じ方について必要な知識を身に付け、説明することができる	△
	思考・判断・表現	対象年齢に合わせた有効な使い方、また子どもの気持ちや反応に判断しながら表現することができる	◎
	技能	オリジナルのシアターを用いて、様々な場面に合わせて演じることができる	◎
	関心・意欲・態度	豊かな感性を養い、理想の保育者像を描きながら、積極的に取り組むことができる	○
	備考	◎･○･△の記号は、DP･到達目標との結びつきの強さを示しています。	

授業内容	保育所や幼稚園等の現場における保育教材の一つであるエプロンシアター（視覚教材）を制作し、実習・研修で活用できるよう、操作方法や保育技術について学びます。

観点別評価

評価の観点 / 評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
作品	-	20	20	-	40
レポート	10	10	-	-	20
発表	-	10	10	-	20
受講態度	-	-	-	20	20
合　計(点)	10	40	30	20	100

評価の特記事項	受講態度は学修への取り組み、課題への取り組み、準備や後片付け等の状況を総合的に評価します
ＩＣＴ活用	
課題に対するフィードバック	毎回授業開始時に課題のチェックを行い、質問に応じていきます。
テキスト	
参考書・教材	作品制作に必要な材料は、指示に従って準備してください。資料は必要に応じて配付します。

内容

実施回	授業内容・目標
1	オリエンテーション シアターについて考える。 作品制作に必要な用具の準備等の説明 [課題(準備)]原案を考える。次回制作の準備（2h）
2	エプロンを制作する①　（布の裁断、かがり縫い） [課題(準備)]授業内で指示した制作、次回制作の準備（1～2h）
3	エプロンを制作する②（布の裁断、かがり縫い） [課題(準備)]授業内で指示した制作、次回制作の準備（1～2h）
第4回	ポケットに数字を縫い付ける① [課題(準備)]授業内で指示した制作、次回制作の準備（1～2h）
5	ポケットに数字を縫い付ける② [課題(準備)]授業内で指示した制作、次回制作の準備（1～2h）
6	マスコットを制作する① [課題(準備)]授業内で指示した制作、次回制作の準備（1～2h）
7	マスコットを制作する② [課題(準備)]授業内で指示した制作、次回制作の準備（1～2h）
8	マスコットを制作する③ [課題(準備)]授業内で指示した制作、次回制作の準備（1～2h）
第9回	エプロンやポケットに面ファスナーを縫い付ける① [課題(準備)]授業内で指示した制作、次回制作の準備（1～2h）
10	エプロンやポケットに面ファスナーを縫い付ける② [課題(準備)]授業内で指示した制作、次回制作の準備（1～2h）
11	エプロンにポケットを縫い付ける① [課題(準備)]授業内で指示した制作、次回制作の準備（1～2h）
12	エプロンにポケットを縫い付ける② [課題(準備)]授業内で指示した制作、次回制作の準備（1～2h）
13	作品完成、演じ方を学ぶ [課題(準備・予習)]作品完成、発表に向けての練習（1～2h）
14	グループでの作品発表交流会 [課題(復習)]発表に向けての練習（1～2h）
15	発表とまとめ [課題(復習)]実習等での発表に向けての反省点等をまとめる

時間外での学修	毎回の課題は必ず行い、制作が遅れないように忘れ物をしないようにしてください。 子どもたちが楽しめるシアター等の保育教材に関心を持つように心がけてみましょう。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間:15時間】
受講学生へのメッセージ	保育には様々な保育技術が必要です。特にシアター等の保育教材は手遊びや歌等と合わせて演じる機会が多いです。様々なレパートリーを準備し、積極的に演じる機会を見つけて、繰り返し演じることで自信をつけていきましょう。 オフィスアワー　　光井：火曜日（A307）16:10～16:40

【1C6S214】スポーツ・レクリエーションⅠ	幼児教育学科		2年後期	
	1単位	選択必修	演習	30時間

教員	垣添　忠厚・松岡　邦明		
資格・制限等	特になし		
実務家教員	垣添：特別支援学校教諭(18年)、小学校教諭(5年)		
授業方法	レクリエーション・インストラクターの資格取得を目指し、授業は主に体育館で実施します。		
到達目標	知識・理解	各種目の競技特性を理解し、実践することができる。	◎
	思考・判断・表現	保育者として、状況を把判断し、主体的に活動することができる。	○
	技能	学んだ知識や技能を保育や地域活動等で活かすことができる。	○
	関心・意欲・態度	レクリエーション・活動の中で仲間と協力することができる。	◎
	備考	◎･○･△の記号は、DP･到達目標との結びつきの強さを示しています。	

授業内容	子どもから大人まで幅広い年齢層で自分に合った軽スポーツやレクリエーションを楽しむ人が増加しています。コミュニケーションを深めるためのゲームやニュースポーツを中心にレクリエーション的な要素を取り入れながら実践します。また、スポーツ・レクリエーションに関する知的理解と指導法について学びます。10月8日（土）は、学外授業となります（授業時に説明します）。

観点別評価

評価の観点 / 評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
レポート	15	-	-	-	15
自己評価	15	-	-	-	15
発表	-	20	20	-	40
受講態度	-	-	-	30	30
合　計(点)	30	20	20	30	100

評価の特記事項	レポート、自己評価は毎回のレポートを基に評価します。実技は、イベントスタッフの実践の様子、イベント企画の発表を参考に評価します。受講態度は、毎時間の取り組みを評価します。
ＩＣＴ活用	日本レクリエーション協会公式ホームページ「レクぽ」を活用しレクリエーションの展開モデルを参考とする。
課題に対するフィードバック	ボランティア参加によるレポートを学生で共有します。
テキスト	『楽しさをとおした心の元気づくり』公益社団法人　日本レクリエーション協会　(1,980円)ISBN:978-4-931180-95-6 『レクリエーション支援の方法　楽しさをとおした心ん元気づくり　補助教材』公益財団法人　日本レクリエーション協会(880円)
参考書・教材	幼稚園教育要領解説、保育所保育指針、ほか必要に応じて配付します。

内容

実施回	授業内容・目標
1	ガイダンス/理論（レク科目2）：楽しさを通した心の元気づくりと対象者の心の元気 ・レクリエーションインストラクターの役割 ・楽しさを通した心の元気づくりの理解 ［課題（復習）］心の元気づくりに大切な要素をレポートにまとめる。（1h～2h）
2	理論(レク科目2)：心の元気と地域のきずな及び学外実習の説明 ・対象者のこころの元気づくりの理解 ［課題（復習）］学修した内容を振り返り、成果と課題をノートにまとめる。（1h～2h）
3	理論（レク科目6)：リスクマネジメント ・参加者が安全に楽しく参加できるイベントのあり方について考える [課題(復習）]ボランティアの参加を通して、具体的な方法をレポートにまとめる。
4	実技（レク科目4)：良好な集団づくりの方法１　（松岡） ・コミュニケーションワークⅠ（個人ゲーム） ［課題（予習）］個人ゲームについて理解し、手づくりのゲームを準備する。（1h～2h）
5	現場実習(レク科目7）：(学外実習）岐阜県レクリエーションフェスティバルのレクレーション体験コーナー（スタッフとして）１　12/27分補講 ［課題（予習・準備）］自己の当日の日程や役割を理解し、持ち物等を準備しておく。（1h～2h）
6	実技（レク科目4)：良好な集団づくりの方法２　（松岡） ・コミュニケーションワークⅡ（集団ゲーム） ［課題（予習）］集団ゲームについて理解し、手づくりのゲームを準備する。（1h～2h）
7	実技(科目4)：自主的主体的に楽しむ力を高める展開方法　（松岡） ・レクリエーションのハードル設定とアレンジ [課題(復習）]学修内容を振り返り、成果と課題をレポートにまとめる。
8	実技(レク科目5）：モデル・プログラムの習得１　（松岡） ・レクリエーション支援のための集団ゲーム１ [課題(復習）]学修内容を振り返り、成果と課題をレポートにまとめる。
9	実技（レク科目5）イベント企画１（グループ作り、計画準備） ・自主的、主体的にみんなで楽しめるイベント（クリスマスレクリエーション大会）を考え、計画する ［課題（予習）］クリスマス会に適したレクリエーションを提案できるよう考えをまとめる。（1h～2h）
10	実技（レク科目5)イベント企画２（企画準備・内容確認） ・仲間と協力して、分かりやすく楽しく活動できる計画に沿った準備をする。 ［課題（復習・準備）］クリスマス会の準備をし、ノートにまとめる（1h～2h）
11	演習：イベント企画３　クリスマスレクリエーション大会（発表１）、まとめ、ノート（課題）の確認 ［課題（復習）］クリスマス会を振り返り、後期の学修内容をノートにまとめる。（1h～2h）
12	演習：イベント企画４　クリスマスレクリエーション大会（発表２）、まとめ、ノート（課題）の確認 ［課題（復習）］クリスマス会を振り返り、後期の学修内容をノートにまとめる。（1h～2h）
13	10/8　現場実習(レク科目7）：(学外実習）岐阜県レクリエーションフェスティバルのレクレーション体験コーナー（スタッフとして）２　1/5分補講 ［課題（復習）］学外授業の内容をノートにまとめる。（1h～2h）

内容	
実施回	授業内容・目標
14	10/8　演習：(学外実習）岐阜県レクリエーションフェスティバルのレクレーション体験コーナー（スタッフとして）３　1/12補講分 ［課題（復習）］学外授業の内容をノートにまとめる。（1h～2h）
15	10/8　実技(レク科目5）：モデル・プログラムの習得２　現場での演習　　1/19補講分 ・レクリエーションフェスティバルのレクリエーションブース（集団ゲーム）を体験する。 [課題(復習）]学修内容を振り返り、成果と課題をレポートにまとめる。

時間外での学修	特定非営利活動法人岐阜県レクリエーション協会又は特定非営利活動法人大垣市レクリエーション協会主催の催しに積極的に参加すること（参加手続きが必要な場合が有ります）。【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：15～30時間】
受講学生へのメッセージ	スポーツやレクリエーションのおもしろさや達成感を十分に体験できるよう意欲的に取り組んでください。安全には十分に注意し、運動のできる服装と体育館シューズは必ず着用してください。 オフィスアワーは研究室（H203：Ⅱ号館2F)で毎週金曜日12：15～12：45です。